

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部設置								
フリガナ設置者	ガクウナガン メジガクイン 学校法人 明治学院								
フリガナ大学の名称	メイジガクインダイガク 明治学院大学 (Meiji Gakuin University)								
大学本部の位置	東京都港区白金台一丁目2番37号								
大学の目的	明治学院大学は、「キリスト教による人格教育」と学問の自由を基礎とし、広く教養を培うとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的応用能力を発揮させることを目的とする。								
新設学部等の目的	情報科学の根幹をなす数学力(数理解解力)をカリキュラムの根幹と位置付け、本学の建学の精神と教育理念を情報科学の見地から具現化するため、単なる技能・技術の修得ではなく情報技術をいかに人類社会の幸福追求のために用い、社会に貢献できるかを常に意識し、自ら考えることができる人材養成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	情報数理学部 [Faculty of Mathematical Informatics] 情報数理学科 [Department of Mathematical Informatics] 計	4年	80人	-	320人	学士 (情報数理学)	令和6年4月 第1年次	神奈川県横浜市 戸塚区上倉田町 1518番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	情報数理学部	講義	演習	実験・実習	計	124 単位			
教員組織	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	情報数理学部 情報数理学科	8人 (6)	5人 (5)	1人 (1)	0人 (0)	14人 (12)	0人 (0)	6人 (3)
		計	8 (6)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	14 (12)	0 (0)	- (-)
	既設	文学部 英文学科	13 (13)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	72 (72)
		フランス文学科	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	35 (35)
		芸術学科	11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	62 (62)
		経済学部 経済学科	14 (14)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	21 (21)	1 (1)	29 (29)
		経営学科	10 (10)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	21 (21)
		国際経営学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	22 (22)
		社会学部 社会学科	13 (13)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	35 (35)
	既設	社会福祉学科	11 (11)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	2 (2)	44 (44)
		法学部 法律学科	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	33 (33)
		政治学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	7 (7)
消費情報環境法学科		10 (10)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	1 (1)	25 (25)	

の 概 要	グローバル法学科		4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	8 (8)	
	国際学科	国際学科	18 (18)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	27 (27)	0 (0)	37 (37)	
		国際キャリア学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	10 (10)	0 (0)	17 (17)	
	心理学部	心理学科	9 (9)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	15 (15)	2 (2)	30 (30)	
		教育発達学科	11 (11)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	19 (19)	2 (2)	50 (50)	
	教職課程		2 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	25 (25)	
	教養教育センター		17 (17)	13 (13)	3 (3)	8 (8)	41 (41)	4 (4)	347 (347)	
	計		179 (179)	76 (76)	15 (15)	17 (17)	287 (287)	12 (12)	- (-)	
	合計		187 (185)	81 (81)	16 (16)	17 (17)	301 (299)	12 (12)	- (-)	
	教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
事務職員		253人 (253)		24 (24)		277人 (277)				
技術職員		7 (7)		18 (18)		25 (25)				
図書館専門職員		7 (7)		3 (3)		10 (10)				
その他の職員		0 (0)		0 (0)		0人 (0)				
計		267 (267)		45 (45)		312人 (312)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計				
	校舎敷地	208,442㎡	0㎡	0㎡		208,442㎡				
	運動場用地	74,001㎡	0㎡	0㎡		74,001㎡				
	小 計	282,443㎡	0㎡	0㎡		282,443㎡				
	そ の 他	1,280㎡	0㎡	0㎡		1,280㎡				
	合 計	283,723㎡	0㎡	0㎡		283,723㎡				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計					
	95,254㎡ (90,746㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		95,254㎡ (90,746㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設				
	149室	59室	34室	24室 (補助職員9人)		5室 (補助職員2人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数					
		情報数理学部			14 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共有部分 図書 1,165,860冊 〔424,228〕 学術雑誌 113,858種 〔88,423〕 電子ジャーナル 102,260〔83,966〕 視聴覚資料 9,850点		
	情報数理学部 情報数理学科	23,891〔8,474〕 (23,578〔8,474〕)	2,867〔2,804〕 (2,691〔2,628〕)	2,800〔2,800〕 (2,624〔2,624〕)	108 (108)	623 (11)	- (-)			
	計	23,891〔8,474〕 (23,578〔8,474〕)	2,867〔2,804〕 (2,691〔2,628〕)	2,800〔2,800〕 (2,624〔2,624〕)	108 (108)	623 (11)	- (-)			
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数						
	10,908㎡	1,222		1,267,775						
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	7,650㎡	弓道場		射撃場						
経 費 積 立 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費 (運用コストを含 む)を含む	
	教員1人当り研究費等		450千円	450千円	450千円	450千円	-	-		
	共同研究費等		2,982千円	2,982千円	2,982千円	2,982千円	-	-		
	図書購入費	4,030千円	4,389千円	4,441千円	4,493千円	4,573千円	-	-		
	設備購入費	31,968千円	27,286千円	42,566千円	8,102千円	8,963千円	-	-		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,579千円	1,379千円	1,379千円	1,379千円	-	-			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、手数料収入等								

大学等の名称	明治学院大学								備考	
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
既設大学等の状況	大学	4	2,950	-	11,800		0.97			
	文学部	4	505	-	2,020		0.99			
	英文学科	4	225	-	900	学士(英文学)	0.98	昭和24年		
	フランス文学科	4	115	-	460	学士(フランス文学)	0.99	昭和40年		
	芸術学科	4	165	-	660	学士(芸術学)	1.02	平成2年		
	経済学部	4	690	-	2,760		0.94		東京都港区白金台	
	経済学科	4	325	-	1,300	学士(経済学)	0.93	昭和24年	一丁目2番37号	
	経営学科	4	210	-	840	学士(経営学)	0.96	昭和27年	(3,4年次)	
	国際経営学科	4	155	-	620	学士(国際経営学)	0.92	平成18年		
	社会学部	4	490	-	1,960		0.99		神奈川県横浜市	
	社会学科	4	245	-	1,020	学士(社会学)	0.94	昭和24年	戸塚区上倉田町	
	社会福祉学科	4	245	-	940	学士(社会福祉学)	1.04	昭和40年	1518番地	
									(1,2年次)	令和4年度入学定員減(20人) 令和4年度入学定員増(20人)
	法学部	4	645	-	2,580		0.97			
	法律学科	4	200	-	800	学士(法学)	0.97	昭和41年		
	政治学科	4	155	-	900	学士(政治学)	0.96	平成2年		
	消費情報環境法学科	4	225	-	620	学士(法学)	0.97	平成12年		
	グローバル法学科	4	65	-	260	学士(法学)	0.98	平成30年		
	国際学部	4	300	-	1,200		0.97		神奈川県横浜市	
	国際学科	4	245	-	980	学士(国際学)	0.97	昭和61年	戸塚区上倉田町	
	国際キャリア学科	4	55	-	220	学士(国際学)	1.00	平成23年	1518番地	
	心理学部	4	320	-	1,280		0.97		東京都港区白金台	
	心理学科	4	175	-	700	学士(心理学)	0.98	平成16年	一丁目2番37号	
	教育発達学科	4	145	-	580	学士(教育発達学)	0.96	平成22年	(3,4年次)	
									神奈川県横浜市	
									戸塚区上倉田町	
									1518番地	
									(1,2年次)	
	大学院									
	文学研究科									
(博士前期課程)	2	28	-	56		0.50				
(博士後期課程)	3	10	-	30		0.46				
英文学専攻	2	10	-	20	修士(英文学)	0.45	昭和30年			
(博士前期課程)										
英文学専攻	3	2	-	6	博士(英文学)	0.16	昭和37年	東京都港区白金台		
(博士後期課程)								一丁目2番37号		
フランス文学専攻	2	8	-	16	修士(フランス文学)	0.31	平成12年			
(博士前期課程)										
フランス文学専攻	3	3	-	9	博士(フランス文学)	0.33	平成15年			
(博士後期課程)										

大学等の名称	明治学院大学								備考
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	
		年	人	年次 人	人		倍		
既 設 大 学 等 の 状 況	芸術学専攻 (博士前期課程)	2	10	-	20	修士(芸術学)	0.70	平成13年	東京都港区白金台 一丁目2番37号
	芸術学専攻 (博士後期課程)	3	5	-	15	博士(芸術学)	0.66	平成15年	
	経済学研究科 (博士前期課程)	2	10	-	20		0.15		
	経済学研究科 (博士後期課程)	3	6	-	18		0.16		
	経済学専攻 (博士前期課程)	2	10	-	20	修士(経済学)	0.15	昭和35年	
	経済学専攻 (博士後期課程)	3	3	-	9	博士(経済学)	0.11	平成元年	
	経営学専攻 (博士後期課程)	3	3	-	9	修士(経営学)	0.22	平成元年	
	社会学研究科 (博士前期課程)	2	20	-	40		0.42		
	社会学研究科 (博士後期課程)	3	5	-	15		0.20		
	社会学専攻 (博士前期課程)	2	10	-	20	修士(社会学)	0.25	昭和42年	
	社会学専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	博士(社会学)	0.16	平成18年	
	社会福祉学専攻 (博士前期課程)	2	10	-	20	修士(社会福祉学)	0.60	昭和35年	
	社会福祉学専攻 (博士後期課程)	3	3	-	9	博士(社会福祉学)	0.22	平成18年	
	法学研究科 (博士後期課程)	3	5	-	15		0.13		
	法律学専攻 (博士後期課程)	3	5	-	15	博士(法学)	0.13	昭和47年	
	国際学研究科 (博士前期課程)	2	10	-	20		0.35		神奈川県横浜市 戸塚区上倉田町 1518番地
	国際学研究科 (博士後期課程)	3	2	-	6		0.16		
	国際学専攻 (博士前期課程)	2	10	-	20	修士(国際学)	0.35	平成2年	
	国際学専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	博士(国際学)	0.16	平成4年	

大学の名称	明治学院大学								備考
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
既設大学等の状況	心理学研究科 (博士前期・修士課程)	2	30	-	60		0.60		東京都港区白金台一丁目2番37号
	(博士後期課程)	3	4	-	12		0.33		
	心理学専攻 (博士前期課程)	2	20	-	40	修士(心理学)	0.75	平成16年	
	心理学専攻 (博士後期課程)	3	4	-	12	博士(心理学)	0.33	平成19年	
	教育発達学専攻 (修士課程)	2	10	-	20	修士(教育発達学)	0.30	平成28年	
	法と経営学研究科 (修士課程)	2	20	-	40		0.77		
	法と経営学専攻 (修士課程)	2	20	-	40	修士(法と経営学)	0.77	平成27年	
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(情報数理学部情報数理学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
1 年次 必修	数理と情報	1前	2			○			8	5	1				オムニバス 兼 1 兼 1 兼 1 兼 1
	線形代数A	1前	2			○			2		1				
	線形代数B	1後	2			○			2		1				
	基礎数学演習1A	1前	1				○			2	1				
	基礎数学演習1B	1後	1				○			2	1				
	解析学A	1前	2			○			1	1	1				
	解析学B	1後	2			○			1	1	1				
	基礎数学演習2A	1前	1				○			2	1				
	基礎数学演習2B	1後	1				○			2	1				
	コンピュータとクラウドシステム	1前	2			○			2	2					
	初級プログラミング	1後	2			○			1	4					
情報倫理	1後	2			○			3							
小計 (12科目)	—	20	0	0	—	—	—	8	5	1	0	0	兼 1		
基礎 科目 群 A	統計の数理	2前	2			○			1	2					兼 1 兼 1 兼 1
	情報理論	2後	2			○			2						
	人工知能	2前		2		○			1						
	人工知能演習	2前		1			○		1						
	情報のための論理と数学	2前		2		○					1				
	最適化の数理	2前		2		○			3						
	離散数学	2後		2		○			2						
	離散数学演習	2後		1			○		2						
	計算理論	2後		2		○			1						
	量子情報の基礎	2後		2		○			2						
小計 (10科目)	—	4	14	0	—	—	—	5	2	1	0	0	兼 2	—	
基礎 科目 群 B	システムプログラミング	2前	2			○			1	1					兼 0
	データ構造とアルゴリズム	2後	2			○			1						
	データ駆動型社会とデータサイエンス	2前		2		○			1						
	インターネット技術	2前		2		○			1						
	データ可視化演習	2前		1			○		1	1					
	ロボティクス	2前		2		○				1					
	応用統計学	2後		2		○				1					
	応用統計学演習	2後		1			○			1					
	多変量データ解析	2後		2		○				1					
	基盤ソフトウェア演習	2後		1			○		1						
小計 (10科目)	—	4	13	0	—	—	—	4	4		0	0	兼 0	—	
社会 と 情報	情報システムと社会	2後		2		○			1						兼 1 兼 1 兼 1 兼 1 兼 1 兼 1
	職業と倫理	2後		2		○									
	実験社会科学	3前		2		○			1						
	知的財産権とその実務	3前		2		○									
	AIと法	3前		2		○									
	情報と法	3後		2		○									
	Current Affairs A	1前		2		○									
	Current Affairs B	1後		2		○									
	Business English A	3前		2		○									
	Business English B	3後		2		○									
小計 (10科目)	—	0	20	0	—	—	—	2	0	0	0	0	兼 4	—	
P B L	Project Based Learning	3後	2				○		4	2					兼 1
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—	—	—	4	2		0	0	兼 1	—
卒業 研究	卒業研究	4通	6				○		8	5	1				兼 0
	英語文献講読	4前	2				○		8	5	1				
小計 (2科目)	—	8	0	0	—	—	—	8	5	1	0	0	兼 0	—	

コース科目	数理・量子情報コース	符号と暗号の数理	3前		2		○			1						兼	1		
		情報幾何学	3前		2		○			2		1							
		数理モデリング	3前		2		○				1								
		量子情報理論	3前		2		○			1							兼	1	
		量子ネットワーク	3後		2		○			1									
		量子コンピューティング	3後		2		○			1							兼	1	
		数値シミュレーション	3後		2		○					1							
		小計 (7科目)	—	0	14	0	—			3	2	1	0	0		兼	2	—	
	AI・データサイエンスコース	AIとデータサイエンスの数理	3前		2		○				1						兼	1	
		パターン認識と機械学習	3前		2		○				1								
		自然言語処理	3前		2		○										兼	1	
		データマイニングとビッグデータ	3前		2		○				1								
時系列データ解析		3後		2		○				1									
認知心理学		3後		2		○			1										
シグナルプロセッシング		3後		2		○				1									
計算社会科学		3後		2		○			1										
小計 (8科目)	—	0	16	0	—			1	1	0	0	0		兼	2	—			
セキュリティシステム・情報システム	コンピュータシステム	3前		2				○		1									
	情報セキュリティ	3前		2		○			1										
	プロセッサ・アクセラレータ構成法	3前		2		○			1										
	組み込みシステムとIoT	3前		2		○			1	1									
	データベースシステム	3後		2		○			1										
	オペレーティングシステム	3後		2		○			1										
	コンピュータグラフィックス	3後		2		○										兼	1		
	コンピュータビジョン	3後		2		○					1								
小計 (8科目)	—	0	16	0	—			3	1	0	0	0		兼	1	—			
明治学院共通科目	コア科目	キリスト教の基礎A	1前		2		○									兼	1		
		キリスト教の基礎B	1後		2		○									兼	1		
	言語系科目	1 基礎科目	英語コミュニケーション1A	1前		1		○									兼	3	
			英語コミュニケーション1B	1後		1		○									兼	3	
英語コミュニケーション2A			1前		1		○									兼	3		
英語コミュニケーション2B			1後		1		○									兼	3		
フランス語1A		1前		1		○									兼	1			
フランス語1B		1後		1		○									兼	1			
フランス語2A		1前		1		○									兼	1			
フランス語2B		1後		1		○									兼	1			
フランス語演習初級A		1前		1				○							兼	1			
フランス語演習初級B		1後		1				○							兼	1			
中国語1A		1前		1		○									兼	1			
中国語1B		1後		1		○									兼	1			
中国語2A		1前		1		○									兼	1			
中国語2B		1後		1		○									兼	1			
中国語演習初級A		1前		1				○							兼	1			
中国語演習初級B		1後		1				○							兼	1			
ドイツ語1A		1前		1		○									兼	1			
ドイツ語1B		1後		1		○									兼	1			
ドイツ語2A	1前		1		○									兼	1				
ドイツ語2B	1後		1		○									兼	1				
ドイツ語演習初級A	1前		1				○							兼	1				
ドイツ語演習初級B	1後		1				○							兼	1				
スペイン語1A	1前		1		○									兼	1				
スペイン語1B	1後		1		○									兼	1				
スペイン語2A	1前		1		○									兼	1				
スペイン語2B	1後		1		○									兼	1				
スペイン語演習初級A	1前		1				○							兼	1				
スペイン語演習初級B	1後		1				○							兼	1				
ロシア語1A	1前		1		○									兼	1				
ロシア語1B	1後		1		○									兼	1				
ロシア語2A	1前		1		○									兼	1				
ロシア語2B	1後		1		○									兼	1				
韓国語1A	1前		1		○									兼	1				
韓国語1B	1後		1		○									兼	1				

		ロシア語研究4A	3前	2	○														兼	1	
		ロシア語研究4B	3後	2	○														兼	1	
		韓国語研究3A	2前	2	○														兼	1	
		韓国語研究3B	2後	2	○														兼	1	
情報処理系科目群	1 基礎科目	コンピュータリテラシー1	1前	2	○														兼	2	
		コンピュータリテラシー2	1後	2	○														兼	1	
	2 応用科目	情報科学1	1前	2	○														兼	1	
		情報科学2	1後	2	○														兼	1	
情報科学3		1前	2	○														兼	1		
		情報科学4	1後	2	○														兼	1	
人文科学系科目群	1 基礎科目	哲学史1	1前	2	○														兼	1	
		哲学史2	1後	2	○														兼	1	
		倫理学入門1	1前	2	○														兼	1	
		倫理学入門2	1後	2	○															兼	1
		心理学入門1	1前	2	○															兼	1
		心理学入門2	1後	2	○															兼	1
		教育学の基礎1	1前	2	○															兼	1
		教育学の基礎2	1後	2	○															兼	1
		日本文学概論1	1前	2	○															兼	2
		日本文学概論2	1後	2	○															兼	2
		日本文化論入門1	1前	2	○															兼	1
		日本文化論入門2	1後	2	○															兼	1
		日本文化論入門3	1前	2	○															兼	1
		日本文化論入門4	1後	2	○															兼	1
		2 応用科目	宗教史1	1前	2	○														兼	1
	宗教史2		1後	2	○															兼	1
	宗教史3		1前	2	○															兼	1
	宗教史4		1後	2	○															兼	1
	現代社会とキリスト教1		1前	2	○															兼	1
	現代社会とキリスト教2		1後	2	○															兼	1
	現代社会とキリスト教3		1前	2	○															兼	1
	現代社会とキリスト教4		1後	2	○															兼	1
	哲学各論1		1前	2	○															兼	1
	哲学各論2		1後	2	○															兼	1
	科学思想1		1前	2	○															兼	1
	科学思想2		1後	2	○															兼	1
	倫理学各論1		1前	2	○															兼	1
	倫理学各論2		1後	2	○															兼	1
	伝統論理学1		1前	2	○															兼	1
	伝統論理学2		1後	2	○															兼	1
	心理学各論1		2前	2	○															兼	1
	心理学各論2		2後	2	○															兼	1
	心理学各論3		2前	2	○															兼	1
	心理学各論4		2後	2	○															兼	2
	芸術学各論1		1前	2	○															兼	1
	芸術学各論2		1後	2	○															兼	1
	芸術学各論3		1前	2	○															兼	1
	芸術学各論4		1後	2	○															兼	1
	日本文学講読1		1前	2	○															兼	1
	日本文学講読2		1後	2	○															兼	1
	日本文学講読3		1前	2	○															兼	1
日本文学講読4	1後	2	○															兼	1		
社会科学系科目群	1 基礎科目	法学(日本国憲法を含む) 1	1前	2	○														兼	1	
		法学(日本国憲法を含む) 2	1後	2	○														兼	1	
		政治学1	1前	2	○														兼	1	
		政治学2	1後	2	○															兼	1
		社会学理論の基礎1	1前	2	○															兼	1
		社会学理論の基礎2	1後	2	○															兼	1
		文化とアイデンティティの社会学入門1	1前	2	○															兼	1
		文化とアイデンティティの社会学入門2	1後	2	○															兼	1
		生命とアイデンティティの社会学入門1	1前	2	○															兼	1
		生命とアイデンティティの社会学入門2	1後	2	○															兼	1

		環境とコミュニティの社会学入門1	1前	2	○															兼	1
		環境とコミュニティの社会学入門2	1後	2	○															兼	1
		社会福祉学1	1前	2	○															兼	1
		社会福祉学2	1後	2	○															兼	1
		経済学1	1前	2	○															兼	1
		経済学2	1後	2	○															兼	1
		統計学1	1前	2	○															兼	1
		統計学2	1後	2	○															兼	1
		統計学3	1前	2	○															兼	1
		統計学4	1後	2	○															兼	1
		人文地理学入門1	1前	2	○															兼	1
		人文地理学入門2	1後	2	○															兼	1
		文化人類学入門1	1前	2	○															兼	1
		文化人類学入門2	1後	2	○															兼	1
		社会科学概論1	1前	2	○															兼	1
		社会科学概論2	1後	2	○															兼	1
	2 応用科目	歴史学1	1前	2	○															兼	1
		歴史学2	1後	2	○															兼	1
		歴史学3	1前	2	○															兼	1
		歴史学4	1後	2	○															兼	1
		歴史学5	1前	2	○															兼	1
		歴史学6	1後	2	○															兼	1
		人文地理学1	1前	2	○															兼	1
		人文地理学2	1後	2	○															兼	1
		文化人類学各論1	1前	2	○															兼	1
		文化人類学各論2	1後	2	○															兼	1
自然科学系科目群	1 基礎科目	数学入門1	1前	2	○															兼	1
		数学入門2	1後	2	○															兼	1
		数学1	1前	2	○															兼	1
		数学2	1後	2	○															兼	1
		数学3	1前	2	○															兼	1
		数学4	1後	2	○															兼	1
		物理学入門1	1前	2	○					1										兼	1
		物理学入門2	1前	2	○						1									兼	1
		物理学方法論A	1前	2					○	1		1								兼	1
		物理学方法論B	1後	2					○	1		1								兼	1
		化学入門1	1前	2	○															兼	1
		化学方法論A	1前	2					○											兼	1
		化学方法論B	1後	2					○											兼	1
		生物学入門1	1前	2	○															兼	1
		生物学入門2	1前	2	○															兼	1
		生物学方法論A	1前	2					○											兼	1
		生物学方法論B	1後	2					○											兼	1
		生命科学入門1	1前	2	○															兼	1
		生命科学入門2	1後	2	○															兼	1
		生命科学方法論A	1前	2					○											兼	1
		生命科学方法論B	1後	2					○											兼	1
	2 応用科目	現代の物理学1	1後	2	○					1										兼	1
		現代の物理学2	1後	2	○						1									兼	1
		現代の化学1	1前	2	○															兼	1
		現代の化学2	1後	2	○															兼	1
		現代の化学3	1前	2	○															兼	1
		現代の生物学1	1前	2	○															兼	1
		現代の生物学2	1後	2	○															兼	1
		現代の生物学3	1前	2	○															兼	1
		現代の生物学4	1後	2	○															兼	1
		現代の生物学5	1前	2	○															兼	1
		生物学特論	1後	2	○															兼	1
		生命科学各論1	1前	2	○															兼	1
		生命科学各論2	1後	2	○															兼	1
		生命科学各論3	1前	2	○															兼	1
		生命科学特論	1後	2	○															兼	1

健康・スポーツ科学系科目群	1 基礎科目	健康科学概論1	1前	2	○								兼	1		
		健康科学概論2	1後	2	○									兼	1	
		スポーツ科学概論1	1前	2	○									兼	1	
		スポーツ科学概論2	1後	2	○									兼	1	
		スポーツ社会学概論1	1前	2	○									兼	1	
		スポーツ社会学概論2	1前	2	○									兼	1	
		スポーツ方法学1	1前	2				○						兼	1	
		スポーツ方法学2	1後	2				○						兼	1	
		スポーツ方法学3	1前	2				○						兼	1	
		スポーツ方法学4	1後	2				○						兼	1	
		シースンスポーツ研究1A	1前	2				○						兼	1	
		シースンスポーツ研究2A	1前	2				○						兼	1	
		シースンスポーツ研究3A	1後	2				○						兼	1	
		2 応用科目	トレーニング科学理論・実習1	1前	2				○						兼	1
バイオメカニクス理論・実習1	1前		2				○						兼	1		
シースンスポーツ研究1B	1前		2				○						兼	1	集中	
シースンスポーツ研究2B	1前		2				○						兼	1	集中	
シースンスポーツ研究3B	1後		2				○						兼	1	集中	
総合教育系科目群	1 基礎科目	多文化共生入門1	1前	2	○								兼	1		
		多文化共生入門2	1後	2	○								兼	1		
		グローバルシチズンシップ 入門1	1前	2	○								兼	1		
		グローバルシチズンシップ 入門2	1後	2	○								兼	1		
		現代平和研究1	1前	2	○								兼	1		
		現代平和研究2	1後	2	○								兼	1		
		環境学各論3	1前	2	○								兼	1		
		環境学各論4	1後	2	○								兼	1		
		サステイナビリティ学1	1前	2	○								兼	1		
		サステイナビリティ学2	1後	2	○								兼	1		
		ボランティア学入門1	1前	2	○								兼	1		
		ボランティア学入門2	1後	2	○								兼	1		
		ボランティア学入門3	1前	2	○								兼	1		
		ボランティア学入門4	1後	2	○								兼	1		
		グローバル社会と市民活動入門1	1前	2	○								兼	1		
		グローバル社会と市民活動入門2	1後	2	○								兼	2		
		ボランティア・市民活動論(国内)1A	1前	2	○								兼	2		
		アカデミックライティングの基礎	1前・後	2	○								兼	3		
		ライティング1	1後	2	○								兼	2		
		キャリアデザイン1	2前	2	○								兼	1		
		日本の社会と文化1A	1前	2	○								兼	2		
		日本の社会と文化1B	1後	2	○								兼	2		
		異文化コミュニケーション研究A	1前	2	○								兼	1		
		異文化コミュニケーション研究B	1後	2	○								兼	1		
		ウォークン実習1	2前	2				○					兼	1		
		ヨーロッパ研究(短期留学)	1前	4				○					兼	1	集中	
		イギリス研究(短期留学)	1前	4				○					兼	1	集中	
		スペイン研究(短期留学)	1前	4				○					兼	1	集中	
		ドイツ研究(短期留学)	1前	4				○					兼	1	集中	
		フランス研究(短期留学)	1前	4				○					兼	1	集中	
		アメリカ研究(短期留学)	1前	4				○					兼	1	集中	
		カナダ研究(短期留学)	1前	4				○					兼	1	集中	
		韓国研究(短期留学)	1前	4				○					兼	1	集中	
		中国研究(短期留学)	1前	4				○					兼	1	集中	
		オーストラリア研究(短期留学)	1前	4				○					兼	1	集中	
		東南アジア研究(短期留学)	1前	4				○					兼	1	集中	
		アメリカ研究(中期留学)基礎1	1前	1				○					兼	1		
		アメリカ研究(中期留学)基礎2	1前	1				○					兼	1		
		アメリカ研究(中期留学)基礎3	1前	1				○					兼	1		
		アメリカ研究(中期留学)基礎4	1前	1				○					兼	1		
アメリカ研究(中期留学)基礎5	1前	1				○					兼	1				
アメリカ研究(中期留学)基礎6	1前	1				○					兼	1				
アメリカ研究(中期留学)応用1	1前	2				○					兼	1				
アメリカ研究(中期留学)応用2	1前	2				○					兼	1				

	アメリカ研究(中期留学)応用3	1前		2																兼	1			
	アメリカ研究(中期留学)応用4	1前		2																	兼	1		
	アメリカ研究(中期留学)応用5	1前		2																	兼	1		
	アメリカ研究(中期留学)応用6	1前		2																	兼	1		
	アメリカ研究(中期留学)発展1	1前		3																	兼	1		
	アメリカ研究(中期留学)発展2	1前		3																	兼	1		
	アメリカ研究(中期留学)発展3	1前		3																	兼	1		
	アメリカ研究(中期留学)発展4	1前		3																	兼	1		
	アメリカ研究(中期留学)発展5	1前		3																	兼	1		
	アメリカ研究(中期留学)発展6	1前		3																	兼	1		
	海外インターンシップ 課題研究A	1前		2																	兼	1		
	海外インターンシップ 課題研究B	1後		2																	兼	1		
2 応用 科目	多文化共生各論1	1前		2																	兼	1		
	多文化共生各論2	1後		2																	兼	1		
	多文化共生各論3	1前		2																	兼	1		
	多文化共生各論4	1後		2																	兼	1		
	グローバル・リサーチ・シップ 各論1	1前		2																	兼	1		
	グローバル・リサーチ・シップ 各論2	1後		2																	兼	1		
	グローバル・リサーチ・シップ 各論3	1前		2																	兼	1		
	グローバル・リサーチ・シップ 各論4	1後		2																	兼	1		
	ボランティア・市民活動論(国内)1B	1後		2																		兼	2	
	ボランティア・市民活動実習(国内)	1後		2																		兼	2	
	アカデミック・ライティング 演習1	1前・後		2																		兼	3	
	ライフデザイン2	2前		2																		兼	2	
	キャリアデザイン2	2前		2																		兼	1	
	スタディーツアー-1	1後		2																		兼	1	
	スタディーツアー-3	1後		2																		兼	1	
	スタディーツアー-4	1後		2																		兼	1	
	オルガン実習2	2後		2																		兼	1	
	Japanese History 1	1前		2																		兼	1	
	Japanese History 2	1後		2																		兼	1	
	Japanese History 5	1前		2																		兼	1	
	Japanese History 6	1後		2																		兼	1	
	Japanese Society 5	1前		2																		兼	1	
Japanese Society 6	1後		2																		兼	1		
Current Issues 3	1前		2																		兼	1		
Current Issues 4	1後		2																		兼	1		
科 発 展 目 展	アジア・日本研究A	3前		2																	兼	1		
	アジア・日本研究B	3後		2																	兼	1		
特別学科 科目	社会学概論A	1前		2																	兼	1		
	社会学概論B	1後		2																	兼	1		
小計 (387科目)		—	8	704	0	—						2	1	0	0	0					兼	91	—	
合計 (455科目)		—	46	797	0	—						8	5	1	0	0					兼	98	—	

集中
集中
集中

学位又は称号	学士 (情報数理学)	学位又は学科の分野	理学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
<p>情報数理学部情報数理学科の卒業必要単位数は124単位とする。なお、1年間に履修できる単位数は48単位を限度とする。</p> <p>学科科目の必要単位数は合計84単位とする。1・2年次までの必修科目16科目28単位、選択必修科目6単位を必要とし、社会と情報科目群から4単位を選択する。3・4年次では、選択コースの科目群から選択必修科目2単位（コース修了要件として、数理・量子情報コースでは「符号と暗号の数理」、AI・データサイエンスコースでは「AIとデータサイエンスの数理」、情報システム・セキュリティコースでは「コンピュータシステム」を必ず選択する）を含む計12単位を選択し、PBL科目2単位および卒業研究・英語文献講読の8単位を必修とする。残り24単位については、選択したコースによらず、他コースの科目群も含めて自由選択可能とする。</p> <p>明治学院共通科目の必要単位数は24単位とし、英語科目4単位、キリスト教の基礎4単位を必修とする。また、共通科目のうち、第二外国語から4単位、自然科学系科目群および情報処理系科目群から4単位をそれぞれ選択することとし、残りの8単位を自由選択とする。</p> <p>その他フリーゾーンとして、16単位については明治学院共通科目、学科科目のいずれからも取得可として取扱う。</p>			1 学年の学期区分	2 期
			1 学期の授業期間	1 5 週
			1 時限の授業時間	9 0 分

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
(情報数理学部情報数理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科共通科目	1年次必修	<p>情報数理学科では数理学の考え方を基礎に情報科学の理解を深めることを目標としている。本学科での学びをスタートする前に、数理がどのように情報科学の各分野に影響を及ぼし重要な役割を果たしているのか、学科所属の専任教員によるリレー形式の講義でその全体像を俯瞰する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科カリキュラムの各科目の学びが数理学という視点でどのようにつながっているのかを理解し、これからの履修科目の意義を理解できる。 ・情報数理学の全体像を俯瞰的な立場で見ることができ、将来のキャリアパスまでを見据えた今後の学修の道筋を自ら見出すことができる。 <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 太田 和俊/第1回) 授業概要と教員紹介 (3 穴田 啓晃/第2回) 情報セキュリティ (9 阿部 香澄/第3回) ロボット技術 (4 稲葉 真理/第4回) 情報ネットワーク (1 今井 浩/第5回) 情報数理学 (2 太田 和俊/第6回) 情報と物理学 (10 小串 典子/第7回) 複雑ネットワークの科学 (11 加堂 大輔/第8回) 数値シミュレーション (5 亀田 達也/第9回) 社会と情報 (14 川島 誠/第10回) 情報と数学 (12 酒井 一博/第11回) 情報と宇宙 (13 佐々木 博昭/第12回) 機械学習入門 (6 永田 毅/第13回) 画像処理とAI (7 宮寺 隆之/第14回) 量子情報 (8 和田 康孝/第15回) コンピュータアーキテクチャ</p>	オムニバス方式
		<p>線形代数A</p> <p>線形代数は現代の情報科学や数理学を学ぶための必須の基礎知識である。高校数学からの接続を含め、線形代数の基礎から実践的な計算技術までを学修する。ベクトル空間、行列、行列式、逆行列といった概念の定義と性質を学修し、連立一次方程式の解法への応用について学ぶ。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線形空間の概念を理解し、ベクトルや行列を使った計算ができる。 ・与えられた連立一次方程式に対して、行列式や逆行列の役割を理解し、方程式の解と線型独立、線形従属といった概念の関係を理解できる。 	
		<p>線形代数B</p> <p>線形代数Aからのつながりとして、行列の対角化、固有値、固有ベクトル、1次変換といった内容を学修する。線形代数の応用として空間図形とのつながりや複素平面との関係について理解する。また、ベクトルや行列を複素線型空間に拡張することの意味やその性質について学ぶ。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた行列に対してその固有値や固有ベクトルを求めることができる。 ・行列の固有値や固有ベクトルの意味と役割を理解している。 ・線型空間と空間図形との関係を理解し、複素線型空間への拡張の意味を理解している。 ・この授業で扱った概念について、具体例を使った問題を解くことができる。 	
		<p>基礎数学演習1A</p> <p>「線形代数A」の講義で学修した内容を中心に、各学修項目に関する問題演習を行う。特に、ベクトルの演算、行列式および逆行列の計算を通じて、ベクトルの変換や高次元空間での幾何学的な意味も含めて理解を深める。演習では解けなかった問題や理解が不足していた問題について、その場での復習を行い、自力で解答できるまで練習を繰り返す。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「線形代数A」に関連した問題に自力で解答できるようになる。 ・平面や高次元空間でのベクトルの基本的な演算を行うことができる。 ・一般の行列に対して、行列式や逆行列を求めることができる。 ・反復問題演習を通じて線形代数の概念や感覚を身につけ、将来の情報数理学の学修に応用することができる。 	

基礎数学演習1B	<p>「線形代数B」の講義で学修した内容を中心に、各学修項目に関する問題演習を行う。特に、ベクトルおよび行列の計算の応用として、連立1次方程式の解法や固有値の計算、行列の対角化を習得する。また、ベクトル・行列の応用として、2次形式の図形としての幾何学的な意味やその変換・写像の方法について理解を深める。演習では解けなかった問題や理解が不足していた問題について、その場での復習を行い、自力で解答できるまで練習を繰り返す。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「線形代数B」に関連した問題に自力で解答できるようになる。 ・行列を用いて、連立1次方程式の問題を解くことができる。 ・行列の固有値を求め、対角化を行うことができる。 ・2次形式の空間図形としての意味を理解し、その変換や写像を行列を用いた計算を通じて理解でき、複素行列やユニタリー行列といった実行列の拡張についても取り扱うことができる。 ・反復問題演習を通じて線形代数の概念や感覚を身につけ、将来の情報数理の学修に応用することができる。 	
解析学A	<p>解析学は情報科学や数理科学の学修において道具となる関数の性質や微分・積分法について取り扱う。この授業では主に1変数の関数の微分や積分を扱い、関数を解析する方法を学ぶ。また、微分や積分を用いて関数を展開する手法や求積法についても学修する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1変数の微分積分学について高等学校で学んだ事柄を発展させ、情報科学に必要な基礎学力を修得している。 ・1変数の関数について、その性質や微分・積分の意味を理解している。 ・微分の応用として関数の展開や近似式の導出を行うことができ、積分の応用として曲線で囲まれた図形の面積や曲線の長さを求めることができる。 	
解析学B	<p>この授業では、「解析学A」からの接続として、多変数関数(主に2変数関数)の微分積分学の基本的な性質を学ぶ。個々の変数に対する偏微分を通じて、関数が定義されている空間の幾何学的な意味について学修する。特に、関数の極大や極小の求め方やラグランジュの乗数法は情報科学においても、最適化の方法や機械学習にも幅広く応用されるので、良く理解する必要がある。また、多変数関数の多重積分を通じて、高次元空間における求積法についても幾何学的なイメージを含めて学修する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報科学に必要な多変数関数(主に2変数関数)の微分積分の基本的な性質について理解し、使いこなせる。 ・多変数関数に対して、偏微分や全微分の幾何学的なイメージも含めて理解し、極大・極小や展開などの近似式を求めることができる。 ・多変数関数の高次元空間での意味を理解し、表面積や体積、さらにその高次元対応物について多重積分を用いて求めることができる。 	
基礎数学演習2A	<p>「解析学A」の講義で学修した内容を中心に、1変数関数の微分法と積分法の基本的な性質について問題演習を行い、理解を深める。特に、1変数関数に対する微分や積分の計算を通じて、関数の極大・極小や展開、求積法に関する理解を深める。演習では解けなかった問題や理解が不足していた問題について、その場での復習を行い、自力で解答できるまで練習を繰り返す。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「解析学A」の学修内容に関連した問題に自力で解答できるようになる。 ・情報科学に必要な1変数関数の微分法と積分法の基本的な性質を使いこなせるようになる。 ・1変数関数に対して、微分や積分の計算を行い、それらを応用して関数の展開や曲線で囲まれた図形の面積や曲線の長さを求めることができる。 	

基礎数学演習2B	<p>「解析学B」の講義で学修した内容を中心に、多変数関数(主に2変数関数)の微分法と積分法の基本的な性質について問題演習を行う。特に、多変数関数に対して、偏微分や全微分といった計算練習を行い、関数の展開や極大・極小を拘束条件を含めた計算手法を習得する。また、多重積分の計算を通じて、表面積や体積、およびその高次元対応物について、具体的な問題を通じた解法を学ぶ。演習では解けなかった問題や理解が不足していた問題について、その場での復習を行い、自力で解答できるまで練習を繰り返す。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「解析学B」に関連した問題に自力で解答できるようになる。 ・多変数関数に対して、偏微分や全微分、多重積分といった計算を行うことができる。 ・多変数関数に対する微分・積分法を応用して、関数の展開や極大・極小、表面積や体積といった計算ができる。 ・反復問題演習を通じて線形代数の概念や感覚を身につけ、情報科学に必要な多変数関数(主に2変数関数)の微分法と積分法の基本的な性質を使いこなせるようになる。 	
コンピュータとクラウドシステム	<p>我々の住む現代社会では、様々な用途でコンピュータが利用され、複雑な問題の解決や社会の効率化に役立てられている。この授業では、コンピュータの基本的な原理やコンピュータを使った情報処理の手法について、基礎的な事柄を幅広く学修する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの仕組みやデータの表現、ハードウェアとソフトウェアの種類・役割について説明できる。 ・Microsoft Office(Word, Excel, PowerPoint)とTeXが使える。 ・ネットワークの基礎的な内容を理解し、説明できる。 ・htmlを使って簡単なWebページが作成できる。 ・Unix環境でコマンドラインからPCが操作でき、vimやemacsなどのテキストエディタが使える。 ・クラウドシステムについて理解し、それを利用できる。 ・emailやインターネットを利用する上でのエチケットやモラルが分かっている。 	
初級プログラミング	<p>現代社会の複雑な問題に対して、コンピュータ・プログラムを使ったアプローチの重要性が増している。この授業では、プログラミング言語Pythonの基本的な内容について学修する。コンピュータが目的の動作をするプログラムをどのように書けば良いか、Pythonプログラミングの学修を通して、実用的な知識を増やしていく。最終的には、簡単な問題に対して、自分でプログラムが書けるレベルへの到達を目指す。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Pythonの基礎知識(変数、演算、入出力、関数、リスト、クラスなど)を習得する。 ・条件分岐・反復処理と関数を組み合わせて、簡単なプログラムが作成できる。 ・自力でプログラムの間違い(バグ)を見つけて修正し、プログラムが完成できる。 ・Matplotlibを用いて、グラフを描くことができる。 ・ファイルへの入出力の方法が分かっている。 ・プログラムを読んで、記述内容を理解した上で、その内容が説明できる。 ・意図した動作をする可読性のあるプログラムが作成できる。 	
情報倫理	<p>情報通信技術 (ICT)や人工知能 (AI)の発達は、現代社会に「情報倫理」をめぐるさまざまな問題を生み出している。これまでの常識が通用しない新たな倫理問題についてどのように考えればよいのか、ICT、AIという新技術の設計・運用をめぐる具体的な問題を参照しながら概説する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術や人工知能を設計し運用する上で従うべき倫理やルールがわからない「指針の空白」がともすれば生じがちななか、技術の設計・構築と運用を自ら主体的に支える倫理的判断ができるようになる。 	

基礎 科 目 詳 A	統計の数理	<p>様々な場面でデータの利活用が進む現代では、データ分析とそれにまつわる考え方や基礎となる数理手法である統計学は必須知識である。高校数学までで既に個別の話題としては統計の基本的な項目のいくつかを学んでいるが、本講義では記述統計から推測統計までの基礎的な内容について数理的な側面を含め系統的に学修し、統計学の基礎を身につけることを目指す。また推測統計を学ぶにあたって必要となる確率と確率分布、その他の統計分析に関わる幾つかの代表的な手法についても学修する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記述統計について基本的な計算ができるようになる。 ・基本的な確率分布の特徴量について、計算できるようになる。 ・大数の法則という概念を理解し、推測統計の基礎を理解する。 ・基本的な統計量の計算ができるようになり、データ、記述統計、相関と因果、母集団と標本、と言った概念を理解する。 	
	情報理論	<p>情報科学を支える数学的理論である情報理論について入門的講義を行う。確率分布のばらつきを表す量としてエントロピーを導入したのち、その量がデータ圧縮における符号長として意味付けられることを見ていく。また、雑音のある通信路において伝えられる情報量についても考える。更に、計算機の数学的モデルであるチューリング機械の導入を行い、情報源ではなく個別データの情報量と見なすことができるコルモゴロフ複雑性を導入する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントロピーについて種々の関係式を導くことができる。 ・エントロピーとデータ圧縮における符号長の関係について説明ができる。 ・通信路容量について説明ができる。 	
	人工知能	<p>黎明期から機械学習・深層学習の発展、さらに量子情報処理に至るまで、知性を計算機で実現しようと苦闘してきた歴史を振り返りつつ、現代にも通用する技術について学んでいく。そして、既存の技術が可能にしてきたことと、技術的な限界・未解決な課題を整理し、今後の発展の方向性についても議論していく。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工知能の発展について概観し、さまざまな手法の関連について説明することができる。 ・現代の技術の課題と限界について説明できる。 	
	人工知能演習	<p>「人工知能」の講義で学修した内容の応用・実践として、代表的な人工知能技術について、実例ベースでプログラミング演習を行う。学習と検証⇄チューニング・精度向上のサイクルを通して、机上で理解した内容を肌で経験・体感し、実装の基礎を養う。授業では各自のPCにPythonを用いた演習環境を構築し、問題演習を通じた学修を行う。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人工知能」で学修した内容を、各種モジュールの利用も含めて、具体的なPythonプログラムとして実装することができる。 ・Pythonの各種モジュールを利用し、課題に対して適切な手法を選択し、機械学習が実践できる。 	
	情報のための論理と数学	<p>1年次で学修した基礎数学からの延長として、情報科学において頻出する論理の数学的な取り扱いや集合や位相といった数学の基礎概念について学修する。集合論については、基本的な概念、とくに無限についての基礎事項に習熟する。位相空間論については、位相について学んだあと、連続性・コンパクト性・連結性など基礎事項に習熟する。この授業での学修内容は情報理論、量子情報、情報幾何といった科目の理解においても重要となるので、そのような科目を重点的に学修したい者はこの科目を履修しておくことを推奨する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合や位相といった数学概念を理解し、応用することができる。 ・数学的な抽象的な空間の扱いに習熟し、そのイメージを持つことができる。 ・情報科学に必要な数学の問題に対して論理的な証明をある程度記述できるようになる。 	
	最適化の数理	<p>データ駆動型社会においては、膨大な組み合わせから最適解を迅速に求める必要性に迫られており、最適化（最適解探索）の重要性が増している。特にAIにおいては、説明変数の最適な組み合わせ選択、深層学習の重みの最適化等、その精度の鍵を最適化が握っていると言っても過言ではない。一方で、最適化は、「ノーフリーランチの定理」により、万能な手法が存在しないため、網羅的な知識が必要となる分野である。よって本講義では、発展の歴史を紐解きつつ、必要な要素技術について学んでいく。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最適化を構成する要素技術について、その概要と長所・短所を説明し、課題に応じて複数の候補技術を列挙することができる。 	

	離散数学	<p>離散数学とは連続ではない離散的なとびとびの対象を扱う数学であり、計算機を含めた離散系問題に対して、情報科学におけるさまざまな問題を扱う場合に重要な道具となる。この授業では、離散数学の対象のうち、主に「グラフ」について取り扱い、最短路問題や線形計画法、割り当て問題といった情報科学への具体的な応用例も含めて学修する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの基礎概念について説明することができ、グラフを用いた計算手法を実行することができる。 ・グラフ理論を情報科学の問題に当てはめて応用することができる。 	
	離散数学演習	<p>「離散数学」の講義内容と対応させた問題演習を行う。講義の方で学修した一般論が、グラフに関する具体例を通じて、実際に現象として生じることを確認する。特に、情報科学分野に対する具体的な応用問題を通じ、離散数学の概念に対するイメージを確立する。問題演習では、理解が不足している部分を払拭するまで、反復練習を徹底して行う。採点結果については必ず復習し、理解が不足している部分について、授業内で必ず確認する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離散数学の情報科学への応用例も含めた問題を解くことができる。 ・離散数学に関する自らの理解度を問題演習を通じて理解・把握することができる。 	
	計算理論	<p>コンピュータの原理をアルゴリズムと計算模型で捉える仕方を修得する。講義の前半ではコンピュータの限界を見極めるため計算可能性について学ぶ。結果、アルゴリズムで解ける問題と解けない問題があることを知る。後半ではチューリング機械という理論上の計算模型を導入し、これに種々の合理的な制約を設けて問題の複雑さをクラス分けする。更に、「論理式の充足可能性問題」等の問題がNP完全という良い性質を持つことを知る。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算可能関数／不能関数について説明できる。 ・決定性／非決定性チューリング機械を説明できる。 ・P, NP, PSPACE, NPSPACE, EXP, NEXP, IP等の問題のクラスについて説明できる。 	
	量子情報の基礎	<p>高校で物理を履修していない学生にも配慮した上で、前期量子論からの物理の導入を含めて量子論の基本的な考え方を講義する。特に、古典理論と概念的に大きなギャップが生じる観測問題といった量子世界の特殊性を通じ、量子コンピュータの利点・欠点双方について概論的な内容を理解する。また、1年次で学修した線形代数や解析学の知識を使って、量子ビットの取り扱いや量子論理の初歩までを取り扱う。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・量子論の考え方の基礎を理解し、古典情報と量子情報の違いについて説明することができる。 ・量子コンピュータの基本原則を理解し、量子計算アルゴリズムの基礎が習得できている。 	
基礎科目群 B	システムプログラミング	<p>科学技術を広く利用する現代社会において、プログラミングが果たす役割は大きい。その中でもC言語は汎用性が高く、最も多くの人に利用されているプログラミング言語の1つである。この授業では、C言語の基礎的な内容を学ぶとともに、C言語を使って簡単なプログラムを作成する。また、C++とC言語の違いやC++を使ってできることを理解する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C言語の基礎知識(基本型、演算、入出力、配列、関数、ポインタ、文字型の操作、構造体など)を習得する。 ・プログラムを読んで、記述内容を理解した上で、その内容が説明できる。 ・条件分岐・反復処理と関数を組み合わせて、簡単なプログラムが作成できる。 ・ポインタの概念が説明でき、その上でポインタを使ったプログラムが書ける。 ・ファイルにデータを入出力できる。 ・C言語を使って、意図した動作をする可読性のあるプログラムが作成できる。 ・C言語とC++の違いが説明でき、クラスを使った簡単なプログラムが作成できる。 	

データ構造とアルゴリズム	<p>情報数論と計算機処理の相互の橋渡しとなる普遍的な学修事項であるデータ構造とアルゴリズムを修得する。集合やベクトルを計算機で扱う基本操作である「要素の追加・検索・削除」のアルゴリズムを学ぶと共に、その計算効率を評価する。更に、要素のソート（整列）、グラフの取り扱い、また文字列の検索といった種々のアルゴリズムについても学ぶ。こうしたアルゴリズムに通底する設計法を学ぶ。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合やベクトルといった数学上の概念を計算機上で実現し操作でき、また計算効率について説明できる。 ・ソート、グラフ、また文字列の検索のアルゴリズムを計算機上に実装できる。アルゴリズムの設計法を説明できる。 	
データ駆動型社会とデータサイエンス	<p>20世紀を物理学の世紀とすれば、21世紀は情報学の世紀だと言われており、データ駆動型社会の登場により、データサイエンスの重要性は増すばかりである。本講義では、データサイエンスを学ぶ初学者向けに、黎明期から現在の到達点までを概観し、現代社会における重要性と可能性を理解していく。要素技術について、専門知識そのものには深く切り込まずに、技術の概要とその技術が可能にしたことを実例ベースで紹介していき、データ駆動型社会の全体像を浮かびあがらせるような講義設計としている。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスを構成する要素技術の概要を理解し、実用事例について、要素技術単位に分解して、その内容を説明することができる。 ・学んだ内容と、自分自身の興味・希望するコースとを照らし合わせながら、その後の学びの道筋がつけられる。 	
インターネット技術	<p>インターネットの基本について学ぶ。前半は、インターネットが社会に与えたインパクトを学びながら、インターネットの基本概念を学ぶ。後半では、インターネットをブラックボックスとして扱うことなく、いかに破綻なく動いているかという技術の本質を学ぶ。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットが社会に与えた影響を理解した上で、インターネットが何を指して作られ、どのような技術に基づいて破綻なく動作しているかについて基礎的な技術を習得する。 	
データ可視化演習	<p>データの可視化は情報の性質を知り、その意味を含めて定量的な形で伝達するための手法であり、自然科学や情報科学の全般にわたって重要な技術となる。データの可視化においては、情報の種類や性質によって適切な可視化法を選択する必要があり、情報処理技術だけではなく、データそのものに対する統計学的な理解やグラフのデザインやカラーリングに対するセンスも必要となる。この授業では、1年次で学修した「初級プログラミング」の次のステップとして、いくつかのデータ実例に従い、適切なデータの可視化方法の選択や、その表現手法について理論的な内容も理解した上でPythonのモジュールを用いたハンズオン形式の学修を行う。また、与えられたデータに対してどのような可視化方法が適切かつ有効であるか、課題の作成やグループディスカッションを通じて実践的な能力を身につける。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化の様々な表現方法やその特徴を理解し、データの性質に応じて適切に選択することができる。 ・与えられたデータに対して、基本的な統計処理を行なった上で、Pythonのモジュールを使ったデータの可視化手法を活用することができる。 	

<p>ロボティクス</p>	<p>ロボティクスすなわちロボット工学は、様々な工学体系や知識を総動員した総合工学の一つである。機械、電気・電子、情報、数学、物理、化学と多彩な技術が含まれ、またロボットを使う人のことを考えたデザイン（設計）や評価も重要となり、そこには文系的知識も含まれ、他分野と連携できる知識や視野が欠かせない。</p> <p>本講義は、ロボット工学に興味を持ち、複合領域であるロボティクスの入門知識を得て、その全体像を理解できるようになることを目的としている。本講義では完成したロボットを題材として、それを分解することで、移動や作業機構、機能を実現するための構築法を学修する。ロボットが複合領域であることを理解し、「この機能を実現するためにはどうすればいいのか」を考える力を付けることが目的である。要素技術を結合し、実問題を解決するシステムの構築法（システムインテグレーション）の基礎的な視点を学ぶ。</p> <p>具体的には、多分野で活躍するロボットについてその実例を見て学びながら、ロボットシステムを構築し利用するために不可欠となる基礎的な技術（センサ、駆動、行動決定）を中心に、幅広いトピックの概要を学ぶ。また、機械技術と電気・電子技術および情報技術を統合したメカトロニクスの概要を学ぶ。</p> <p>ロボティクスに不可欠な複数分野の基礎について理解を深め、仮に決めた目標作業をおこなうロボットシステムについて、必要となる要素技術を整理し、構築方法について議論できるようになることを目的とする。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボットの基本概念が理解できる。 ・ロボットの基本構造が理解できる。 ・ロボットのシステムを構築する要素を理解できる。 ・ロボット関連技術について整理、議論ができる。 ・ロボティクスについて俯瞰できる。 	
<p>応用統計学</p>	<p>従来のデータ分析ではデータに正規性や線形性を仮定した議論が中心であった。しかし現実の世界ではこうした仮定が成立するとは限らず、より自由な解析やモデルが必要となる。本講義では、データ駆動型の科学でも基礎である熱力学・統計力学の基本的な考え方を紹介しながら、モンテカルロ法を中心に発展的な統計手法を学ぶ。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンテカルロ法などの発展的な統計手法と熱力学・統計力学の基本的な考え方を学び、現実の複雑な系についてデータ分析を行う基礎を身につける。 	
<p>応用統計学演習</p>	<p>データ駆動型の科学でも基礎である熱力学・統計力学の基本的な考え方を交えながらモンテカルロ法を中心とした発展的な統計手法について、「応用統計学」の講義と対応しながら演習を行う。問題演習では、理解が不足している部分を払拭するまで、反復練習を徹底して行う。採点結果については必ず復習し、理解が不足している部分について、授業内で必ず確認する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンテカルロ法などの発展的な統計手法と熱力学・統計力学の基本的な考え方を学び、現実の複雑な系についてデータ分析を行う基礎を身につけ、実際に簡単なデータ分析が出来るようになる。 	
<p>多変量データ解析</p>	<p>現代社会では多変量（多変数）のデータで溢れており、データ解析を通じて有用な情報を抽出することは重要事項である。本講義では多変量データの解析方法について学修する。最初に線形代数の基本事項を復習後、説明変数と目的変数間の関係を捉える回帰分析や判別分析を学修する。最後に、説明変数に関する多変量データ解析の基本手法を学修する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多変量データ解析手法の数学的基盤を理解し、計算できる。 ・目的に応じて適切なデータ解析手法を取捨選択できる。 	

<p>基盤ソフトウェア演習</p>	<p>コンピュータシステムを効果的に活用するためには、プログラミング技術に加え、適切にシステムを操作・利用する方法に関する知識が必要不可欠である。本科目では、UNIX/Linuxシステムを対象に、コマンドラインあるいはシェルからシステムを操作する方法を学ぶとともに、一連の操作をシェルスクリプトとして記述することで、システムの管理・活用を適切に行うための知識を獲得する。また、OSの機能を利用する様々なCプログラミング演習を通じて、ファイルシステムやメモリ、プロセスやスレッド、通信など様々な機能を実現するためのプログラミング技術・手法の基礎を身につける。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UNIX/Linux環境を操作し、ファイル操作やプログラミング等の作業を適切に実施できる。 ・複数のコマンドを組み合わせて、複雑な作業を実施することができる。 ・一連の作業・手続きをシェルスクリプトとして記述し、実行することができる。 ・メモリ管理、ファイル操作、プロセス・スレッド操作、ソケット通信等の基礎的なシステムプログラミングを行うことができる。 	
<p>社会と情報</p> <p>情報システムと社会</p>	<p>近年の情報システムの急激な発展には、社会システムへの変革をもたらしてきた。本講義では、情報技術の中でも、インターネット技術と、ビッグデータの活用技術を中心に、技術が社会へ及ぼした影響について講究する。授業内容についてはレポート課題を通じて自身の考え方を整理し、深めていく。また、最後にはグループディスカッションとその発表会を通じて、自らの考えを論理的に表現する方法についても学修する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい技術が社会に与えてきた影響を、さまざまな角度から検証することにより、最新技術が社会にどのような影響を与えるか、議論を行い、将来を見通す目を持つことができる。 ・課題を通じて、自らの考えを整理し、表現することができる。グループディスカッションを通じて、課題の解決方法を吟味し、自らの創造的な思考力を持つことができる。 	
<p>職業と倫理</p>	<p>企業に関する不祥事は、不正会計処理のみならず、製造業におけるデータ改ざんなど、枚挙に暇がないほど多い。この原因は、上司からの圧力、企業風土等が原因とも言われているが、第一義的には従事者の職業倫理の欠如が原因である。特に、科学技術の分野ではデュアルユース（用途の両義性）の問題も大きい。本講では、職業に関する倫理および社会的責任について、具体例を基に、如何にこれらの問題を解決していくのかについて学ぶ。</p>	
<p>実験社会科学</p>	<p>情報数理の知識を社会に応用するために、人間の行動や社会のしくみについて基礎的な理解をもっていることは極めて重要である。この授業では、心理学、経済学を始めとする社会科学において重要な流れとなっている「実験社会科学」について知識を得る。人間行動や社会のしくみについて実験を通じて理解するとはどういうことか、具体的な実験の例に基づき概説する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人が社会の中でさまざまな行動をする結果、集団や社会としての現象やしくみが立ち現れ、そのことが人々の行動をさらに規定していく双方向的なプロセスを理解すること。 ・人間社会のミクロ・マクロのダイナミクスをどのように捉えるべきか、抽象的かつ論理的な科学的思考ができるようになる。 	
<p>知的財産権とその実務</p>	<p>知的財産権とは、発明、考案、意匠、著作物その他の人間の創造的活動により生み出されるものの権利をいう。これは、情報数理分野、特に今後益々発展するAI、ICT分野に携わる者にとっては必要不可欠な知識である。具体的には、特許権、実用新案権、著作権、意匠権、商標権などの基礎を学ぶとともに、最新のメタバース、ブロックチェーン、NFTなどを活用したデジタル・コンテンツに関する権利とその規制について学ぶ。</p>	

	AIと法	AIは第三次ブームを迎え、日本も含め世界はAI社会へと進みつつあり、様々な問題が予想されている。この授業では、AI社会における問題を概観しつつ、AI社会における問題の解決に寄与すべく、AIと法の関わりについて学ぶ。この授業での到達目標は以下の通りである。 ・現在のAIに基礎について理解する。 ・AI社会において想定される問題を理解する。 ・AI社会における法のあり方を学び、AI社会における問題解決能力を身に付ける。	
	情報と法	現代社会においては情報通信技術ICTが欠かせないものとなっている。本授業では、情報のデジタル化・ネットワーク化により新たに生じている法的問題について、現行法と判例をもとに検討する。情報のデジタル化・ネットワーク化により、どのような法的問題が生じているかを理解し、どのように問題を整理し、対処していくべきかを自らの頭で考え、解決策を見つけて出す能力を身につけることを到達目標とする。	
	Current Affairs A	この科目はハワイ大学とのコードシェア科目で、オンラインでハワイ大学の学生と共にプロジェクトを実施しながら民族学の知識を深める。 日本側では、教員と明学卒業生が、予習・復習などを実施して履修者のサポートするため、アメリカの大学の授業を体験する良いチャンスとなる。	
	Current Affairs B	この科目はハワイ大学とのコードシェア科目で、オンラインでハワイ大学の学生と共にプロジェクトを実施しながら民族学の知識を深める。 日本側では、教員と明学卒業生が、予習・復習などを実施して履修者のサポートするため、アメリカの大学の授業を体験する良いチャンスとなる。	
	Business English A	本講座では、ビジネス環境における基本的かつ実践的な英語運用能力を高めることを目的とする。様々なビジネスシーンで頻出する単語や会話フレーズを身に付けることで、より効果的なコミュニケーション能力を高めると同時に、身近な企業の情報や新聞記事等を精読する演習を重ねることで、ビジネス・リテラシーを養うことを目指す。	
	Business English B	本講座では、ビジネス環境における基本的かつ実践的な英語運用能力を高めることを目的とする。様々なビジネスシーンで頻出する単語や会話フレーズを身に付けることで、より効果的なコミュニケーション能力を高めると同時に、身近な企業の情報や新聞記事等を精読する演習を重ねることで、ビジネス・リテラシーを養うことを目指す。	
P B L	Project Based Learning	この授業では、本学科で学んだ知識を活かし、他学生と協働して、情報数理学分野に関する問題発見、問題解決へのアプローチの模索、解決法の提示、および文書作成の標準的ルールの習得並びにプレゼンテーションの能力などをPBL(Project Based Learning)形式の演習を通じて高めることを目指す。授業では、少人数のグループを構成し、学生自ら具体的な問題を発見し、その解決方法を工夫し、提案する。また、実際に解決方法を適用した成果をまとめ、評価を含め発表する。 設定された課題に関する問題意識をもち、それに対するアプローチに関する知識や技法を身につける以下の点を到達目標とする。 ・問題・課題解決法について説明、記述できる。 ・問題・課題解決法について整理、議論ができる。 ・問題・課題解決法について俯瞰、表現できる。 ・課題解決法を情報数理学の知見を用いて構築できる。	

	卒業研究	<p>これまでの学修成果を踏まえ、担当指導教員のもと自ら研究テーマを見出し、その問題解決に向けた研究を行う。文献調査の方法から、その文献の要点を適切にまとめる方法や、他者にわかりやすく伝える方法について学ぶ。自身で行った研究内容を文書やプレゼンテーションの形で発表し、研究成果を単にまとめるだけでなく、文献の適切な引用方法など研究において必要な倫理上の問題についても理解を深める。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報数理学分野の文献を調査し、その内容を学部教育の範囲内で理解することができる。 ・文献を読み、その概要についてまとめることができる。 ・文献調査をベースに自身で課題を発見し、目標を設定した上で、目標達成に向けた検討・実践を行い、その研究成果を論文あるいはレポートという形でまとめることができる。 ・研究をまとめる上での倫理的な注意点を理解し、適切な引用などを行うことができる。 		
	英語文献講読	<p>情報数理学の学修や研究では主に英語で書かれた文献を調査することも必要である。また、研究内容の公表などでは英語で情報発信を行うことも重要となる。この授業では、英語での文献の調査方法や読み解き方、英語での情報発信の方法について、学術的な専門用語を含めた学修を行う。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にネット上にある英語で書かれた文献について、その検索や調査を自力で行うことができる。 ・翻訳や文法チェックなどについて、クラウド上も含めたAIツールを活用し、自ら英語を使った情報発信ができる。 		
コース科目	数理・量子情報コース	符号と暗号の数理	<p>情報通信の信頼を築くための必須の技術である誤り訂正符号と暗号について数理の面を修得する。はじめに有限体の基礎を学修する。次いで、誤り訂正符号は、Reed-Solomon符号とその復号、また畳み込み符号とその復号の手法を学ぶ。暗号は、共通鍵暗号、ハッシュ関数、ゼロ知識証明、公開鍵暗号、及びデジタル署名の計算理論の視座からの取り扱いを学ぶ。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有限体の理論を説明できる。 ・Reed-Solomon符号とその復号、また畳み込み符号とその復号について説明できる。 ・共通鍵暗号、ハッシュ関数、ゼロ知識証明、公開鍵暗号、及びデジタル署名の計算理論の視座からの取り扱いを説明できる。 	
		情報幾何学	<p>本講義では、微分幾何の基礎的な入門を行うとともに、その応用として、確率分布空間上の幾何学である情報幾何学を紹介することを目標とする。まず、位相空間の概念から導入し、そこに距離空間、ベクトルやテンソル、計量や接続といった数学的構造を順次導入することで、微分幾何に必要な概念を体系的に学修する。さらに、このように定義された微分幾何の構造が確率分布空間にどのように適用されるのかについて見る。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微分幾何学の基礎的な内容を理解し、情報幾何学がどのような分野であるかを説明することができる。 ・幾何学の問題を、確率分布空間を通じて情報科学の問題として理解し、応用することができる。 	
		数理モデリング	<p>現象を理解し予測するためには現象のメカニズムを仮定して数理モデルをたてその挙動を調べる。本講義では代表的な数理モデルを紹介しながら、力学系とネットワーク科学の基礎を学ぶ。現象の背景に数理構造を見出す姿勢を身につけ、現象と数理の橋渡しをできるようにすることを目指す。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数理モデルの代表である、力学系とネットワークの基礎を学び、現実の様々な現象について数理構造を用いて議論する基礎を身につける。 ・現在広範囲に持ち込まれている幾つかの基本的な数理モデルを理解する。 	

量子情報理論	<p>量子論は、その数学的枠組みだけでなく与える描像も、古典論とは大きく異なっている。この違いのおかげで、量子論で記述される系（量子系）を用いると、古典系でできなかったことができる場合がある。このような操作論的な観点から量子論の特徴（量子性）をとらえ、また利用する手法を考えるのが量子情報理論である。本講義では、扱う物理系に依らない量子論の一般的な枠組みの紹介からはじめ、その枠組みのもとで何ができるか何ができないかについて、特に原始的な操作に着目し、明らかにしていく。また、量子論を含む広い枠組みの中で、量子論がどのように特徴づけられるかを考える研究も紹介する。この講義は「量子コンピューティング」「量子ネットワーク」への導入にもなっている。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 量子論の一般的枠組みについて数式を用いて説明ができる。 量子論と古典論の違いについて、何ができるか何ができないかに着目して数式を用いて説明ができる。 	
量子ネットワーク	<p>量子状態を用いた暗号方式である量子鍵分配は、古典的な暗号では達成できない安全性を有することが数学的に証明されている。本講義では、このような量子状態を用いた情報通信について、その数学的な定式化からはじめ、種々の原理的境界について説明を行う。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 量子論のエントロピーである von Neumann エントロピーについて種々の関係式を証明できる。多数の不完全なエンタングルド状態から少数の完全なエンタングルド状態を作り出す手法を説明できる。 エンタングルド状態を用いた場合、より大きな情報が伝送できることを定量的に説明できる。量子鍵分配プロトコルとその安全性について説明できる。 	
量子コンピューティング	<p>量子計算とは量子論特有の性質（量子性）を生かして量子系で計算を行う手法である。この量子性のおかげで、古典コンピュータと比べて劇的に計算速度があがるアルゴリズムが存在すると考えられている。本講義では、まず回路型量子計算の枠組みのもとで、いくつかの代表的なアルゴリズムを紹介する。また、回路型量子計算と同等の計算能力をもつ、測定型量子計算についても触れる。さらに実装において問題となる環境との相互作用について説明し、その困難に対処するための量子誤り訂正の方法について紹介する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 量子計算における代表的なアルゴリズムについて数式を用いて説明ができる。 量子誤り訂正の方法について数式を用いて説明ができる。 	
数値シミュレーション	<p>現代社会の複雑な問題に対して、コンピュータを使った数値計算によるアプローチが大きな発展を遂げている。この授業では、Python プログラミングを駆使して数理的な問題を解く方法論を学修する。様々な問題に対して良く知られたアルゴリズムについて理解する。また、与えられた問題に対して、背後の数学的原理を理解しながら、それを解くために最適なアルゴリズムの選択方法を学ぶ。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ニュートン法、オイラー法、ルンゲクッタ法、区分求積法、シンプソンの公式などのアルゴリズムについて数学的な原理が説明でき、それらを使ったプログラムが作成できる。 モンテカルロ法の概念を理解し、それを使った数値計算ができる。 統計処理と最小二乗法を使ったデータ解析をするプログラムが作成できる。 ランダムウォーク、カオス、フラクタルの数学的概念を説明でき、アニメーションを使った出力ができる。 NumPy が使える。 関数や if 文、for 文、while 文を組み合わせることで無駄のないプログラムが設計できる。 間違いが発生しにくいプログラミング法を体得し、バグがある場合はそれを見つけて適切に修正できる。 最適なアルゴリズムを選択し、意図した動作をする可読性のあるプログラムが作成できる。 	

A I ・ デ ー タ サイ エ ン ス コー ス	AIとデータサイエンスの数理	<p>人工知能やデータサイエンスで活用されている機械学習手法は現代社会において基礎技術となりつつある。本講義では、機械学習の数学的な基礎事項や基礎概念の修得を目的とする。講義前半部では、最小二乗法による回帰を通して、教師あり学習の重要概念、その後、ニューラルネットワークの基礎事項を学修する。講義後半部では、教師なし学習のいくつかの重要タスクとそれらの関連手法を学修する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械学習の重要概念ならびに重要タスクについて理解し、説明することができる。 ・機械学習の数学的基盤を理解し、計算することができる。 	
	パターン認識と機械学習	<p>本講義では様々な機械学習の手法に基づくパターン認識について学修する。講義前半部では、パターン認識における基本事項と代表的なパターン認識手法について、回帰分析や勾配法といった数学的な基礎事項を学ぶ。講義後半部では、サポートベクターマシンを手始めに、ニューラルネットワークの基本モデルまでについて学修する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パターン認識の基礎事項を理解し、説明できる。 ・パターン認識手法の数学的基盤を理解し、計算することができる。 	
	自然言語処理	<p>ネットワークを介した情報伝達が常識となりつつある現代において、言語メディアを中心とする種々の情報メディアを計算機により処理する需要が高まっている。このような背景の下、本講義では言語メディアを扱うための基礎技術である自然言語処理について、理論ならびに関連技術を学ぶ。授業計画としては、自然言語処理の歴史と現在の潮流、文字列検索、パタンによる文字列検索と正規表現、形態素解析、文法と構文解析、意味解析と談話解析、コーパスと統計処理、辞書と索引の構成法、自然言語処理システム（情報検索、機械翻訳、情報抽出と質問応答）といった項目について扱う。</p>	
	データマイニングとビッグデータ	<p>本講義ではデータマイニングとビッグデータで使用されるデータ分析・機械学習手法を学修し、それら手法をPythonを用いて実装する。講義前半部ではPythonの基礎事項を学修する。後半部では、各講義で解説されたデータ分析・機械学習手法の実装を行う。なお、第2回以降のすべての講義で演習課題が出題されるので、演習結果を指定された期日までに提出することを要求する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で紹介されたデータ分析・機械学習手法を説明することができる。 ・実世界へ応用する際にデータ分析・機械学習手法を実装することができる。 	
	時系列データ解析	<p>時系列データとは時間変化とともに観測されるデータであり、自然現象やビジネス現場など様々な場面で観測される。本講義では時系列データの解析手法について学修する。講義では様々な時系列モデルに関する単なる理論だけでなく、Pythonを用いたハンズオン演習を通じて具体的な時系列データの解析手法を理解する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時系列データ解析手法の数学的基盤を理解し、計算することができる。 ・時系列データ解析手法を実装することができる。 	
	認知心理学	<p>この講義では、人間の認知を情報処理のプロセスとして捉える認知心理学の基礎を学び、情報科学と人や社会とのつながりについて体系的な説明を行う。低次認知から高次認知にわたる個人の情報処理について、さまざまな研究例に基づき概説する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知心理学の概念や取り扱う分野を理解し、説明することができる。 ・人間の認知過程を情報処理として見る視点を獲得している。 ・個人の認知・意思決定をどのように捉えるべきか、抽象的かつ論理的な科学的思考ができるようになる。 	

シグナルプロセッシング	<p>本講義では画像・音声処理、情報通信、制御などで重要な役割を果たす信号処理（シグナルプロセッシング）の基礎を学修する。講義前半部では、信号処理の根幹を成すフーリエ変換、ラプラス変換、z変換などを学修する。講義前半部で学修した内容を基礎として、後半部ではデジタルフィルタに重点を置いた講義を行う。また、講義内ではPythonを用いた演習も行う。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信号処理の基本変換やデジタルフィルタの数学的基盤を理解し、計算することができる。 ・信号処理の基本処理を実装することができる。 	
計算社会科学	<p>情報数理の知識を社会に応用するために、社会の動きを把握する社会科学の視点や方法を知ることが極めて重要である。この授業では、社会科学において新しい流れとなっている「計算社会科学」について知識を得る。社会の動きを計算的に把握するとはどういうことか、具体的な研究例に基づき概説する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の動きを大型のデジタルデータに基づき理解するための視点を獲得すること。 ・人間社会のマクロな変化をどのように捉えるべきか、抽象的かつ論理的な科学的思考ができるようになる。 	
情報システム・セキュリティコース コンピュータシステム	<p>年々コンピュータシステムは高度化・複雑化しており、ハードウェア・ソフトウェア両面からシステムを理解し、全体を把握することが困難となりつつある。</p> <p>コンピュータシステムをより深く理解するためには、実際に作成して動作させることが最もよい方法であると考えられる。</p> <p>近年は、FPGAのようなプログラマブルなデバイスが普及すると共に、RISC-Vのようなオープンソースのプロセッサも開発・提供されるようになっており、自分自身でプロセッサやその周辺機構を作成・構築することがよりやりやすくなってきた。</p> <p>本実験では、オープンソースのプロセッサRISC-Vを対象に、これをFPGA上に構築し、ソフトウェアを実行させることを通じて、プロセッサの構成とその上で動作するソフトウェアとの関わり、といったコンピュータシステムの根幹に関わる内容について理解を確たるものにする。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセッサの構造・構成について深く理解する。 ・ハードウェア記述言語を用いた回路設計を行うことができる。 ・クロス開発の考え方を理解し、実践することができる。 ・ハードウェア・ソフトウェアの両面からシステムを捉えることができる。 ・チーム内で連携・分担して開発や作業、問題解決に取り組むことができる。 ・取り組みの内容や成果を適切に文書にまとめ、説明することができる。 	
情報セキュリティ	<p>情報セキュリティの技術を修得する。はじめに、攻撃者ありきの前提に立つと情報システムがいかにその信頼を失うかを認識する。次に、情報セキュリティの要素技術が情報システムの信頼をいかに築きうるか、またその限界を理解する。更に、個々の要素技術の手法を学ぶ。攻撃者の手法が日々変化する実情に対応すべき特質を鑑み、普遍的な技術とケースバイケースの最新の技術とを識別しつつ習得する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃者の手法の概要を説明できるようになる。 ・情報セキュリティの要素技術の効果と限界を説明できるようになる。 ・要素技術の数理の核心を説明できるようになる。 ・情報システムにおける要素技術を適用した際の負荷を説明できるようになる。 	

<p>プロセッサ・アクセラレータ 構成法</p>	<p>コンピュータシステムの中核たる汎用プロセッサの基本構成、およびその一般的な高速化技法について理解するとともに、キャッシュメモリ・メモリ階層等の構成要素を含む構成・構成を体系的に学ぶ。また、汎用プロセッサのみでは達成できない演算性能を得るために用いられる、GPU等の各種のアクセラレータについて、その構造・構成を理解する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなプロセッサに共通する構成・構成を理解する。 ・プロセッサと、メモリ等の周囲の構成要素との関係を理解する。 ・実際に利活用されているアクセラレータの基本構成を知るとともに、その背後にどのようなトレードオフが存在するかを理解する。 ・汎用プロセッサとアクセラレータの設計思想・目的の違いを理解する。 ・プロセッサやアクセラレータの構造・構成とソフトウェアとの関わりを理解し、システム全体を体系的に捉えることができるようになる。 	
<p>組み込みシステムとIoT</p>	<p>世の中に存在するコンピュータシステムの多くは「組み込みシステム」に分類され、我々の生活を支える基盤となっているが、パーソナルコンピュータのようなシステムとは異なり、その用途・目的に応じて様々な形態をとる。本講義では、組み込みシステムを構成する様々な要素を体系的に学び、ハードウェア、ソフトウェア両面から理解を深める。</p> <p>また、近年の組み込みシステムはネットワークに接続され、IoTシステムとしてインターネットを介して様々なシステムと連携するようになってきていることから、そのためのセンサ技術や通信技術について基礎的な知識を習得する。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組み込みシステムの特徴や制約、PCや大型計算機等との違いを理解する。 ・組み込みシステムを構成するハードウェアやその役割を理解する。 ・タイマや割り込み、タスクスケジューリングなど、リアルタイムシステムについて理解する。 ・組み込みソフトウェアの開発手法、環境、要件等について理解する。 ・基礎的なセンサ技術・通信技術について理解する。 ・ネットワークを介して組み込みシステムとその他のコンピュータシステムが有機的に連携する仕組みを体系的に捉えられるようになる。 	
<p>データベースシステム</p>	<p>データベースシステムの基礎を学ぶ。前半で、産業界で広く活用されている従来型のリレーショナルデータベースとSQL言語の基礎を学ぶ。後半で、巨大データが容易に獲得できるようになった現代において重要な情報検索技術の原理とデータ分析の基礎を学ぶ。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半では、リレーショナルデータモデルを理解し、SQLを習得することで、データベースの操作、そしてデータベースの設計・構築ができるようにする。 ・後半では、情報検索の基礎を理解し、データ分析の基礎を学び、ビッグデータを活用できる能力を身につける。 	
<p>オペレーティングシステム</p>	<p>オペレーティングシステム (OS) は、コンピュータのハードウェアを抽象化し、計算機上で動作するソフトウェアに対して資源割り当てを行う、ハードとソフトの架け橋となるソフトウェアである。本講義では、前半で、OSの基本概念を学び、後半では、OSのセキュリティに関する実践的な技術習得を目指す。</p> <p>到達目標は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オペレーティングシステムを学び、計算資源の利用に関する理解を深めることで、効率的なソフトウェア開発ができることを目指す。 ・後半では、現代社会にとって必要不可欠なセキュリティ技術の実践的習得を目指す。 	

		コンピュータグラフィックス	<p>本講義では、映画・アニメ等の映像コンテンツ制作、ゲーム・VRなどのインタラクティブなコンテンツ制作で用いられるコンピュータグラフィックス技術の代表的なトピックである「モデリング」「アニメーション」「レンダリング」「画像処理」について、アルゴリズムの理論的背景や応用事例の両面から解説する。本授業の目標は、エンターテインメントの側面だけでなく、数学や物理学と結び付け、学問としての理解を深めることである。更に、プログラミング課題・グループ課題を通して、理解をより確かなものにするを目指す。授業方法としては、講義、グループワーク・発表を中心とし、学修内容に応じて、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開する。</p>		
		コンピュータビジョン	<p>コンピュータビジョン(CV)とは、カメラで撮影した画像から、被写体となった対象世界がどうなっているのかを明らかにする問題を取り扱う学問・研究領域で、画像データの持つ意味は、シーンにおける物理的、幾何学的特徴によって与えられる。本講義では、機械知能システムの要素技術として重要な視覚情報処理に焦点を当て、アルゴリズムと計算メカニズムの修得を目標とする。また、オープンソースを用いた各種アルゴリズムの実装を修得する。これらの講義をとおして、画像処理の基礎的な考え方と応用への適応力を修得することを目的とする。</p> <p>視覚情報処理の計算メカニズムを理解し、画像認識のプロセスを画像処理と画像理解の立場から説明できることを本講義での到達目標とする。</p> <p>具体的には次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 画像入力方法について説明できる。 2 画像データの構成・構造について説明できる。 3 画像データに対する基本的な処理について説明できる。 4 基本的な画像処理プログラミングができる。 		
明治学院 共通科目	コア科目	キリスト教の基礎A	<p>キリスト教国ではない日本で生活する限り、キリスト教を学ぶ必然性などないように思えるかもしれない。しかし国境を越えた人の移動が盛んになり、この社会はすでに日本人だけとつきあっていればいい社会ではなくなっている。コロナの感染拡大によって日本はまるで鎖国状態に陥っているかのようだが、それでも情報は国境を軽々と飛び越えている。キリスト教を知ることは、他者と多文化を理解し、異なる価値観、異なる世界観を持つ人たちと共に生きるすべを学ぶことである。この授業を通して受講生は、コロナ後の社会を見据えつつ、そのための基本的な知見を養う。</p>		
		キリスト教の基礎B	<p>キリスト教国ではない日本で生活する限り、キリスト教を学ぶ必然性などないように思えるかもしれない。しかし国境を越えた人の移動が盛んになり、この社会はすでに日本人だけとつきあっていればいい社会ではなくなっている。コロナの感染拡大によって日本はまるで鎖国状態に陥っているかのようだが、それでも情報は国境を軽々と飛び越えている。キリスト教を知ることは、他者と多文化を理解し、異なる価値観、異なる世界観を持つ人たちと共に生きるすべを学ぶことである。この授業を通して受講生は、コロナ後の社会を見据えつつ、そのための基本的な知見を養う。</p>		
	言語系科目	1 基礎科目	英語コミュニケーション1A	<p>This course focuses on conversation strategies that will promote your ability to discuss ideas, develop presentation skills, and debate about a variety of topics. You will conduct reading, listening, and vocabulary activities inside and outside of class and use the content for discussions in class. All four skills will be practiced in order to increase your confidence in communicating effectively in English.</p> <p>(和訳) このコースは履修者がアイデアを討論する能力を促進し、プレゼンテーション能力を向上させ、様々なトピックについて討論する会話戦略に重点を置いている。クラスの内外でリーディング、リスニングそして語彙活動を行い、その内容を授業内で討論のために利用する。英語で効果的にコミュニケーションをする自信を向上させるため4技能の練習が行われる。</p>	

英語コミュニケーション1B	<p>This course will continue to focus on conversation strategies that will promote your ability to discuss ideas, develop presentation skills, and debate about a variety of topics. You will conduct reading, listening, and vocabulary activities inside and outside of class and use the content for discussions in class. All four skills will be practiced in order to increase your confidence in communicating effectively in English.</p> <p>(和訳) このコースでは引き続き、アイデアを議論し、プレゼンテーションスキルを開発し、さまざまなトピックについて討論する能力を促進するための会話戦略に焦点を当てる。クラス内外でリーディング、リスニング、語彙活動を行い、その内容をクラスでのディスカッションに使用する。英語で効果的にコミュニケーションする自信を高めるために、4つのスキルすべてを練習する。</p>	
英語コミュニケーション2A	<p>英語コミュニケーション2Aは日本語を併用して行われる。高校までに学習した比較的平易な英語を用い、聴解力を育てると同時に、英語らしい自然な発音・イントネーションで発話すること、およびそれらを応用して自分の考えを表現することを練習する。加えて、語彙の増強を目指して語彙テストを随時行う。</p>	
英語コミュニケーション2B	<p>英語コミュニケーション2Bは日本語を併用して行われる。英語コミュニケーション2Aで学んだ技能を発展させ、聴解力を育てると同時に、英語らしい自然な発音・イントネーションで発話すること、およびそれらを応用して自分の考えを表現することを練習する。加えて、語彙の増強を目指して語彙テストを随時行う。</p>	
フランス語1A	<p>1年次対象のクラス別の必修授業である。発音とつづり字との関係からはじめ、名詞、冠詞、形容詞、動詞の活用と時制、さまざまな疑問文などを学ぶ。授業では講師が基本事項を説明し、発音練習、練習問題をこなしながら知識の定着をはかる。「フランス語2A」と連携して授業を進める(ただし成績評価は個別に行う)。小テスト、宿題も適宜課される。</p>	
フランス語1B	<p>1年次対象のクラス別の必修授業である。発音とつづり字との関係からはじめ、名詞、冠詞、形容詞、動詞の活用と時制、さまざまな疑問文などを学ぶ。授業では講師が基本事項を説明し、発音練習、練習問題をこなしながら知識の定着をはかる。「フランス語2B」と連携して授業を進める(ただし成績評価は個別に行う)。小テスト、宿題も適宜課される。</p>	
フランス語2A	<p>フランス語の文法の基礎を学ぶ。 文法の学習だけでなく、会話練習も通じてフランス語の読む、書く、聞く、話すの4技能を総合的に修得する。 またフランス語圏の文化や習慣を知る。</p>	
フランス語2B	<p>フランス語の文法の基礎を学ぶ。 文法の学習だけでなく、会話練習も通じてフランス語の読む、書く、聞く、話すの4技能を総合的に修得する。 またフランス語圏の文化や習慣を知る。</p>	
フランス語演習初級A	<p>この授業は4月からフランス語を学び始める1年生を対象にします。文法を中心に学ぶことの多い学部の授業をおぎない、発音と会話の基本的な力を身につけることが目的です。さまざまな場面での会話の練習とディスカッションを通じて表現と語彙の力をのばし、また音声教材を使って聴き取りの力をつけることをめざします。</p>	
フランス語演習初級B	<p>4月からフランス語を学び始める1年生を対象とする。文法を中心に学ぶことの多い学部の授業をおぎない、発音と会話の基本的な力を身につけることが目的である。さまざまな場面での会話の練習とディスカッションを通じて表現と語彙の力をのばし、また音声教材を使って聴き取りの力をつけることをめざす。</p>	
中国語1A	<p>中国語未習の学生が入門レベルの中国語を学ぶ。中国語の発音の基本となるピンイン(拼音、中国式ローマ字)と発音のしかた、さらに文字(簡体字)、基礎的な文法・句型、単語・表現などを学んで簡単な文章や会話が理解できるように練習する。本科目は「中国語2A」と並行して同時に学び、秋学期には同一の曜日・時限・クラスで「中国語1B」を継続して学ぶ。</p>	

中国語1B	「中国語1A」に引き続き、さらに発音の練習をしながら、初級レベルの語彙・表現・文法・文型などを学んで簡単な文章や会話が理解できるように練習する。これらの学習を通して、初歩的な中国語の全体像を理解する。本科目は「中国語2B」と並行して同時に学び、春学期の「中国語1A」と同一の曜日・時限・クラスで受講する。	
中国語2A	中国語未習の学生が入門レベルの中国語を学ぶ。中国語の発音の基本となるピンイン（拼音、中国式ローマ字）と発音のしかたを身につけ、基礎的なリスニングやスピーキングの練習を行い、実践につなげる。本科目は「中国語1A」と並行して同時に学び、秋学期には同一の曜日・時限・クラスで「中国語2B」を継続して学ぶ。	
中国語2B	「中国語2A」に引き続き、さらに発音の練習をしながら、初級レベルの語彙・表現、文法・文型を使った基礎的な口語表現を使ったリスニングやスピーキングの練習を行い、実践につなげる。本科目は「中国語1B」と並行して同時に学び、春学期の「中国語2A」と同一の曜日・時限・クラスで受講する。	
中国語演習初級A	「中国語1A」「中国語2A」に加え、さらにコミュニケーション能力を高めるために、「中国語1A」「中国語2A」と並行して同時に学ぶ科目である。特に初級レベルのオーラル・コミュニケーションの向上を目指して集中的に訓練する。原則として、秋学期も「中国語演習初級B」を継続して学ぶ。	
中国語演習初級B	中国語の初級科目「中国語1B」「中国語2B」の水準よりさらに上のコミュニケーション能力の習得のために「中国語1B」「中国語2B」と並行して同時に学ぶ。「中国語演習初級A」の成果の上に、口頭の中国語表現を中心にして中国語の習熟度をさらに高めるため、中国語を母語とする教員が担当するこの科目を学ぶ。	
ドイツ語1A	基礎文法を詳しく学び、ドイツ語のしくみを理解する。 文法説明に加えて、音読や練習問題にも取り組む。 ドイツ語2Aと合わせて基本語彙を習得し、運用できるようになる。	
ドイツ語1B	基礎文法を詳しく学び、ドイツ語のしくみを理解する。 文法説明に加えて、音読や練習問題にも取り組む。 ドイツ語2Bと合わせて基本語彙を習得し、運用できるようになる。	
ドイツ語2A	さまざまな資料を用いてコミュニケーション能力を養成する。自分の日常生活の場面に題材を求めた、会話練習、聴き取り練習、読解テキスト等に取り組む。ドイツ語1Aと合わせて基本語彙や表現を習得し、ペアやグループでの練習を通して、日常生活の身近なことについてドイツ語で相手の言うことを理解し、自分の情報を伝えられるようになる。	
ドイツ語2B	さまざまな資料を用いてコミュニケーション能力を養成する。自分の日常生活の場面に題材を求めた、会話練習、聴き取り練習、読解テキスト等に取り組む。ドイツ語1Bと合わせて基本語彙や表現を習得し、ペアやグループでの練習を通して、日常生活の身近なことについてドイツ語で相手の言うことを理解し、自分の情報を伝えられるようになる。	
ドイツ語演習初級A	ドイツ語をもっと勉強したい、ドイツ語圏をもっと知りたい、ドイツ語圏に留学したいという学生のための授業である。遊びの要素を取り入れながら、語彙を増やし、ドイツ留学や旅行に必要な会話力を養っていく。	
ドイツ語演習初級B	ドイツ語をもっと勉強したい、ドイツ語圏をもっと知りたい、ドイツ語圏に留学したいという学生のための授業である。遊びの要素を取り入れながら、語彙を増やし、ドイツ留学や旅行に必要な会話力を養っていく。	
スペイン語1A	スペイン語で簡単な自己紹介や都市の紹介できるようになることを目標、スペイン語の基本的文法を学習する。毎回学習する内容は、常に表現活動と密接に結びついている。文法や語彙（語彙の用法）をしっかり学ぶことで豊富な内容のことがらをやり取りし、お互いが理解しあうことが可能となる。毎回指示された復習内容を積み重ねることで、スペイン語のできることを増やす。	

スペイン語1B	1Aに続いて、スペイン語で簡単なコミュニケーションができるようになるための練習、活動を行なう。自分や家族について、好きなこと、日常生活についてなどが表現できるようになることを目指す。毎回学習する内容は、常に表現活動と密接に結びついている。文法と語彙（語彙の用法）をしっかりと学ぶことで豊富な内容のことがらをやり取りし、お互いが理解しあうことが可能となる。毎回指示された復習内容を積み重ねることで、スペイン語でできることを増やす。	
スペイン語2A	スペイン語で簡単なコミュニケーションができるようになることを目的とした練習、活動を行なう。適切で円滑なコミュニケーションを行なうためには、適切な構造、語彙を使用しなくてはならない。1Aで学習した構造を使って、さらに語彙の練習をしながら自分なりに表現活動ができるように練習していく。言語の面白さ、コミュニケーション活動の楽しさを体験する。新しい世界をすることは異文化理解のための第1歩である。	
スペイン語2B	1Aに続いて、スペイン語で簡単なコミュニケーションができるようになるための練習、活動を行なう。適切で円滑なコミュニケーションを行なうためには、適切な構造、語彙を使用しなくてはならない。1Bで学習、練習した構造を使って、さらに語彙の練習を重ねて、自分なりに表現活動ができるようにする。言語の面白さ、コミュニケーション活動の楽しさを体験する。新しい世界をすることは異文化理解に繋がる。	
スペイン語演習初級A	スペイン語1、2を履修中（初級を学習中）の学生を対象に、日常の簡単なコミュニケーションが円滑に行なえるようになるための訓練、主に音声理解、様々なコミュニケーションテーマを題材にして表現活動が出来ると同時に、スペイン語圏の社会文化についての理解を深める。スペイン語1、2の学習を音声面からサポートする。	
スペイン語演習初級B	演習初級Bに引き続いて、スペイン語1B、2Bを履修中（初級学習中）の学生を対象に、日常のかんたんなコミュニケーションが円滑に行なえるようになるための訓練、主に音声理解、口頭表現能力の向上を目指す。	
ロシア語1A	ロシア語の文字、発音、文法の説明と基本的な文型の練習を行う。キリル文字はラテン文字（ローマ字）とは異なるアルファベットであるため、最初に時間をかけてじっくりと取り組む。またロシア語の学習に合わせて文化・社会に関する紹介も行う。	
ロシア語1B	この授業は、一年間で完結する授業です。春学期に引き続き、標準ロシア語文を読む上で必要な文法を習得していく。文法の総仕上げを行い、訳読を中心に進めていく。	
ロシア語2A	発音、文法、日常的会話表現などを確認しながら、ロシア語の基礎の基礎を身につける。文を正しく発音できるようになり、その上で基本的な文法知識を修得し、それを使って読み、書き、話す練習を行い、ロシア語を正しく運用する技能を身につける。	
ロシア語2B	1Aで学んだことを確認しながら、さらにロシア語の基礎的な能力を伸ばす。1A同様、基本的な文法知識を学習したのち、それを利用して読み、書き、話す練習を行い、より実践的な能力を身につける。	
韓国語1A	文字と発音の基礎を始めに、基本的なあいさつ表現、基礎語彙、基本的な助詞、用言の活用の基礎を学ぶ。自己紹介の表現をはじめ、実践的な表現を獲得する。待遇法のうち、丁寧な文体を学ぶ。「読む」、「書く」技能に中心を置く。	
韓国語1B	1Aで学習した基礎をうち固めながら、用言の活用の様々なタイプに習熟し、尊敬形や過去形、また用言の終止形に加えて、接続形などの諸形といった文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、実践的な表現力を養う。「読む」、「書く」技能に中心を置く。	
韓国語2A	文字と発音の基礎を手始めに、基本的なあいさつ表現、基礎語彙、基本的な助詞、用言の活用の基礎を学び、自己紹介の表現をはじめ、実践的な表現を獲得する。待遇法のうち、丁寧な文体を学ぶ。「聞く」、「話す」技能に中心を置く。	

韓国語2B	2Bで学習した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、尊敬形や過去形、また用言の終止形に加えて、接続形などの諸形といった文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、実践的な表現力を養う。「聞く」、「話す」技能に中心を置く。	
韓国語演習初級A	高等学校などで韓国語の基礎の学習を終えた中級学習者を対象とする。発音、語彙、文法、表現それぞれの既存の基礎的な知識を新たに整理しながら、豊かで実践的な表現力を培う。	
韓国語演習初級B	高等学校などで韓国語の基礎の学習を終えた中級学習者を対象とする。発音、語彙、文法、表現それぞれの既存の基礎的な知識を確認しつつ、さらに豊かで実践的な表現力を培う。	
日本語1A	大学での学びに求められる日本語能力を聴解や読解、ディスカッション等を通して学ぶ。また、日本語の語彙や文法・句型の力も向上させる。春学期は、指定教科書の第1課から第5課を扱う。	
日本語1B	大学での学びに求められる日本語能力を実践的に学ぶ。また、日本語の語彙や文法・句型の力も向上させる。秋学期は、指定教科書の第6課、第7課、第9課を扱う。	
日本語2A	【口頭表現】クラスの中で個人、あるいはグループで発表準備、発表を行い、具体的な話題について発信する力を身につける。	
日本語2B	【口頭表現】クラスの中で発表準備と発表を行い、社会的な話題について発信する力を身につける。	
イタリア語の基礎A	イタリア語初級（基礎文法・会話） イタリア語で簡単なコミュニケーションが取れるようになること。 イタリア語の初級文法を身につけること。 様々な動詞の現在形が正しく活用できるようになること。	
イタリア語の基礎B	イタリア語初級（文法・会話）。基本的には「イタリア語の基礎A」（春学期開講）の学習を終えた学生向けの授業。 イタリア語で簡単なコミュニケーションが取れるようになること（自己紹介や店での注文ができ、簡単な質問に返答できる）。 イタリア語の初級文法を身につけること（様々な動詞の現在形を正しく活用させられる）。 具体的には、イタリア語検定5級合格レベルを目指す。	
アラビア語の基礎A	アラビア語には大きく分けて標準アラビア語（フスハー）と口語アラビア語（アーンミーヤ）の2種類があるが、この授業では標準アラビア語の方を学ぶ。まずはアラビア語の文字と発音に取り組み、1日も早くアラビア語の文字の読みと書きができるようになることを目指す。それに続いて挨拶などの簡単な表現や地名・人名などの単語などについて習得し、その中で読み・書きだけでなく、聞く・話す能力も身につけるようにする。さらにその後は一部の文法の理解に努め、それと同時に適宜既習事項の問題練習を通じて、言語の4技能の向上を図る。	
アラビア語の基礎B	アラビア語の基礎Aの内容を受けて、名詞の数、人称代名詞、前置詞、指示代名詞、形容詞・動詞などの各事項について学ぶ。また「アラビア語の基礎A」同様に適宜既習事項の問題練習を通じて、文法事項を復習する。さらにこの段階でも使用できる会話表現の練習にも努める。	
ギリシア語研究A	ホメロスの叙事詩やソフォクレスを初めとする悲劇作家、プラトンやアリストテレスといったギリシア哲学者たち、そして『新約聖書』やキリスト教教父によって用いられ、西洋文化を理解するために不可欠なギリシア語の基礎を学び、簡単な読解の練習をする。	

ギリシア語研究B	ホメロスの叙事詩やソフォクレスを初めとする悲劇作家、プラトンやアリストテレスといったギリシア哲学者たち、そして『新約聖書』やキリスト教教父によって用いられ、西洋文化を理解するために不可欠なギリシア語の基礎を学び、簡単な読解の練習をする。	
ラテン語研究A	ラテン語は古代ローマ帝国で公用語として使われた言語で、西ローマ帝国滅亡後もキリスト教（ローマ・カトリック）の公用語として、また近代に至るまで学術、文学の領域でも主要な言語として西洋世界を支え続けてきた。フランス語やイタリア語といったいわゆるロマンス語はラテン語から派生した言語であり、ラテン語について学ぶことは今日においても西洋世界を深く知る一助となるだろう。本授業では所定の教科書を使いながら基礎的な文法事項を学びつつ、文法構造の解析、訳などの練習問題を行っていく。	
ラテン語研究B	ラテン語は古代ローマ帝国で公用語として使われた言語で、西ローマ帝国滅亡後もキリスト教（ローマ・カトリック）の公用語として、また近代に至るまで学術、文学の領域でも主要な言語として西洋世界を支え続けてきた。フランス語やイタリア語といったいわゆるロマンス語はラテン語から派生した言語であり、ラテン語について学ぶことは今日においても西洋世界を深く知る一助となるだろう。本授業では所定の教科書を使いながら基礎的な文法事項を学びつつ、文法構造の解析、訳などの練習問題を行っていく。	
手話1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業では、講義と手話実技を行う。 2. 講義の内容は、聴覚障がい者とは・コミュニケーション方法・日常生活で困ること・手話の歴史・ろう運動の歴史・通訳現場についてなど。 3. 手話実技では、ろう者が使っている自然な手話を学び、自己紹介ができるようにする。 4. その他、啓発ビデオの鑑賞、ろう者をゲストに招いて会話を楽しむ等を行う。 	
ヨーロッパ言語圏の文化入門1	フランス（パリ）をテーマとした講義形式の授業である。パリは20の区に分かれているが、それぞれの区に特徴がある。本講義ではそれらの区から複数の区を選出して扱いつつ、歴史的・文化的なさまざまなトピックを解説することで、学生がフランス文化についての基礎的な知識を身につけ、異なる文化への理解を深めるための視座をもてるようにする。	
ヨーロッパ言語圏の文化入門2	「ドイツ」という国について我々は何を知っているだろうか。ヨーロッパに位置するEUの国、クラシック音楽、ビールにジャガイモ、といった事実から固定観念までさまざまである。しかし、この国の歴史や社会・文化・政治・芸術・他のヨーロッパの国々との関係、そしてこの国に暮らす人々が何を好み何を苦手とするのか、と問われた時、明確な解答を与えることは難しい。本講義では、「なんとなく」知ってはいるけれど、日本から空間的・時間的（時差）・文化的・思想的に大きく離れたドイツという国にまつわるテーマを様々な視点から掘り下げていき、日本の社会・文化との相違を浮き彫りにしていく。	
ヨーロッパ言語圏の文化入門4	最初の数回の授業で、ロシアの歴史を概観する。その後で、ロシアの文学、音楽、絵画を紹介し、最後に宗教の話をする予定である。	
ヨーロッパ言語圏の文化各論1	本講義は、基礎的なフランス語を学習していること（音読ができ、きちんと動詞の活用ができ、辞書を引けば訳ができるレベル）を前提としている。フランス語圏の子ども向けの新聞やウェブニュース（場合によっては一般向けの雑誌やオピニオン誌）を題材にしながら、現在のフランス語圏ではどのような話題を、どのように語っているのかをみていく。 扱う内容は講義時点で語られている話題によって異なるが、社会、歴史、文化、芸術などを中心に学んでいく予定である。同じニュースでも日本とフランス語圏では語られ方が違うことや、そもそも取り扱う話題の選択自体が異なることを実感しつつ、フランス語「を」学ぶのと同時にフランス語「で」学んでもらう授業である。	

	ヨーロッパ言語圏の文化各論2	本講義では、「なんとなく」知ってはいるけれど、日本から空間的・時間的(時差)・文化的・思想的に大きく離れたドイツという国にまつわるテーマを様々な視点から掘り下げていき、日本の社会・文化との相違を浮き彫りにしていく。	
	ヨーロッパ言語圏の文化各論3	スペイン語圏の祝祭の簡単な紹介文章を読みながら、その背景となる歴史、文化、人々の生活について目を向け、スペイン語圏の文化の豊かさを理解することを目的とする。授業では簡単なスペイン語の文章を出発点として、そこから調査テーマを見つけて掘り下げていく。文章に触れながら、日常的なスペイン語の語彙の用法等についても知識を増やし、スペイン語でのコミュニケーションの一助になるように考えるとともに、外国語を読む際の効果的な方法についても考えてい。	
	アジア言語圏の文化入門1	この授業ではアジアの中でも特に中国・中国文化を対象とする。アジアとは、アジア言語圏とはどのような意味でどのような地域を指すのかということ概観し、具体的にはアジアの中の中国、中国の言語・思想・民族・宗教などについて概説しながら、日本文化への影響や日本人のアジア認識などについて話す。場合によっては韓国朝鮮文化にも触れることがある。履修者にも様々なことについて考えてもらい、リアクションペーパーなどに回答してもらう。	
	アジア言語圏の文化入門2	アジアのアイデンティティを考察するためのケーススタディとして中国朝鮮族を取り上げる。まず歴史・教育・文化・宗教などをトピックスに中国朝鮮族とはなにかを学ぶ。それから戸田郁子『中国朝鮮族を生きる』(岩波書店、2011)をテキストに中国・朝鮮半島・日本の狭間で生きる朝鮮族の世界を読み解き、理解を深める。	
	アジア言語圏の文化入門3	イスラームが有力な社会生活規範(道徳)となっている西アジアの地域や人々のことを理解するために、「イスラーム」という言葉の意味から始まり、唯一神アッラー、イスラームの基本である六信五行、聖典クルアーン、イスラームの開祖ムハンマドの生涯などの基本事項について学ぶ。	
	アジア言語圏の文化入門4	東南アジア諸国は、政治経済の両面で国際社会において重要な地域となっており、日本との関係も近年さらに緊密なものになっている。そうした中、東南アジアの地域事情や社会、文化を学ぶことは国際社会の多様性を理解するとともに、日本の社会や文化を相対化する視点を養うことにもつながるこの授業では、東南アジアに関する基礎的な知識を学び、東南アジアの映画作品や芸術作品を鑑賞し、そこに描かれた社会や文化を考察することを通して、地域特有の文化や価値観を理解することをめざす。	
	アジア言語圏の文化各論3	歴史、文化、宗教を主なトピックスに近代的な国際都市ー上海の変遷について学習する。また、接続科目であるスタディーツアーにおける現地での交流に必要な簡単な中国語を習得する。	
	アジア言語圏の文化各論4	「アジア言語圏の文化各論3」では上海に限定したが、本講義はさらに範囲を広げて中国全般を扱う。まず、日中間の交流の歴史を概観する。それから王曉秋著『中日文化交流史話』(日本エディタースクール出版部、2000)をテキストに古代から戦前までの日中交流の軌跡をたどる。最後にこれまでの学習成果にもとづきそれぞれレポートを作成する。	
2 応用 科目	英語特別研究A	中高6年間のカリキュラムで、多様な文法を学習しているが、それらがうまく使いこなせるほど身につけているかは人それぞれである。このクラスでは、高校までに学習した文法項目について理解を深め、今持つ英語力を十分に活用できるようになることを目指す。主にはTOEFL ITP で400点程度(英検準2級~2級程度)の英語力を持った学生が対象である。	

英語特別研究B	英語特別研究Aに続き、高校までに学習した文法項目について理解を深め、今持つ英語力を十分に活用できるようになることを目指す。授業後半では少し骨のあるアカデミックリーディングにも取り組む。主には TOEFL ITP で400点程度（英検準2級～2級程度）の英語力を持った学生が対象である。	
英語研究1A	アメリカのCBSのニュース報道番組の映像を視聴し、その内容を正確に理解し、理解した内容について英語で説明したり、自分の考えを表現する力を身につけることを目的とする。人々の日常の暮らし、健康やライフスタイル、ハイテク、環境、経済、ポップカルチャーに関する映像をくり返し視聴し、英文を読んで、ディクテーションや内容理解の演習、自分の考えを英語で表現するアウトプット活動などを行う。	
英語研究1B	アメリカのCBSのニュース報道番組の映像を視聴し、その内容を正確に理解し、理解した内容について英語で説明したり、自分の考えを表現する力を身につけることを目的とする。人々の日常の暮らし、健康やライフスタイル、ハイテク、環境、経済、ポップカルチャーに関する映像をくり返し視聴し、英文を読んで、ディクテーションや内容理解の演習、自分の考えを英語で表現するアウトプット活動などを行う。	
英語研究2A	この授業では、世界各地の英語圏に住む若者が、自国を紹介し、自分の現在の姿や将来のビジョンを語るビデオを視聴する。多様な英語のアクセントに慣れ、リスニング力を向上させるとともに、視聴した内容を要約する練習をする。また、ビデオを参考にして、自分の出身地や行ったことがある場所を紹介するプレゼンテーションを行う。さらに、疑問文の作り方を復習し、ビデオやプレゼンテーションの内容について質問をする練習をする。	
英語研究2B	この授業では、国際放送の英語のニュースを視聴します。世界各地で起こっている教育、環境、ジェンダーなど様々な問題について学ぶとともに、使われている語彙や表現を学び、視聴した内容を英語で要約する練習をする。また、ニュースの内容に関連したトピックについて、自分の考えを英語でまとめ、ディスカッションやプレゼンテーションの中で発表する練習をする。	
フランス語3A	1年次で学んだフランス語の基礎を活かして、さらに幅広い表現を学んでいく。 フランス語4Aとセットの授業で、こちらの授業ではフランス語の基礎をマスターするだけでなく、フランス語ネイティブの教員の指導のもとでペアやグループによる会話やディスカッションを行い、実践的なフランス語を身につける。	
フランス語3B	いままで学んだフランス語の基礎を活かして、さらに幅広い表現を学んでいく。 フランス語4Aとセットの授業で、こちらの授業ではフランス語の基礎をマスターするだけでなく、フランス語ネイティブの教員の指導のもとでペアやグループによる会話やディスカッションを行い、実践的なフランス語を身につける。	
フランス語4A	1年次で学習したことを土台にし、さらに多くの表現を学んでいく。 フランス語の基本的な文法を理解し、実際にそれらを使って自己表現を行います。	
フランス語4B	いままでで学修したことを土台にし、フランス語の基本的な文法を理解し、実際にそれらを使って自己表現を行なう。 フランス語を読み、書き、聞き、話す技能を高め、実践的に使えるようにフランス語の基礎の総仕上げを行なっていく。	
フランス語研究1A	この授業では、フランス語の初級をすでに学んだ学生が、さらなるフランス語の力のステップアップをできるように、「生活の具体的な場面に基づいた対話文」と「フランス文化を紹介したテキスト」を購読する。	
フランス語研究1B	この授業では、フランス語の初級をすでに学んだ学生が、さらなるフランス語の力のステップアップをできるように、「生活の具体的な場面に基づく対話文」と「フランス文化を紹介したテキスト」を購読する。	
フランス語研究2A	この授業では、フランス語の初級をすでに学んだ学生が、さらなるフランス語の力のステップアップをできるように、「生活の具体的な場面に基づいた対話文」と「フランス文化を紹介したテキスト」を購読する。	

フランス語研究2B	この授業では、フランス語の初級をすでに学んだ学生が、さらなるフランス語の力のステップアップをできるように、「生活の具体的な場面に基づく対話文」と「フランス文化を紹介したテキスト」を購読します。	
フランス語演習中級A	第二外国語としてフランス語を学ぶ2年生を対象としている。この授業では、高度な事柄を習得するために時間を費やすというよりは、既習文法の復習をおろそかにすることなく、主に「話す」、「聞く」、「読む」を中心に練習する。	
フランス語演習中級B	第二外国語としてフランス語を学ぶ2年生を対象としている。この授業では、高度な事柄を習得するために時間を費やすというよりは、既習文法の復習をおろそかにすることなく、主に「話す」、「聞く」、「読む」を中心に練習する。	
中国語3A	「中国語1A・1B」「2A・2B」を学んだ国際学科学生が、さらに中級程度の文法事項を学び、語彙を増やしつつ中国語の表現の多様性について理解し、応用力を付ける科目である。中国語圏の社会と文化に対する理解も深める。「中国語4A」と並行して同時に学ぶ。	
中国語3B	「中国語3A」の学習成果の上に、口語に文語の混じる中国語のさらに複雑な表現を学ぶ。これらを通して中国語についての理解を一層深め、中国語の読解力、作文力を高める。中国語圏の社会と文化に対する理解を一層深める。「中国語4B」と並行して同時に学ぶ。	
中国語4A	「中国語1A・1B」「中国語2A・2B」を学んだ国際学科学生が、さらに中国語の表現の多様性を学んで会話力や応用力、そして実践力を高める。「中国語3A」と並行して同時に学び、秋学期は「中国語4B」を継続して学ぶ。	
中国語4B	「中国語4A」の学習成果の上に、引き続き中級程度の中国語らしい表現を身につけ、さらなる会話力や応用力、そして実践力の向上を図る。「中国語3B」と並行して同時に学ぶ。	
中国語研究1A	「中国語1」「中国語2」「中国語の基礎」等の初級に続く発展クラス。文法事項の復習と整理を中心に進め、作文練習や小テスト、また音読練習の繰り返しにより、文法事項の定着と語彙力増強をはかる。テキストのほかにプリント教材を利用し、平易な文章の読解も行う。	
中国語研究1B	「中国語1」「中国語2」「中国語の基礎」等の初級に続く発展クラス。文法事項の復習と整理を中心に進め、作文練習や小テスト、また音読練習の繰り返しにより、文法事項の定着と語彙力増強をはかる。テキストのほかにプリント教材を利用し、平易な文章の読解も行う。	
中国語研究2A	「中国語1AB」と「中国語2AB」の単位を修得済みの学生を対象に、引き続き中国語の基礎文法を学ぶとともに、さらなるコミュニケーション能力を高めることを目指す。原則として、「中国語研究2B」を継続して学ぶ。	
中国語研究2B	「中国語1AB」と「中国語2AB」の単位を修得済みの学生、また原則として「中国語研究2A」を履修した学生を対象に、中国語の基礎文法を学ぶとともに、さらなるコミュニケーション能力を高めることを目指す。	
中国語演習中級A	「中国語1A・1B」「中国語2A・2B」の単位を修得済みの学生がさらにコミュニケーション能力を高めるために、「中国語研究1A」または「中国語研究2A」、あるいは「中国語3A」「中国語4A」と並行して同時に学ぶ科目である。特に中級レベルのオーラル・コミュニケーションの向上を目指して集中的に訓練する。原則として、「中国語演習中級B」を継続して学ぶ。	
中国語演習中級B	「中国語1A・1B」「中国語2A・2B」の単位を修得済みの学生がさらにコミュニケーション能力を高めるために、「中国語研究1A」または「中国語研究2A」、あるいは「中国語3A」「中国語4A」と並行して同時に学ぶ科目である。特に中級レベルのオーラル・コミュニケーションの向上を目指して集中的に訓練する。原則として、「中国語演習中級A」を継続して学ぶ。	

ドイツ語3A	初級文法の復習を多く取り入れながら、再帰代名詞など初級では学習しなかった基礎文法を学ぶ。 読解中心であるが、総合教科書を用いて、読むだけでなく文法や会話、作文練習をしながら、ドイツ語の運用能力を高めていく。	
ドイツ語3B	関係代名詞や受動態、接続法などドイツ語初級文法の未習の項目を学ぶ。 読解、会話、作文練習などで運用能力を高めていく。教科書とは違ったタイプの文章にも触れられるよう、適宜プリントを配布します。	
ドイツ語4A	昨年勉強したドイツ語から、語彙力を拡大する練習を行いつつ、ビデオ教材なども取り入れながら、自由会話を中心にドイツ語の勉強を進める。目的：自分のことについて会話できる。 概ね欧州言語共通枠組A2の水準を目安とし、ドイツ語技能検定試験3級やStart Deutsch 2 等の受験のための指導を併せ行う。	
ドイツ語4B	昨年勉強したドイツ語から、語彙力を拡大する練習を行いつつ、ビデオ教材なども取り入れながら、自由会話を中心にドイツ語の勉強を進める。目的：自分のことについて会話できる。 概ね欧州言語共通枠組A2の水準を目安とし、ドイツ語技能検定試験3級やStart Deutsch 2 等の受験のための指導を併せ行う。	
ドイツ語研究1A	ドイツの日常生活や文化を扱ったやさしい文章を読んでいく。ただ訳すだけではなく、発音など1年次の復習をすると同時に、中級レベルの新しい文法事項も少しずつ学んでゆきます。1年間学んだドイツ語を生かして、さらにドイツの暮らしや社会、文化について知識を深めまていく。	
ドイツ語研究1B	ドイツの日常生活や文化を扱ったやさしい文章を読んでいく。ただ訳すだけではなく、発音など一年次の復習をすると同時に、中級レベルの新しい文法事項も少しずつ学ぶ。受動態や接続法など、新しい文法事項の比重が高くなる。	
ドイツ語研究2A	さまざまな資料を用いて文法の応用力や語彙力を養成する。自分の日常生活の場面に題材を求めた、会話練習、聴き取り練習、読解テキスト等に取り組む。ペアやグループでの練習を通して、日常生活の身近なことについてドイツ語で相手の言うことを理解し、自分の情報を伝えられるようになる。	
ドイツ語研究2B	さまざまな資料を用いて文法の応用力や語彙力を養成する。自分の日常生活の場面に題材を求めた、会話練習、聴き取り練習、読解テキスト等に取り組む。ペアやグループでの練習を通して、日常生活の身近なことについてドイツ語で相手の言うことを理解し、自分の情報を伝えられるようになる。	
ドイツ語演習中級A	ドイツ語の実践力を高める。ドイツ語演習やドイツ語研究を履修したことのある人、現在ドイツ語研究を履修している人、留学希望者はもちろん、そのどれにも当てはまらない人もドイツ語の基礎を学んだことのある人は履修可能である。学年、学科に関係なくドイツ語をさらに楽しく学びたい人すべてに向いている。授業を進めながら、クラスにふさわしいやり方をとっていく。使用する教科書は、大学生の観点から文化を多角的に紹介していくものである。この教材を読み、聴き、会話を練習をしてゆく。とりわけ聞き取りと表現練習に重点をおく。 語彙は会話にとっても重要なので、対面授業に切り替わった場合は課が終わるごとに基本的な単語テストを行い、語彙力を養う。	

ドイツ語演習中級B	<p>ドイツ語の実践力を高める。ドイツ語演習やドイツ語研究を履修したことのある人、現在ドイツ語研究を履修している人、留学希望者はもちろん、学年、学科を問わずそのどれにも当てはまらない人もドイツ語の基礎を学んだことのある人は履修可能である。ドイツ語をさらに楽しく学びたい人すべてに向いている。授業を進めながら、クラスにふさわしいやり方とっていく。使用する教科書は、大学生の観点から文化を多角的に紹介していくものである。この教材を読み、聴き、会話を練習をしてゆく。とりわけ聞き取りと表現練習に重点をおく。語彙は会話にとっても重要なので、対面授業が可能になったら課が終わるごとに基本的な単語テストを行い、語彙力を養う。</p>	
スペイン語3A	<p>スペイン語1、2（初級）で学んだスペイン語をさらにブラッシュアップし、コミュニケーションテーマを広めて活動が出来るような文法理解とそれを使って表現活動ができるようにする。適切で円滑なコミュニケーションを行なうには、適切な構造と語彙を身につけなくてはならない。言語の面白さ、スペイン語の特徴を発見する楽しみを体験していきます。異文化理解をさらに深めていく。</p>	
スペイン語3B	<p>スペイン語1、2（初級）および3A、4Aで学んだスペイン語をさらにブラッシュアップし、コミュニケーションテーマを広めて活動が出来るような文法理解とそれを使った表現活動を学ぶ。適切で円滑なコミュニケーションを行なうには、適切な構造と語彙を身につけなくてはならない。言語の面白さ、スペイン語の特徴を発見する楽しみを体験していきます。異文化理解をさらに深めていく。</p>	
スペイン語4A	<p>スペイン語1、2（初級）で学んだスペイン語をさらにブラッシュアップし、コミュニケーションテーマを広めて活動が出来るような練習主体を行ないます。3Aで学んだ構造を使って、さまざまなことが表現できるようになることを目指します。適切で円滑なコミュニケーションを行なうには、適切な構造と語彙を身につけなくてはなりません。言語の面白さ、スペイン語の特徴を発見する楽しみを体験していきます。異文化理解をさらに深めていきましょう。</p>	
スペイン語4B	<p>スペイン語1、2（初級）で学んだスペイン語をさらにブラッシュアップし、テーマを広めてコミュニケーション活動が出来るようになることを目指す。適切で円滑なコミュニケーションを行なうには、適切な構造と語彙を身につけなくてはならない。言語の面白さ、スペイン語の特徴を発見する楽しみを体験していきます。異文化理解をさらに深めていく。</p>	
スペイン語研究1A	<p>スペイン語研究1Aでは、昨年度学んだスペイン語の基礎を進展させ、スペイン語でのコミュニケーションの4技能（聞く、話す、読む、書く）を使って学習する。また、スペイン語圏の文化と生活をトピックにしたテーマについてスペイン語の音声聞き取り、文章を読んだ後、同じトピックの日本文化と生活について、スペイン語で文章を書き、プレゼンテーションをする。</p>	
スペイン語研究1B	<p>スペイン語研究1Aに引き続き、4技能（聞く、読む、書く、話す力）のスペイン語力を向上させ、スペイン語圏の文化と社会について勉強する。スペイン語の初歩レベルを終えた学生が、一歩進んでスペイン語の実際の使い方や情報伝達を体験し、中級レベルを目指して学習する。コミュニケーションを中心として、スペインの文化と社会について簡単なナレーションを聞いたり、文を読んだりし、必要に応じて文法も勉強する。また、容易な表現を用いてスペイン語で日本の文化と社会について語ることも学ぶ。</p>	
スペイン語研究2A	<p>スペイン語の基礎の学習を踏まえて、さらに今度はスペイン語圏の魅力を直接味わうことを目的とする。スペインの様々な地域の紹介の映像、音声、また文章を通して、スペインの様々な地域、文化についての理解を深めていきます。DVDの視聴と文章の理解でスペインの魅力を理解する。</p>	
スペイン語研究2B	<p>スペイン語の基礎の学習を踏まえて、さらに今度はスペイン語圏の魅力を直接味わうことを目的とする。スペインの様々な地域の紹介の映像、音声、また文章を通して、スペインの様々な地域、文化についての理解を深めていきます。DVDの視聴と文章の理解でスペインの魅力を理解する。</p>	

スペイン語演習中級A	スペイン語初級を終えた学生が、文法の知識の補充をしながら、日常の簡単なコミュニケーションをスムーズに行なえるようになるための訓練（音声理解・語彙習得・文法演習・口頭表現）を行う。	
スペイン語演習中級B	スペイン語演習中級Aに引き続き、スペイン語初級を終えた学生が、文法の知識の補充をしながら、日常の簡単なコミュニケーションをスムーズに行なえるようになるための訓練（音声理解・語彙習得・文法演習・口頭表現）を行う。	
ロシア語3A	ロシア語の基本事項を確認しながら、より体系的に学習する。読解テキストなどを通して実際に使われているロシア語に触れる。	
ロシア語3B	ロシア語の基本事項を確認しながら、より体系的に学習する。読解テキストなどを通して実際に使われているロシア語に触れる。	
ロシア語4A	ロシア語文法の中核的な部分を完成させ、日常生活に必要な表現で使われる文法を完全に身につける。文章を読みながら（あるいはリスニングの教材を使いながら）文法の学習および復習を行う。	
ロシア語4B	ロシア語文法の中で、外国人には理解することが難しい「動詞の体（アスペクト）」および「移動動詞」を克服し、また書きことばにのみ現れる分詞を習得し、ロシア語文法を完全に身につけ、どのようなロシア語にも独力で対応できるだけの技能を身につける。また文法と同時にテキストの講読を行う。	
ロシア語研究1A	ロシア語の基本事項を確認しながら、より体系的に学習する。読解テキストなどを通して実際に使われているロシア語に触れる。	
ロシア語研究1B	ロシア語の基本事項を確認しながら、より体系的に学習する。読解テキストなどを通して実際に使われているロシア語に触れる。	
ロシア語研究2A	ロシア語文法の中核的な部分を完成させ、日常生活に必要な表現で使われる文法を完全に身につける。文章を読みながら（あるいはリスニングの教材を使いながら）文法の学習および復習を行う。	
ロシア語研究2B	ロシア語文法の中で、外国人には理解することが難しい「動詞の体（アスペクト）」および「移動動詞」を克服し、また書きことばにのみ現れる分詞を習得し、ロシア語文法を完全に身につけ、どのようなロシア語にも独力で対応できるだけの技能を身につける。また文法と同時にテキストの講読を行う。	
韓国語3A	韓国語の基礎の学習を終えた学習者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟しつつ、文法を確固たるものにし、併せて、語彙力の拡充をはかりつつ、豊かで実践的な表現力を培う。	
韓国語3B	韓国語の基礎を学習した者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、実践的な表現力を磨く。いかなる場でもいかなる語彙と文法を用いていかに言うかを学びながら、「話す」ことを軸に、「聞く」「話す」「読む」「書く」ことに、知的、実践的なアプローチを図る。	
韓国語4A	韓国語の基礎の学習を終えた学習者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、「過去のことを語る」、「婉曲に述べる」、「感嘆を表す」、「依頼する」といった、「話す」ための基本的な談話戦略的表現・ストラテジーを獲得しつつ、実践的な表現力を増強する。	

韓国語4B	韓国語の基礎を学習した者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、実践的な表現力を磨く。いかなる場でもいかなる語彙と文法を用いていかに言うかを学びながら、「話す書く」ことを基軸に、「聞く」「話す」「読む」「書く」実践的な技能を培う。	
韓国語研究1A	韓国語の基礎の学習を終えた学習者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟しつつ、文法を確固たるものにしてながら、併せて語彙力の拡充をはかりつつ、豊かで実践的な表現力を培う。	
韓国語研究1B	韓国語の基礎を学習した者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、実践的な表現力を磨く。いかなる場でもいかなる語彙と文法を用いていかに言うかを学びながら、「話す」ことを基軸に、「聞く」「話す」「読む」「書く」ことに、知的、実践的なアプローチを図る。	
韓国語研究2A	韓国語の基礎の学習を終えた学習者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、「過去のことを語る」、「婉曲に述べる」、「感嘆を表す」、「依頼する」といった、「話す」ための基本的な談話戦略的表現・ストラテジーを獲得しつつ、実践的な表現力を増強する。	
韓国語研究2B	韓国語の基礎を学習した者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、実践的な表現力を磨く。いかなる場でもいかなる語彙と文法を用いていかに言うかを学びながら、「書く」ことを基軸に、「聞く」「話す」「読む」「書く」ことに、知的、実践的なアプローチを図る。	
韓国語演習中級A	高等学校などで韓国語の基礎の学習を終えた中級学習者を対象とする。発音、語彙、文法、表現それぞれの既存の基礎的な知識を新たに整理しながら、豊かで実践的な表現力を培う。	
韓国語演習中級B	高等学校などで韓国語の基礎の学習を終えた中級学習者を対象とする。発音、語彙、文法、表現それぞれの既存の基礎的な知識を確認しつつ、さらに豊かで実践的な表現力を培う。	
日本語3A	社会人になっても通用する日本語表現能力を身につける。就職や仕事に必要な表現能力についても学ぶ。	
日本語3B	社会人になっても通用する日本語表現能力を身につける。就職や仕事に必要な表現能力についても学ぶ。	
日本語4A	このクラスでは、留学生が日本で、または母国の日本企業に就職するために必要なこと（自分を知る、キャリア・企業を知る、日本の就職活動）について学ぶ。また、日本の就職活動で重要となる日本語の語彙や表現を学ぶ。春学期は、指定教科書の第1課から第6課までを中心に扱う。	
日本語4B	このクラスでは、留学生が日本で、または母国の日本企業に就職するために必要なこと（自分を知る、キャリア・企業を知る、日本の就職活動）について学ぶ。また、日本の就職活動に必要な日本語表現能力を身につける。秋学期は、指定教科書の第7課から第10課までを中心に扱う。	
日本語研究1A	社会人になっても通用する日本語表現能力を身につける。就職や仕事に必要な表現能力についても学ぶ。	
日本語研究1B	社会人になっても通用する日本語表現能力を身につける。就職や仕事に必要な表現能力についても学ぶ。	

	日本語研究2A	このクラスでは、留学生が日本で、または母国の日本企業に就職するために必要なこと（自分を知る、キャリア・企業を知る、日本の就職活動）について学ぶ。また、日本の就職活動で重要となる日本語の語彙や表現を学びます。春学期は、指定教科書の第1課から第6課までを中心に扱う。	
	日本語研究2B	このクラスでは、留学生が日本で、または母国の日本企業に就職するために必要なこと（自分を知る、キャリア・企業を知る、日本の就職活動）について学ぶ。また、日本の就職活動に必要な日本語表現能力を身につけます。秋学期は、指定教科書の第7課から第10課までを中心に扱う。	
	日本語研究3A	この授業では、日本語の「丁寧さ」や「あらたまり」の概念に意識を向けながら、日本のビジネスシーンで用いる日本語のコミュニケーションについて学ぶ。ビジネスシーンやトピック別に、読解や聴解、聴読解の練習をしながら、実践的な練習も行う。また、日本の企業文化についてのディスカッションも行う。	
	日本語研究3B	この授業では、日本語の「丁寧さ」や「あらたまり」の概念に意識を向けながら、日本のビジネスシーンで用いる日本語のコミュニケーションについて学ぶ。ビジネスシーンやトピック別に、読解や聴解、聴読解の練習をしながら、実践的な練習も行う。また、日本の企業文化についてのディスカッションも行う。	
	手話2	1. 授業では、講義と手話実技を行う。 2. 講義の内容は、聴覚障がい者とは・コミュニケーション方法・日常生活で困ること・手話の歴史・ろう運動の歴史・通訳現場についてなど。 3. 手話実技では、ろう者が使っている自然な手話を学び、自己紹介ができるようにする。 4. その他、啓発ビデオの鑑賞、ろう者をゲストに招いて会話を楽しむ等を行う。	
3 発 展 科 目	英語研究3A	Topic: Exploring American Society This course uses the discipline of anthropology to explore immigrant and multicultural experiences in the United States. Throughout the course we will explore representations of culture and identity, analyze concepts and categories significant to particular groups, and discuss a range of intercultural issues. (和訳)「トピック：アメリカ社会を探索」 このコースでは、人類学の分野を使用して、米国における移民と多文化の経験を探る。コース全体を通じて、文化とアイデンティティの表現を探索し、特定のグループにとって重要な概念とカテゴリーを分析し、さまざまな異文化間の問題について議論する。	
	英語研究3B	Topic: Exploring American Society This course uses the discipline of anthropology to explore immigrant and multicultural experiences in the United States. Throughout the course we will explore representations of culture and identity, analyze concepts and categories significant to particular groups, and discuss a range of intercultural issues. 「トピック：アメリカ社会を探索」 このコースでは、人類学の分野を使用して、米国における移民と多文化の経験を探る。コース全体を通じて、文化とアイデンティティの表現を探索し、特定のグループにとって重要な概念とカテゴリーを分析し、さまざまな異文化間の問題について議論する。	
	フランス語研究3A	戯曲Le Père(Florian Zeller作、2012年)をフランス語で読む。認知症の父親をめぐる、家族の問題を扱った作品である。フランス語は簡単な会話調なので、初級文法の知識があれば読める。一通り訳したら日本語で演じる。	
	フランス語研究3B	戯曲La Mère(Florian Zeller作、2010年)をフランス語で読む。母親の孤独をめぐる、家族の問題を扱った作品である。フランス語は簡単な会話調なので、初級文法の知識があれば読める。一通り訳したら日本語で演じる。	
	フランス語研究4A	戯曲Le Père(Florian Zeller作、2012年)をフランス語で読む。認知症の父親をめぐる、家族の問題を扱った作品である。フランス語は簡単な会話調なので、初級文法の知識があれば読める。一通り訳したら日本語で演じる。	

フランス語研究4B	戯曲La Mère(Florian Zeller作、2010年)をフランス語で読む。母親の孤独をめぐる、家族の問題を扱った作品である。フランス語は簡単な会話調なので、初級文法の知識があれば読める。一通り訳したら日本語で演じる。	
中国語研究3A	中国語研究科目を履修した者、または中国語検定試験3級、HSK4級に相当するレベルを持つ者を対象とする。日常生活に使うコミュニケーション能力を高めるとともに、読解力の養成と作文スキルの向上を図る。	
中国語研究3B	中国語研究科目を履修した者、または中国語検定試験3級、HSK4級に相当するレベルを持つ者を対象とする。日常生活に使うコミュニケーション能力を高めるとともに、読解力の養成と作文スキルの向上を図る。春学期に続く内容。	
中国語研究4A	2年程度中国語を履修した学生を対象に、小説などの講読を通して中国語のスピーチ能力と作文能力を強化する。	
中国語研究4B	2年程度中国語を履修した学生を対象に、小説などの講読を通して中国語のスピーチ能力と作文能力を強化する。	
ドイツ語研究3A	Deutsch für Lerner:innen mit Vorkenntnissen - In diesem Kurs geht es um die mündliche und schriftliche Kommunikation über Themen des Alltags wie zum Beispiel Studium, Familie und Reisen. Sie lesen, sehen und hören kurze Texte oder Videos. Sie beschreiben, vergleichen und sagen die eigene Meinung. (和訳) 予備知識のある学習者向けのドイツ語 - このコースは、勉強、家族、旅行などの日常的なトピックに関する口頭および書面によるコミュニケーションに関するものである。短いテキストやビデオを読んだり、見たり、聞いたりする。また、自分の意見を説明し、比較し、表現する。	
ドイツ語研究3B	Deutsch für Lerner:innen mit Vorkenntnissen - In diesem Kurs geht es um die mündliche und schriftliche Kommunikation über Themen des Alltags wie zum Beispiel Studium, Familie und Reisen. Sie lesen, sehen und hören kurze Texte oder Videos. Sie beschreiben, vergleichen und sagen die eigene Meinung. (和訳) 予備知識のある学習者向けのドイツ語 - このコースは、勉強、家族、旅行などの日常的なトピックに関する口頭および書面によるコミュニケーションに関するものである。短いテキストやビデオを読んだり、見たり、聞いたりする。また、自分の意見を説明し、比較し、表現する。	
ドイツ語研究4A	Deutsch für Lerner:innen mit Vorkenntnissen - In diesem Kurs geht es um die mündliche und schriftliche Kommunikation über Themen des Alltags wie zum Beispiel Studium, Familie und Reisen. Sie lesen, sehen und hören kurze Texte oder Videos. Sie beschreiben, vergleichen und sagen die eigene Meinung. (和訳) 予備知識のある学習者向けのドイツ語 - このコースは、勉強、家族、旅行などの日常的なトピックに関する口頭および書面によるコミュニケーションに関するものである。短いテキストやビデオを読んだり、見たり、聞いたりする。また、自分の意見を説明し、比較し、表現する。	
ドイツ語研究4B	Deutsch für Lerner:innen mit Vorkenntnissen - In diesem Kurs geht es um die mündliche und schriftliche Kommunikation über Themen des Alltags wie zum Beispiel Freizeit, Gesundheit und Hobbys. Sie lesen, sehen und hören kurze Texte oder Videos. Sie beschreiben, vergleichen und sagen die eigene Meinung. (和訳) 予備知識のある学習者向けのドイツ語 - このコースは、勉強、家族、旅行などの日常的なトピックに関する口頭および書面によるコミュニケーションに関するものである。短いテキストやビデオを読んだり、見たり、聞いたりする。また、自分の意見を説明し、比較し、表現する。	

スペイン語研究3A	<ul style="list-style-type: none"> ・一・二次で学んだ直説法の復習を通し、さらに複雑な表現へと進む土台を作る。 ・後半の授業では、文法中心のセクションに加え、教科書を利用して、スペイン語圏の国々の特徴や文化をスペイン語で読む&まとめる時間を設ける。 ・宿題や小テストの助けも得て、A2レベルの語彙力を涵養する。 ・スペイン語の接続法および命令法の用法を学ぶことで初級文法を修了し、辞書の助けを借りれば一般的な文章が読めるようになる。 	
スペイン語研究3B	<ul style="list-style-type: none"> ・総合テーマ:スペイン語圏の文化に親しむ 2019年にスペインで出版されたA2レベルの読本を教科書として用い、多様なスペイン語圏の文化に触れる。読んだ内容をスペイン語でまとめる、レジュメを作って発表するなどにもトライして欲しい。 	
スペイン語研究4A	<p>Al comienzo de clase, breve introducción a una provincia de España y a algún monumento representativo de la misma (vídeos).</p> <p>Después, conoceremos la época histórica en la que dicho monumento surgió por medio de breves textos; y, sobre todo, por medio del diálogo entre alumnos y profesor viendo diapositivas de Power Point.</p> <p>(和訳) 各授業、最初にスペインのある県について説明する。また、その県にある代表的なモニュメントを紹介する。(動画含む)</p> <p>その後、最初に紹介したモニュメントやその時代背景についてパワーポイントを見ながら、「なぜ造られたか?」、「いつ建てられたか?」、そして「誰が考えたか?」などを探る。</p>	
スペイン語研究4B	<p>Al comienzo de clase, breve introducción a una provincia de España y a algún monumento representativo de la misma (vídeos).</p> <p>Después, conoceremos la época histórica en la que dicho monumento surgió por medio de breves textos; y, sobre todo, por medio del diálogo entre alumnos y profesor viendo diapositivas (Power Point).</p> <p>(和訳) 各授業、最初にスペインのある県について説明する。また、その県にある代表的なモニュメントを紹介する。(動画含む)</p> <p>その後、最初に紹介したモニュメントやその時代背景についてパワーポイントを見ながら、「なぜ造られたか?」、「いつ建てられたか?」、そして「誰が考えたか?」などを探る。</p>	
ロシア語研究3A	<p>この授業は、ロシア語文法をひとつおわり終了した学生を対象としたクラスである。習得済みの個々の文法知識を総合、復習、確認しながら、ロシア語文を辞書を用いて精読していく。</p> <p>ロシア語研究3Aでは、徐々にレベルアップしていく中級レベルのテキストを、初級文法事項の確認、復習をしながら丁寧に訳読する。</p>	
ロシア語研究3B	<p>ロシア語研究3Aに引き続き、ロシア語の原文を訳読していく。</p> <p>ロシア語研究3Bは、できるだけ多くの文体に触れてもらうため、19世紀ロシア文学や詩作品、民話、または論文などから厳選したテキストを精読していく。</p>	
ロシア語研究4A	<p>この授業は、ロシア語文法をひとつおわり終了した学生を対象としたクラスである。習得済みの個々の文法知識を総合、復習、確認しながら、ロシア語文を辞書を用いて精読していく。</p> <p>ロシア語研究4Aでは、徐々にレベルアップしていく中級レベルのテキストを、初級文法事項の確認、復習をしながら丁寧に訳読する。</p>	
ロシア語研究4B	<p>ロシア語研究4Aに引き続き、ロシア語の原文を訳読していく。</p> <p>ロシア語研究4Bでは、できるだけ多くの文体に触れてもらうため、19世紀ロシア文学や詩作品、民話、または論文などから厳選したテキストを精読していく。</p>	
韓国語研究3A	<p>初級、中級で学んだ基礎に立脚し、実践的な表現力の向上を図る。教科書を水陸に、語彙、文法の整理と拡充に努め、ことばにできなかったことを、次々にことばにしていこうことを実践する。(韓国語を学ぶこと)を通して、(言語を学ぶこと)の意義を考える楽しい時間としたい。</p> <p>①初級を終えた学習者②短期間に実践力を向上させたい学習者③留学を考えている学習者④留学後の研鑽を望む学習者などのために開かれている。</p>	

		韓国語研究3B	初級、中級、さらに研究3Aで学んだことがらに立脚し、実践的な表現力の向上を図る。教科書を水路に、語彙、文法の整理と拡充に努め、ことばにできなかったことを、次々にことばにしていこうことを実践する。(韓国語を学ぶこと)を通して、日本語を考える楽しい時間ともしたい。①初級を終えた学習者②短期間に実践力を向上させたい学習者③留学を考えている学習者④留学後の研鑽を望む学習者などのために開かれている。	
情報処理系科目群	1 基礎科目	コンピュータリテラシー1	基本的なコンピュータの操作法の修得を目的とする。情報処理とは、人間の知的活動そのものなので、コンピュータなしでも情報処理は可能であるが、コンピュータを利用するにあたっての約束事(データのどのように入力するか、データをどのように加工するか、結果をどのように表現するか)を簡単な例を用い、実際にパソコンを操作しながら学ぶ。	
		コンピュータリテラシー2	コンピュータ利用に関する初歩的な知識と技術を前提として、アプリケーションプログラムの1つである表計算の使用法を修得することを目的とする。コンピュータを利用するにあたっての約束事(データのどのように入力するか、データをどのように加工するか、結果をどのように表現するか)を簡単な例を用い、実際にパソコンを操作しながら学ぶ。	
	2 応用科目	情報科学1	コンピュータを用いた情報処理の概論について講義を行う。情報処理とは、人間の知的活動そのものであるが、現代の情報量をうまくまとめて必要な時に取り出して利用するにはコンピュータの使用が不可欠である。コンピュータを用いた情報処理の方法と手段を簡単な例を用いながら学ぶ。	
		情報科学2	コンピュータは、ハードウェアとソフトウェアからなる。コンピュータを情報処理の道具として、効率良く使用するためには、ソフトウェアの理解が必要である。ソフトウェアの理解を深めるために、プログラミングの基礎について講義を行う。コンピュータを用いた情報処理の方法と手段を簡単な例を用いながら学ぶ。	
		情報科学3	「ITパスポート試験」とは、企業の一般業務部門などで働く社会人に必要なIT能力を証明するための国家試験である。ITパスポート試験は、企業や省庁等への就職に役立つことや、情報分野で最も権威ある国家試験の1つでありながら文系出身者向けの試験内容であることから、たいへん注目されている。本講義では、在学中にITパスポート試験に合格することを目指して、ITパスポート試験の全出題内容を「情報科学3」および「情報科学4」を通じてしっかりと学習する。このうち「情報科学3」では、IT活用に関連する知識を学ぶ。	
	情報科学4	「ITパスポート試験」とは、企業の一般業務部門などで働く社会人に必要なIT能力を証明するための国家試験である。ITパスポート試験は、企業や省庁等への就職に役立つことや、情報分野で最も権威ある国家試験の1つでありながら文系出身者向けの試験内容であることから、たいへん注目されている。本講義では、在学中にITパスポート試験に合格することを目指して、ITパスポート試験の全出題内容を「情報科学3」および「情報科学4」を通じてしっかりと学習する。このうち「情報科学4」では、インターネット社会に関連する知識を学ぶ。		
	人文科学系科目群	1 基礎科目	哲学史1	ギリシア哲学の主流を起点に、1年がかりでルネッサンスまでのユダヤ哲学をたどり、古典の抜粋を読みながら、近代への経路を概観する哲学史の講義である。哲学史1はおもにプラトン・アリストテレス哲学の基本的な構えの整理にあてるとともに、古代イスラエルにおける神の理解と、イスラーム世界経由のギリシア哲学移入を概説する。啓示(聖書)と理性(アリストテレス哲学)というふたつの基準をもつ西洋思想の、もっとも深い源泉を探る。

哲学史2	<p>初期近代までのユダヤ哲学の潮流を、何人かの思想家の著作からの抜粋を読みながら概観する哲学史の講義である。哲学史2は啓示（聖典）と理性（アリストテレス哲学）という真理のふたつの指標の関係を、中世の哲学者たちがどのように論じたかを考える。ネオプラトニズム、宗教的哲学批判、マイモニデス、アヴェロイズムを取りあげ、最後にユダヤ教から破門されたスピノザ（17世紀）への中世哲学の影響を確認する。さらに信知問題という、思想的いとなみの永遠の課題について考えるきっかけを提供する。キリスト教世界に遅れて近代化したユダヤ社会が現代の知的変革者を輩出した、思想史的背景も理解されるでしょう。</p>	
倫理学入門1	<p>この授業では、西洋倫理学の開祖と言われるソクラテスの思想にはじまり、西洋倫理学の基礎をなす「ヘレニズム（ギリシャおよびその影響下にあるローマの思想）」と「ヘブライズム（ユダヤ・キリスト教的思想）」との二つの流れを意識しながら、その思想が生まれた時代背景と、思想家自身の生の言葉の意義を理解する。それによって物事を根底から考えるための基礎的な概念を自分のものにする。</p>	
倫理学入門2	<p>ヨーロッパではルネサンスを境に新しい人間観が形成され始め、政治経済は大きく変化しました。それに伴って現代社会の礎になるような倫理観や政治思想が生まれた。本講義ではイギリス市民革命の原動力となった社会契約説とその背景にある歴史や、国民主権を唱えたルソーの人間観や社会思想をとりあげ、現代の日本の法や社会システムのもとになっている思想を学ぶ。</p>	
心理学入門1	<p>心理学の中でも特に感覚・知覚、学習、記憶、思考、言語といったテーマについて、基礎的な知見を理解する。生活と関連する話題や応用場面について学ぶことで、得られた知識と社会のつながりを知る。形式としては、トピックごとの動画の視聴と理解を確認する小テストを毎週実施する。</p>	
心理学入門2	<p>心理学の中でも特に知能、性格、動機づけ、社会といったテーマについて、基礎的な知見を理解する。生活と関連する話題や応用場面について学ぶことで、得られた知識と社会のつながりを知る。授業では、毎回いくつかのトピックについて解説し、授業後に理解を確認する小テストを実施する。</p>	
教育学の基礎1	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ勉強をするのか?」「試験を行う意味とは?」「校則はなぜあるのか?」など、これまで当たり前で過ごしてきた学校生活を振り返り、身近な疑問から教育について問い直していく。 ・教育学を学ぶとはどのようなことなのか、教育的な見方を身につけていく。 ・春学期は主に、学校に関する身近な疑問から教育について考えるとともに、「いじめ」の問題に着目し、現状を整理し改善策について考えていく。 	
教育学の基礎2	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学校経験を客観的に振り返るとともに、児童・生徒の現状を知り、自分たちに何ができるのか考えていく。 ・教育学を学ぶとはどのようなことなのか、教育的な見方を身につけていく。 ・教育学の基礎2は主に社会との関わりと教育という視点に着目し、「情報社会における子どもたち」「貧困世帯の子どもたち」について取り上げ、考えていく。 	
日本文学概論1	<p>この授業は、中高の国語教科書に掲載されることも多い日本近代小説の「名作」を通じて、今日の日本社会に流通する「常識」を問い直すものである。文学的教養を身につけるだけでなく、文字情報を疑いながら処理する高度なメディアリテラシーを身につけるための授業と考えてほしい。</p>	

	日本文学概論2	この授業は、〈原爆〉（＝ヒロシマ、ナガサキに投下された原子爆弾を中心に、その他の核兵器や原発も包括するやや広い概念）を扱った文学作品や漫画、映画等を、時代背景とともに学ぶものである。それを通じて、「唯一の被爆国」神話を越えた悲劇の〈記憶〉の分有の可能性についても考察する。また、なぜ現状肯定から逆算された物語が人口に膾炙するのか、そこにどのような危険性があるかについても考察してもらう。	
	日本文化論入門1	この授業では、江戸末期から現代にかけて、情報の享受者である読者の歴史の変遷について考えていく。「読者」とは一見自明のように見えるが、近代日本では社会の変動に伴って、読書の在り方に転換が生じており、「読者」も一面的な存在ではない。書物の流通や読書が行われた環境、出版形態の変遷や都市の変化といった様々な視点から、社会との関係性のなかで、「読者」がいかに変容してきたのかを明らかにしていく。なかでも雑誌は、「読者」について考えるうえでかかすことのできないメディアである。そのためこの授業ではなるべく実物を目にしながらか、進めていくことになる。	
	日本文化論入門2	この授業では、近代日本における言論統制について扱う。具体的には、文学者や学者に対する検閲や出版物に対する発禁の事例等から、いつ、何が、どのようにして統制されていたのかを学ぶことで、言論統制の力学を考えていく。日本の近代文学の歴史は、検閲などをはじめとした言論統制の問題を抜きに語ることはできない。文学テキストが生成され、出版される際の、社会状況や作家や出版社、検閲官といった様々な立場の人たちの状況を考えることで、多角的に文学について考えることが必要となる。近代日本における言論統制がいかに行われてきたのか、その歴史的な状況を踏まえながら、近代日本を見つめなおすことが本授業の目的である。	
	日本文化論入門3	この授業では、近代日本の「読書」と「教養」の歴史を扱う。「教養」が輝いた時代は遠く過ぎ去り、情報社会の到来によって読書のあり方も急速に変容しつつある。それでも大学には「教養科目」があり、「国際教養」が声高に謳われ、雑誌では頻繁に「教養特集」が組まれて「必読書」が掲げられる。一体なぜ人は「教養」を求め、振り回されるのであろうか。今日あるべき「教養」とは何であり、「読書」はそれにどう関わるのか。明治以降の「読書」と「教養」の実態と関係性を学び、時代による変化の意味を問いながら、現状を批判的に把握し、将来を模索することがこの授業の目的である。	
	日本文化論入門4	この授業では、近代日本における「書くことの歴史」を考察するために、最も日常的な書記習慣である日記とその文化を取り上げる。誰し一度は日記を書いたことがあるだろう。明治以降、学校教育を通じて読み書きを習得した無数の人々が日記を綴ってきた。自発的に書き、時に義務的に書かされる日記を手掛かりに、書記文化史の観点から近代日本を見つめ直すことが授業の目的である。概論的な主題を扱ったのち、後半では太平洋戦争期の日記に焦点を定める。大きな歴史に埋もれがちな個人の声を明るみに出すことで、戦争の理解はいかに深まり、あるいは再考を迫られるだろうか。当時綴られた日記帳の現物も活用しながら議論を深めたい。	
2 応用 科目	宗教史1	春・秋2学期をかけ、Abrahamic religions と呼ばれるユダヤ教・キリスト教・イスラームの成立過程を、各宗教の聖典を手がかりに歴史的に概観する。春学期は、ヘブライ語聖書（キリスト教の言う旧約）を生んだ古代イスラエルの宗教から、ユダヤ教独自の聖典、ミシュナー、タルムードの集成前夜までを扱う。文献学・歴史学と信仰のたちばとの緊張関係や、無自覚的にキリスト教本位の日本の啓示宗教理解にも目を向ける。	
	宗教史2	春・秋の2学期をかけて、Abrahamic religions と呼ばれる3つの宗教の成立過程を、各宗教の聖典を手がかりに概観する。秋学期は紀元前1世紀ごろ（第二神殿時代末期）からハディースの集成までをめぐるとし、ラビ・ユダヤ教、キリスト教、イスラームの形成過程について、先行宗教のテキストとの関連から理解を試みる。	

宗教史3	<p>中世（5～15世紀）から宗教改革の時代（16世紀）までのヨーロッパの宗教史の展開を概観する。近年の歴史学、歴史人類学、メディア論、日欧交渉史研究の研究成果も踏まえつつ、特に「古代ユダヤ教および初期キリスト教と中世的キリスト教の関係」「西方キリスト教と東方キリスト教の関係」「中世の教会制度と教皇権の確立」「正統と異端」「教会のキリスト教と民間信仰」「宣教・布教と情報伝達」「中世のキリスト教と戦争」「異教徒や宗教的マイノリティーへの差別」「宗教改革の歴史的・神学的背景と文化的・社会的影響」「宗派（教派）対立の時代の宗教戦争」「大航海時代の非ヨーロッパ世界（アメリカ、アフリカ、アジア）でのキリスト教宣教とヨーロッパのキリスト教徒の《日本》認識」などの問題を軸に、重要な邦訳史料や図像史料を読み解きながら、宗教史についての理解を深めてゆく。</p>	
宗教史4	<p>この授業の目的は二つある。ひとつは隣国の歴史、日中関係の歴史を知ることである。コロナ感染防止に不可欠のマスクをはじめとして、私たちは中国製のモノに囲まれて生活している。けれども経済的に中国との関係が緊密であることはわかっても、そのほかの面で私たちは隣国をどれほど理解しているだろうか。今や米国と並ぶ超大国となった中国の歴史を、日本との関係にも注意を向けながら学び、隣国への理解を深めること、これがこの授業の目的のひとつである。</p> <p>もうひとつは、世界宗教でありかつ「宣教的宗教」でもあるキリスト教が、東アジア地域、中でも中国に何をもたらしたのかを中国の近現代史を見つめながら考えることである。中国の近現代史という、革命、動乱、戦争の歴史というイメージがあるが、実は19世紀半ば以降の主たる出来事の多くはキリスト教と深くかかわっていた。キリスト教という特別な角度から中国近現代史を眺めることによって、受講生は現在の隣国の姿をよりよく、より深く理解することができる。</p>	
現代社会とキリスト教1	<p>本授業はキリスト教ならびに啓蒙思想と深い関係を有する人権概念の成立過程を近現代史から考えていくものであり、国家と宗教が人権概念の一つである「信教の自由」をめぐるいかなる関係性にあつたのかを明らかにすることを目的とする。さらに現代社会における人権の諸問題をキリスト教的視点を踏まえ考えていく。</p>	
現代社会とキリスト教2	<p>市民社会について教え、それに対するキリスト教または明治学院の影響について講義する。</p> <p>幅広い歴史、具体的な市民社会及び自分たちの日々の生活に対する影響について講義し、市民社会のリーダーたちの直接的な講義を含めて、キリスト教または明治学院の市民社会に対してどのように影響し、今日まで市民社会がどのように成り立ってきたかについて教える。このクラスの最終目標は学生が、国連、国際機関、メディアなどの市民社会的組織で仕事をもらえるよう手助けすることである。</p>	
現代社会とキリスト教3	<p>キリスト教とアジアという二つの視点から「食」や「健康」の問題を考えることを目的とし、これらの問題に具体的に取り組むキリスト教学校やキリスト教NGOの活動も広く紹介する。</p> <p>学校法人アジア学院は、1973年の創設以来アジア・アフリカ・太平洋諸国の農村地域から研修生を招き、座学と有機農業の実践によって地域のリーダーを育てるための教育を行っているキリスト教主義に基づく学校法人である。有機農法の技術を教授するだけでなく、それぞれのコミュニティーに仕えるリーダーを育てることを使命としており、このユニークな教育をとおして、アジア・アフリカの農村地域の人々が、地域の資源や能力を分かち合い、自らの意思で活用し、自立した共同体を作り出してゆくことを目指している。長期、短期のボランティアやビジターも広く受け入れており、共通言語の英語によって、宗教的、文化的に多様なバックグラウンドを持つ研修生との交流も盛んにおこなわれている。</p>	
現代社会とキリスト教4	<p>この授業では、食べることの意義を心理学・社会学、人類学などの成果を通して追求すること、様々な自然的・文化的制約の下にあるわたしたちの五感を研ぎ澄ますこと、そしてその上で、キリスト教が食べることにどのように向き合ってきたのか、またどのように向き合っていくべきなのかを考察する。</p>	

哲学各論1	<p>どんな時代にも、宗教の教えや政治的イデオロギー、学校で教えられる通説、社会通念にひそむ前提など、それぞれの社会に固有の価値が見られる。ひろく信じられているそうした考え方と、哲学はどの様に関わるのでしょうか。本講義では古代アテナイのポリスで死に追いやられたソクラテスの思想（弟子プラトンの証言）、中世イスラーム法の権威イブン・ルシュッド（アヴェロエス）による哲学擁護の主張をおし、この問題を考える。信じることと知ることの区別や哲学者と大衆の関係から、哲学とは何かという難題に迫るヒントを探す。</p>	
哲学各論2	<p>どんな時代にも、政治的イデオロギー、学校で教えられる通説にひそむ前提、宗教の教えや社会通念など、それぞれの社会に固有の価値が見られる。ひろく信じられているそうした考え方と、哲学はどの様に関わってきたのでしょうか。本講義ではおもに講義形式で、超越神を否定し宗教と哲学の分離を訴えたスピノザ（17世紀）の思想と、近代的理性とリベラリズムの自己崩壊を論じたレオ・シュトラウス（20世紀）の思想を取りあげ、この問題を考える。信じることと知ることの区別や哲学者と大衆の関係から、哲学とは何かという難題に迫るヒントを探す。</p>	
科学思想1	<p>いまの時代の科学と科学技術の発展を見る時、「自然と人間」の関わり（自然観）について考察することはますます大切になってきている。この自然観に学ぶことの重要性について、古代から中世までの自然観や宇宙論（コスモロジー）を取り上げる中で理解して行く。自然と人間の歴史的な関わりを、哲学だけでなく宗教や芸術などにもふれて重層的に考察する中で見て行く。この考察を進めることによって、われわれ自身の自然との関わりを反省し、その関わりをいっそう豊かにすることができる。</p>	
科学思想2	<p>ルネサンス以降の近代科学の形成過程を思想史としてとらえ、その背景となる哲学や宗教などの人間精神に関わる問題に注目する。例えば、天動説から地動説へのコペルニクス革命も、単なる学説の移行としてではなく、「人間存在の意味」に関わる哲学的問題としてとらえ、説明して行く。特に、「近代科学の父」と称されるガリレオの思想にふれ、ガリレオにおける「自然と人間」や「科学と宗教・哲学・人間」の問題などを扱う。</p>	
倫理学各論1	<p>倫理学というのはどういうものを概観した後、「功利主義」の思想とカント倫理学を中心に倫理学で用いられる代表的な思考方法を学ぶ。みなさんは友達や親子といった日常的な人間関係から、進路の決定、社会人としての決断に至るまで、常に「よい・わるい」を考え、また考えることを要求されている。この授業では今まで無意識に行われてきた決断の底に何があるのか、どのような思考法を用いることができるのかを理解する。それによって人生の問題を深く、強く考えるツールを身につけることができる。</p>	
倫理学各論2	<p>「いのちとはなにか」という問いは、人間がだれしも、人生の様々なステージで出会う、根本的な問いです。さらに生命を操作する力を得た科学はこの問いにより先鋭な疑問を投げかけるようになった。「命は尊い」ということは誰もが理解しているが、現実の生活の中で我々はこの命に序列をつけながら生きている。この授業では「命の尊さ」を考えるための多様なデータやものの考え方を学ぶ。</p>	
伝統論理学1	<p>論理学を創始したのは、紀元前4世紀古代ギリシアの哲学者アリストテレスである。しかし西洋では古来より、アリストテレスの論理学著作を読む前に、その入門書として3世紀古代ローマの新プラトン主義者ポルビュリオスの『エイサゴーゲー（入門書）』を読む慣わしであった。それゆえ西洋の論理学理解は伝統的に大変新プラトン主義的である。この授業では、新プラトン主義の始祖と目されるプロティノスにまでさかのぼり、西洋の論理学において考えられてきた論理の成立根拠を探ることにしたい。</p>	

<p>伝統論理学2</p>	<p>論理学を創始したのは、紀元前4世紀古代ギリシアの哲学者アリストテレスである。しかし西洋では古来より、アリストテレスの論理学著作を読む前に、その入門書として3世紀古代ローマの新プラトン主義者ポルピュリオスの『エイサゴゲー（入門書）』を読む慣わしであった。それゆえ西洋の論理学理解は伝統的に大変新プラトン主義的である。この授業では、新プラトン主義の始祖と目されるプロティノスにまでさかのぼり、西洋の論理学において考えられてきた論理の成立根拠を探ることにしたい。</p>	
<p>心理学各論1</p>	<p>心と体の関係に焦点を当てる生理心理学は、日常生活をより良く生きる上で重要なテーマが多く含まれている。本授業では、脳や末梢系（心拍など）についてその構造や知覚・感情といった認知機能との関係を理解する。また、生活と関連する話題や応用場面について学ぶことで、得られた知識と社会のつながりを知る。形式としては、トピックごとの動画の視聴と理解を確認する小テストを毎週実施する。また、理解を深めるための課題およびZoomでのグループディスカッションを適宜実施する。</p>	
<p>心理学各論2</p>	<p>認知心理学の各分野について実験を通して学習する。実験では、生理指標測定などの専門的な機材をして体験しながら学習する。また、実験のデザインや材料の準備、データ収集と簡単な統計分析までの一連の手続きを修得する。</p>	
<p>心理学各論3</p>	<p>人間は社会の中で生活をし、他者との関わりを通して、自分についての理解も深まっていく。社会心理学を学ぶことにより、自他への認識を高めることを目指す。授業では、日常生活における身近な現象を取り上げるため、自分なりに多くの例を挙げることを求める。</p>	
<p>心理学各論4</p>	<p>苦悩や不調を訴えることなく過ごしている人は、恐らくいないであろう。程度の差はあれど、皆、悩みを抱えながら生きている。その悩みとどのようにつき合うのか、また、悩んでいる人にどのように接するのかを、この授業では考えていく。そして、臨床心理学を学ぶことにより、日常生活を新たな視点でとらえ直すことを目指す。授業は講義中心に進めるが、自分なりの考えをもつことを求める。</p>	
<p>芸術学各論1</p>	<p>古代ギリシアから15世紀までの西洋美術史の変遷をさまざまな作品を見ることによって学ぶ。美術作品は直接眼に入ってくるので、眼で見た瞬間にすべてを理解したと思いがちである。しかし、美術作品の裏には多かれ少なかれ言葉によって語りうる意味が隠されており、それを理解しなければその作品をより深く理解できないことが多い。この講義では西欧の美術作品を言葉で考え言葉で語ることによって、そのより深い理解に到達することを目的としている。</p>	
<p>芸術学各論2</p>	<p>19世紀と20世紀の西洋美術史の変遷をさまざまな美術作品を見ることによって学ぶ。美術作品は直接眼に入ってくるので、眼で見た瞬間にすべてを理解したと思いがちである。しかし、美術作品の裏には多かれ少なかれ言葉によって語りうる意味が隠されており、それを理解しなければその作品をより深く理解できないことが多い。この講義では西欧の美術作品を言葉で考え言葉で語ることによって、そのより深い理解に到達することを目的としている。</p>	
<p>芸術学各論3</p>	<p>17世紀と18世紀の西洋美術史の変遷をさまざまな美術作品を見ることによって学ぶ。美術作品は直接眼に入ってくるので、眼で見た瞬間にすべてを理解したと思いがちである。しかし、美術作品の裏には多かれ少なかれ言葉によって語りうる意味が隠されており、それを理解しなければその作品をより深く理解できないことが多い。この講義では西欧の美術作品を言葉で考え言葉で語ることによって、そのより深い理解に到達することを目的としている。</p>	

		芸術学各論4	一般的教養としての音楽理解を深めることを目的とするために、ルネサンス期の世俗音楽をトピックに選んだ。録音等の素材により作品に触れつつ、当時の世俗分野の作品群について論ずる。	
		日本文学講読1	本講義は授業担当者が選んだ短編作品の読解を中心にすすめる。必要に応じて文学理論の紹介や文学史的な位置づけ等についての解説を行うが、読者としてテキストからなにを受けとったかについて相互に受・発信することの訓練が主たる内容となる。学期終盤には秋学期の発表作品を決定し、レポート作成に関わる予備的な作業を開始する。	
		日本文学講読2	秋学期は学生が選んだ短編作品の読解を中心にすすめる。必要に応じて文学理論の紹介や文学史的な位置づけ等についての解説を行うが、読者としてテキストからなにを受けとったかについて相互に受・発信することの訓練が主たる内容となる。	
		日本文学講読3	「文学」を学ぶとは、我々が生涯迷えることのできない「ことば」との付き合い方を熟考し、再考することでもある。この授業では明治以降の文学作品を題材に、「ことば」の機能と自律性を学び、唯一の「正解」ではない様々な解釈の可能性を探る。合わせて、文学を取り巻く時代状況とイデオロギーへの考察を深め、近代日本において文学が担った役割を検証する。	
		日本文学講読4	この授業では、太宰治「斜陽」(1947/昭和22年)を講読し、当該テキストが「文豪」の「名作」とされる所以を批評的に問い直し、再評価する。その過程においては、ストーリー(物語内容)のみならず、語りや視点、テキストの構造、メタファー、時代背景など様々な側面に着目することで、文学テキストの多様な読みの可能性を追究する。また、他者との共読・対話・相互講評・言語化・プレゼン等を通して、自己の考察を論理的かつ的確に深化させながら批評(メタ)的思考を培い、さらには他者に丁寧に伝達できるようになることを目的とする。	
社会科学系科目群	1 基礎科目	法学(日本国憲法を含む) 1	法学1では、まず、日本国憲法(単に「憲法」ということがある)のうち「基本的人権」について学ぶ。そして、民法を中心とする「民事法」、刑法を中心とする「刑事法」について学び、現在の日本において、どのような法律があるかについて学ぶ。そして、法律を適用して問題を解決する際の思考方法について学ぶ。	
		法学(日本国憲法を含む) 2	法学2では、まず、日本国憲法(単に「憲法」ということがある)のうち「統治機構」について学ぶ。そして、現在の社会における、具体的な問題について、法律がどのように機能しているかについて、民法を中心とする「私法的観点」と刑法や行政法を中心とする「公法的観点」の両面から学ぶ。そして、法律を適用して問題を解決する際の思考方法について学ぶ。	
		政治学1	現在の日本は議院内閣制という政治のしくみをとっているが、それがどのような特徴を持つのかを考える。講義前半では制度の内実ならびに民主主義、代表といった理論の意味を考え、講義後半ではその歴史的な基礎を、とりわけ議院内閣制を生み出したイギリスを事例にして考える。	
		政治学2	政治権力とはどのようなものであるかを基礎から考える。講義の前半では大統領制という議院内閣制とは異なるしくみについて検討する。講義後半では、三権分立という政治原理がどのような歴史的な基礎を持つのかをふまえて、現代日本の権力の融合と分立について考える。	
		社会学理論の基礎1	社会学の土台にあたる発想の枠組みについて、長期の歴史的視点に立った、骨太の理解を得てもらう。具体的には、社会学の成り立ちに関わる限りで西洋の歴史を概観しつつ、今では古典とされている社会学者たちの学説を詳しく紹介する。それを通して、社会のしくみやふしぎを根本から捉え直すことの面白さを伝える。	

社会学理論の基礎2	社会学の土台にあたる発想の枠組みについて、長期の歴史的視点に立った、骨太の理解を得てもらう。具体的には、社会学の成り立ちに関わる限りで西洋の歴史を概観しつつ、今では古典とされている社会学者たちの学説を詳しく紹介する。それを通して、社会のしくみやふしぎを根本から捉え直すことの面白さを伝える。	
文化とメディアの社会学入門1	この授業では、文化とはどのような概念なのか、また文化について社会的な視点から分析するとはどのようなことなのかについて理解する。その上で、会話のような日常的な相互行為に見られる文化現象や、メディアにおいて見られる文化現象を分析するための視座と能力を身につける。日常生活における社会的相互行為としての文化あるいはそうした相互行為を支える文化のあり方を理解し考察する。秋学期の授業では、春学期の内容を踏まえつつ、メディアにおける文化現象を理解し考察する。	
文化とメディアの社会学入門2	本講義では私たちが日常的に接している「メディア」の物質性に着目する。「メディア」は様々な情報を伝達することで、私たちが特定の「文化」を共有することを可能にしている。しかし、こうした「文化」の伝達装置としての「メディア」は、いかなる形で歴史的に形成されてきたのでしょうか。この観点より本講義では、日頃「メディア」としての着目があまりされていない様々な「モノ」の歴史的経緯をたどり返す作業を通じて、私たちの社会がどのような「メディア」によって支えられているのかを、マテリアル、インターフェース、インフラストラクチャー、システムという4つの分析概念を通じて理解することを目的とする。	
生命とアイデンティティの社会学入門1	この授業では、広告コミュニケーションを中心に「文化とメディア」の関係について学びます。特に、メディア効果論や記号論といった、社会学に深く関わりのある古典的な学説や分析手法を学び、広告コミュニケーションを分析するための基礎的な視座と能力を身につける。	
生命とアイデンティティの社会学入門2	この授業では、私たちの身体やアイデンティティをめぐる様々な問題を取り上げ、社会学の概念やものの見方を学ぶとともに、社会の歴史的・文化的背景に対する想像力を養う。「診断の社会学」をテーマに、私たちが病にかかるとはどのようなことか、病についての知識は誰のものか、病の経験を技術や制度はどのように変えるのかといった問題について、社会学の視点から考察する。	
環境とコミュニティの社会学入門1	今日、「コミュニティ」という言葉に注目が集まっている。少子高齢化対策や防災の面から地域コミュニティの役割が期待され、街中にコミュニティカフェが作られている。他方で、現実のコミュニティよりSNS上のコミュニティに居場所を求める若者も多くいると言われていて、人と人のつながりが強調される一方で、誰もつながらない「無縁社会」が問題になってきている。こうした社会について、どう捉えればよいのか、どのようにふるまうべきか、戸惑っている人がいるかもしれない。社会学は、近代化の中での人々のつながりの変化を捉えようとしてきた学問である。この授業では、具体的な事例を取り上げながら、コミュニティをめぐる現代社会の諸問題について社会的に考察する。	
環境とコミュニティの社会学入門2	“私たちを取り巻くもの”として、環境とコミュニティの社会学入門1では「コミュニティ」を取り上げた。本講義は「環境」をテーマにする。環境問題というと地球温暖化や自然環境破壊を思い浮かべるだろうか。それらは重要な問題であるが、日常生活のなかでは他人事のように感じるかもしれない。私たち人間の生活が環境（自然環境だけでなく、日常生活環境、歴史的環境などを含む）とどのように関わりながら変化しているかを問うのが、環境社会学である。この授業では、環境社会学のアプローチ法を学び、ゴミ問題、公害、大規模災害、歴史的環境保全などの具体的な事例を取り上げ、映像資料なども用いながら、環境と人間社会の関係のあり方について考える。	
社会福祉学1	生活の一部である「医療」の場における社会福祉実践（ソーシャルワーク）を題材にして、現代社会の諸問題を捉えるための基礎知識、多様性の尊重や明治学院大学の教育理念である「Do for Others」（他者への貢献）について理解する。	

社会福祉学2	本講義では貧困・生活困窮者が経験している問題を切り口にして、社会福祉学を概観していく。貧困はそれを経験する人の生活の質を低下させてその人の尊厳を毀損するだけでなく、社会全体をも傷つける。このこともあって、貧困・生活困窮の課題は社会福祉において重要な問題となってきた。本講義を通して、生活困窮者を取り巻く課題の①理論、②支援、③コロナ禍における活動、を概観することを通して、社会福祉学における貧困の問題を把握していく。	
経済学1	経済学の学問領域と社会的意義を探る センシティブな問題への経済学的アプローチを学ぶ	
経済学2	外国人労働者をはじめとしてさまざまな時事問題について経済的に解説する 経済学が有用な学問であるかについて、個人としてしっかりとした見解を身につける	
統計学1	統計データを整理要約し、集団の特徴を把握することをデータの「記述」という。また大きな集団の一部を観察・調査し、これにもとづいて全体について何らかの判断を下すことを「推測」という。統計学1では記述的な方法の概略、すなわちデータの集計・グラフ化や、平均・標準偏差、相関・回帰といった数値的な特徴抽出などについて説明する。時間と資源の制約からコンピュータによる実習はできないが、計算結果を「読む」力が身につくように配慮する。	
統計学2	統計データを整理要約し、集団の特徴を把握することをデータの「記述」という。また大きな集団の一部を観察・調査し、これにもとづいて全体について何らかの判断を下すことを「推測」という。統計学2では推測の方法の基礎とその適用例を、(1)確率論の準備 (2)重要な確率分布 (3)標本抽出 (4)母集団特性の推定 (5)仮説検定などの項目で説明する。時間と資源の制約からコンピュータによる実習はできないが、分析結果を「読む」力が身につくように配慮する。	
統計学3	「機械学習」やデータ分析に必要なPythonの基礎的なスキルを習得する。	
統計学4	統計学3で学んだPythonをもとに「機械学習」の基礎を学ぶ	
人文地理学入門1	地理学の研究対象には地表で起きている自然現象と人文現象の両方が含まれる。人文地理学入門1では人文現象を取り上げ、諸地域で生じている現象を地理学的な観点から動態的かつ複眼的に理解することを目的とする。そのために、まずこれまで人文地理学で議論されてきた概念や認識枠組みを検討する。この認識枠組みの批判的検討を踏まえた上で、世界の諸地域が抱える諸問題を多面的に検討し、的確に判断する能力を修得することをも目的としている。	
人文地理学入門2	人文地理学の中でも文化地理学、経済地理学、歴史地理学、社会地理学の各分野を取り上げ、これらの各分野で展開されている議論をもとに各地域で生じている現象を把握することを目的とする。同時に、人間活動の前提となる空間や場所をいかに認識することが可能なのか、またそれらがいかに生産・再編されてきたのか、そして我々はそうした空間や場所がいかに生かされているのか、再考することも目的とする。	

	文化人類学入門1	文化人類学は、「自分たちは異なる人びと・社会・文化」に目を向けることで、「人間とは何か」を社会や文化の観点から考えようとする学問である。高校までの教育では地歴公民に近いかもしれないが、そのいずれでも扱われなかった側面が多く、おそらくほとんどの受講者にとって初めて接する分野になると思われる。そのため、文化人類学の特徴や主要なテーマ、理論などを紹介・解説しつつ、この学問が何を対象とし、それをどのような角度からとりあげることで何を指そうとするのかという「学問の骨子」を受講者が吸収するようとりはからう。よって、この授業では文化人類学の予備知識を必要としない。ただし、「人間が社会や文化を自らつくりあげることにより、自分たちの生活をどのように成り立たせているのか、その仕組みを知りたい」という関心を持ち、授業内で提供された抽象的な知識や枠組みをもとに、日本や世界各地の具体的な様相をとらえるといった「考える」作業は各人に要求される。	
	文化人類学入門2	「文化人類学入門2」は、文化人類学の教科書に沿ってこの分野の基礎知識を身につけるための授業である。文化人類学は、「自分たちは異なる人びと・社会・文化」に目を向けることで、「人間とは何か」を社会や文化の観点から考えようとする学問である。高校までの教育では地歴公民に近いかもしれないが、そのいずれでも扱われなかった側面が多く、おそらくほとんどの受講者にとって初めて接する分野になると思われる。よって、この授業では特段の予備知識を必要としないが、少なくとも「人間が社会や文化を自らつくりあげることにより、自分たちの生活をどのように成り立たせているのか、その仕組みを知りたい」という関心を持ったうえで受講していただきたい。	
	社会科学概論1	ホブズ、ロック、ルソーといった大思想家たちが、どのような歴史的状況の中で、またどのようなやり方で独自の社会哲学を形成していったのかを「社会契約説の発生と衰退」という思想的視点から学ぶ。これによって近代社会のあり方の基礎を学ぶことができる。	
	社会科学概論2	西洋の古典古代世界を代表する哲学者の一人であるプラトンの思想を学ぶ。彼の哲学は現在に至るまで様々な方面に強い影響を与えているが、ここでは特に彼の社会哲学及び道徳哲学的側面に集中し、人が正しく生きるべき理由とそのために必要な社会のあり方に関する彼の思想を学ぶ。	
2 応 用 科 目	歴史学1	歴史を学ぶということは、年号を暗記したり、人名・地名を記憶したりすることではない。歴史を学ぶことは、どう生きるのかという問題に向き合うことである。生きてゆくために我々は様々な決断を迫られるが、どの立場、どういった視点に立つかによって、自分自身や他者、周りの出来事の見え方は大きく変わる。歴史学は、そうした我々の足元を見つめ直すきっかけを与えてくれる学問のはずである。	
	歴史学2	歴史学は、「自己認識の学だ」とも言われる。自己認識の学である以上、人は古代史や中世史、あるいは外国史を学ぶ場合でさえ、自身が生きている「現代」という時代に対して全く無関心であることは、事実上できないはずである。本講義において、「歴史学と現代社会」の関係を問うことの意味も、正にこの点に存する。この講義を通して、自己の中に流れ込んでいる歴史を見つめ直し、現代に生きる自身の立ち位置を再確認することができるはずである。	
	歴史学3	本講義では、イギリスの歴史家エリック・ホブズボームが1994年に著した『20世紀の歴史 両極端の時代』を導きの糸として、20世紀の歴史を学ぶ。具体的にはホブズボームが「破滅の時代」と名付けた1914年から1945年間の歴史的事象である、第一次世界大戦の勃発からロシア革命、世界恐慌、ファシズムの台頭、第二次世界大戦の終結などの出来事について考察する。	

歴史学4	<p>本講義では、イギリスの歴史家エリック・ホブズボームが1994年に著した『20世紀の歴史』を導きの糸として、20世紀の歴史を学ぶ。具体的にはホブズボームが第二部「黄金時代」及び第三部「地滑り」で暑かった1945年から1991年の間の歴史的事象である冷戦の形成、「現存社会主義」国家群の登場、第三世界の台頭、社会主義の終焉などの出来事について考察する。</p>	
歴史学5	<p>歴史学とは過去にあった事実を知る学問であり、そしてその事実とは唯一不変なものである、と人は考えがちである。しかし、実際には、過去にあった事実は、新たな史料の発掘や既存の史料の内容の再検討、はたまた研究者の問題関心の相違によって変化するのであり、また、それに伴い、現代社会の中での歴史的事件・事象の評価も変化する。</p> <p>本講義では、歴史学という学問の性格を確認しつつ、著名な歴史上の事件・事象を取り上げ、それらに対する理解・評価の変化を概観していく。</p>	
歴史学6	<p>日本の小学校・中学校・高等学校で習ってきた歴史の授業は、そのほとんどが各時代の支配者、あるいは国家の中核を担った人々の活動やそれに関連して生じた事件・出来事に関する説明で構成されている。そこでは、それらの時代を生きた「民衆」と呼ばれる人々について言及されることはほとんどない。なぜ、民衆の歴史は学校での歴史の授業の中では語られないのか。そして、語ろうとした場合、どのような歴史を描くことが可能なのか。何が不可能なのか。</p> <p>以上のような発想を前提に、本講義では日本の古代から近現代にかけての民衆の歴史を捉えていく。本講義を通じ、現在私たちが有している価値観や習俗というものが、決して唯一普遍のものではないことを学んでほしい。</p>	
人文地理学1	<p>本授業は、人文地理学の立場から、日本における信仰文化・宗教文化を提示するものである。具体的には、日本の自然環境や歴史・文化的環境の概略を理解した上で、実際に日本でどのような信仰文化・宗教文化が歴史的に展開してきたのかについて学習する。</p>	
人文地理学2	<p>本授業は、人文地理学の立場から、日本における信仰文化・宗教文化を提示するものである。具体的には、日本の自然環境や歴史・文化的環境の概略を理解した上で、実際に日本でどのような信仰文化・宗教文化が歴史的に展開してきたのかについて学習する。</p> <p>本授業は、人文地理学の立場から、世界における信仰文化・宗教文化を提示するものである。具体的には、世界の自然環境や宗教面における歴史的環境の概略を踏まえた上で、世界各地で展開した信仰文化の一端を学習する。中国文化圏の「道」の文化や、仏教文化圏の仏教文化を中心とする。</p>	
文化人類学各論1	<p>この授業ではラッタンシ『14歳から考えたいレイシズム』（以下、テキストと略記）を通読しつつ、人種問題の現状を「人種化」「制度化されたレイシズム」等の視点から理解する。本書によれば、現代の人種問題は人種差別をやるかしないかという単純なものではなく、一見差別と無関係に見える文脈に、それでも差別が現れる点に問題がある。あるいは、人種問題とジェンダー問題が複合する場合もある。こうした「単純ではない人種問題」の理解を学ぶことが授業の趣旨である。受講者は予習としてテキスト中の語句や事項について下調べをし、教員の提示する問いについて話題提供する準備を行う。授業中はそれらの諸点につき教員から多くの質問を受けるので、各人はできるだけ論理的な受け答えをすること。その様子をもとに教員は重要事項の再確認・整理を提示するので、受講者は自身の理解をさらに深めるよう期待される。</p>	

		文化人類学各論2	この授業の趣旨は大きく二点に分かれる。ひとつは、文化人類学者がフィールドワーク（現地調査）を紹介した著作3点を通読しながら、学術書の読み方を学ぶことである。学術書には一定の読み方があり、それを守りさえすれば誤読の危険性を相当程度免れることができる。反対に、読み方を守らず「自分勝手に」読めば、一方的な偏見を著作に押し付けることにもなりかねない。ことに、社会・文化的な「他者」について学ぶ学問である文化人類学でこのような偏見を抱くことは危険である。もうひとつは、的確な読解のうえにたち、著者らが問題にする文化人類学的な現地理解を著者の記述を通して追体験することである。文献をある程度正確に読めるようになれば、外国に足を運ばずとも異なる社会や文化のありようを生々しく経験することが一定程度可能であると思われる。そうした経験は一言で言えば「おもしろい」ものであり、本学の学生にもできるだけ良質な経験をしてもらいたいと教員は考えている。ただし繰り返になるが、そのためには、「自分勝手」ではない、著者の意図を的確におさえた読解作業が必要になるのである。	
自然科学系科目群	1 基礎科目	数学入門1	数学入門1,2では、教養課程の数学で主に学ばれる分野の『解析学』『線形代数』ではあまり扱われることのない分野の数学について、その入門的内容について幅広く取り扱う。本講義で扱う分野は現代においてはコンピュータに関わる理論など、様々な理論のバックボーンとして活用されている。数学入門1では、素数の性質から合同式・1次不定方程式を学ぶ。またこれらの応用先としてよく知られているRSA暗号を取り扱う。	
		数学入門2	数学入門1,2では、教養課程の数学で主に学ばれる分野の『解析学』『線形代数』ではあまり扱われることのない分野の数学について、その入門的内容について幅広く取り扱う。本講義で扱う分野は現代においてはコンピュータに関わる理論など、様々な理論のバックボーンとして活用されている。数学入門2では次のトピックについて入門的な要素に触れる： ・n進数とその相互変換 ・連分数による数の近似 ・集合とその濃度 ・超越数	
		数学1	線形代数で主役となる行列は高校で学ぶベクトルの発展したものである。ベクトルに独自の和や積があるように行列にも独自の四則演算がある。行列の四則演算の法則は数の四則演算の法則と似ているが異なる点もある。また、行列一つ一つに行列式という量が付いている。この講義では行列の四則演算と行列式の計算法に加えて行列式の数学的な応用の仕方を学ぶ。	
		数学2	連立1次方程式を理論的に考えていくためには、ベクトルの1次独立・1次従属といった新しい考え方が必要になる。学期の前半に、ベクトルに関する新しい部分をゆっくり時間をかけて学び、行列の階数（ランク）などもここで講義する。目的の連立1次方程式の解き方は、同次連立1次方程式と非同次連立1次方程式に分けて考える。	
		数学3	数学3/数学4では、1年を通して微分積分学(解析学)の基礎を学修する。数学は日常に現れる様々な概念(例えば物体が移動することなど)を明瞭に記述する手段の一つであるが、特に微分積分学は、物体の速さや温度、また商品の価格といった、値の連続的な変化を取り扱う際に用いられる。本講義では微分積分の計算を中心に扱う。また微積分の公式を得る際に、指数対数関数・三角関数の性質についてもいくつか取り扱う。	
		数学4	数学3/数学4では、1年を通して微分積分学(解析学)の基礎を学習します。数学は日常に現れる様々な概念(例えば物体が移動することなど)を明瞭に記述する手段の一つであるが、特に微分積分学は、物体の速さや温度、また商品の価格といった、値の連続的な変化を取り扱う際に用いられる。本講義では、「数学3に学んだ微積分の計算練習」「平均値の定理とグラフの増減」「Taylor展開」「初歩的な複素関数論」を学習する。	

物理学入門1	身の回りにある物や現象がどのように物理学と深く関わっているのかについて学ぶ。日常生活となじみの深い物事を科学的な視点からもう一度眺めて理解する。 到達目標は次の通りである。身近にある自然現象やハイテク製品を通じた学習を元に、現代社会において物理学が果たす役割とその意義について説明することができる。また、物理学の知識を用いて我々の「世界」を論理的かつ科学的に捉えることができる。	
物理学入門2	日常生活で目にする様々な自然現象や、我々の生活を支えている科学技術の背後にある自然界の法則について学ぶ。多くの具体例を通じて、生活の中に見出される謎や物事の仕組みを物理学の観点から解き明かし、根源にある法則の理解を目指す。 到達目標は次の通りである。身近な自然現象や科学技術にまつわる物理学の学習を通じて、現代社会を生きる上で役立つ基本的な科学的素養を身につける。具体的には、19世紀末までの物理学（原子と原子核を除く、高校物理の範囲）の基本法則について、数式を極力用いない形で、体系的に理解する。	
物理学方法論A	各実験題目について、配布テキストを用いて物理学実験の基礎となる原理を学び、その内容を実際の実験・観察によって確認する。実験結果をまとめてレポートを作成することを通じて論理的な思考力と表現力を深める。春学期では「波」をキーワードとして、主に「波の性質」、「光の波としての性質」、「音波による波の合成」、「磁場の日常生活への応用」等について学ぶ。 到達目標は次の通りである。実験・観察を通して自然の仕組みを理解すると共に、その実験結果を論理的かつ客観的な文章(レポート)として記述できる。実験データにおける誤差の意味を理解し、定量的な評価ができる。仲間との役割分担やコミュニケーションに基づき、協調して実験を行うことができる。様々な物理実験とレポートの作成を通じた科学的な思考および表現能力が備わっている。	
物理学方法論B	各実験題目について、配布テキストを用いて物理学実験の基礎となる原理を学び、その内容を実際の実験・観察によって確認する。実験結果をまとめてレポートを作成することを通じて論理的な思考力と表現力を深める。秋学期では「粒子」をキーワードとして、主に「熱」、「原子と原子核の世界」、「ロボット技術」等について学ぶ。 到達目標は次の通りである。実験・観察を通して自然の仕組みを理解すると共に、その実験結果を論理的かつ客観的な文章(レポート)として記述できる。実験データにおける誤差の意味を理解し、定量的な評価ができる。仲間との役割分担やコミュニケーションに基づき、協調して実験を行うことができる。様々な物理実験とレポートの作成を通じた科学的な思考および表現能力が備わっている。	
化学入門1	化学の基礎を学ぶ。化学は物質の科学である。物質が、原子を最小構成要素として、その組み合わせにより成立しているという、化学的物質観を学ぶ。原子の個性(元素の違い)を知り、化学結合の原動力として働く電子の役割を考える。化学結合を通してできる分子について先ず学び、簡単な分子単位が結合して出来る巨大だが単純な高分子に至る。また原子凝縮体である金属と鉱物について学ぶ。	
化学方法論A	この授業は「実験」を含む科目です。原則として「講義の回」と「実験の回」とに分かれている。「化学方法論A」では、主に無機・分析化学系の実験を予定している。実験終了後、実験の結果をまとめ、さらに考察や課題を書き加えたレポートを後日提出する。「講義の回」では、実験の内容に関する基礎的な事柄や実験操作の要点などについて学習するほか、関連する身近なトピックについても適宜触れる。	
化学方法論B	この授業は「実験」を含む科目です。原則として「講義の回」と「実験の回」とに分かれている。「化学方法論B」では、主に有機・高分子化学系の実験を予定している。実験終了後、実験の結果をまとめ、さらに考察や課題を書き加えたレポートを後日提出する。「講義の回」では、実験の内容に関する基礎的な事柄や実験操作の要点などについて学習するほか、関連する身近なトピックについても適宜触れる。	

生物学入門1	この授業では、「食べる」を通して生命維持のしくみを学びます。食 べることは生命を維持するために欠かせない行為である。この身近な 「食べる」という行為から、細胞や代謝などの知識を得て、生命維持 の仕組みについての理解する。また、新聞記事など科学ニュースをとり あげ、科学への興味を深める。	
生物学入門2	遺伝子テクノロジーは医療や日々の生活に不可欠な技術となっている が、生命（ゲノム）に手を加えることの是非については議論が尽くされ ていない。生命システムへの積極的介入は同時に「命の尊厳とは何か」 という問いを私たちに投げかける。この授業では、生命がもつ 「普遍性」を理解しながらゲノムに関する基礎知識を身につけ、ク ローン動物、生殖補助医療、再生医療（ES細胞とiPS細胞）、遺伝子 組換え技術等における具体的な問題をおさえる。豊富な教材を用いた 基礎知識の解説に加え、科学雑誌や新聞記事等から厳選した最新の話 題を取り上げ、視野を少しずつ広げていく。	
生物学方法論A	遺伝子テクノロジーは、私たちに、社会に、未来に何をもたらすので しょうか？この授業では「人体・生命の不思議」に触れながら、細胞 採取、DNA抽出、遺伝子診断や遺伝子組換え等の実験を通して、科学 技術と社会について思考を深めていく。【講義】の翌週に【実験】す る流れとなる。私たちの日常にはあり得ない「極微量」の試薬や各種 実験機器を扱うので、本格的な実験者トレーニングを受けることがで きる。	
生物学方法論B	遺伝子テクノロジーは、私たちに、社会に、未来に何をもたらすので しょうか？この授業では「人体・生命の不思議」に触れながら、細胞 採取、DNA抽出、遺伝子診断や遺伝子組換え等の実験を通して、科学 技術と社会について思考を深めていきます。【講義】の翌週に【実 験】する流れとなります。私たちの日常にはあり得ない「極微量」の 試薬や各種実験機器を扱いますので、本格的な実験者トレーニングを 受けることができます。	
生命科学入門1	近年バイオテクノロジーは急速に発展しており、iPS細胞を用いた再 生医療や遺伝子診断など、今までは困難と考えられてきた技術が身近 なものとなってきた。一方で、これまではなかった倫理面・法律面 での問題が生じ始めています。この講義では、生命科学の基礎ととも に、社会で実際に利用されているバイオテクノロジー技術について学 ぶ。そしてバイオテクノロジーの可能性や今後の発展について考え る。	
生命科学入門2	近年急速に発展しているバイオテクノロジーは、私たち生命の本質を 明らかにしようとしている。それに伴い、私たち一人一人が新しい知 識を学び、自分自身の意見を持ち生命科学と向き合うことが重要と なってきた。この講義では生命科学の分野でどのようなことが明らか とされつつあるのか学ぶ。また、新しい技術を社会がどのように受け 入れようとしているのか学び、生命科学の発展に伴う利点と問題点に ついて考える。	
生命科学方法論A	植物は私たちの食糧としてだけでなく、地球環境維持のためにもなく てはならない存在である。この授業では植物のからだの観察を通し て、植物がどのように生存しているのかその仕組みを理解する。植物バ イオテクノロジーの実験は、ある課題に対する答えを実験的に証明して、論 理的に説明するために行う。この一連のプロセスに必要な論理的な思 考は文系の仕事であっても共通している。この授業では「植物のから だの観察」という実習を通して、植物についての理解を深めるととも に、論理的な思考を身に着けることを目指す。	
生命科学方法論B	植物バイオテクノロジー技術は食糧の増産や環境修復、エネルギー源 の確保など現在の社会的な問題の解決を担う技術として注目を集めて いる。この授業では植物バイオテクノロジー技術の基盤となっている 実験を体験する。また、これらの技術を通じてどのようなことができ るのか、何が分かるのか、論理的に理解できることを目指す。植物バ イオテクノロジーと聞くと難しそうであると感じるが、自ら体験する ことで身近な技術としてとらえ、個々人が新しい技術に対する正確な 対応ができるようになることを目指す。また、文系・理系共通して重 要となる論理的な思考を、実習を通して身に着けることを目指す。	

現代の物理学1	我々が日常とても体験できないような世界のことが、科学技術の発展と実験や観測の工夫によって徐々に明らかになってきた。この授業ではミクロの世界や宇宙のことにに関して現代の物理学でどこまでわかってきたのか、物理学の歴史と合わせて理解する。また、物理学においてどのような事柄がまだ未解明で、現代の物理学における中心的な課題について概説する。 到達目標は次の通りである。我々が存在するこの世界がどのように形作られているか、科学(物理学)の歴史をたどりながら系統的に説明することができる。また、ミクロの世界や宇宙の始まりなど、日常では体験できないような不可思議な物理の世界の学びを通じて、抽象的かつ論理的な科学的思考ができるようになる。	
現代の物理学2	二十世紀になって我々人類の自然に対する世界観は一変した。普段意識しない極微の領域や天上に広がる宇宙に目を向けると、そこには我々の直感がはたらかない驚くべき世界が広がっている。授業では、相対論および量子論に基づく二十世紀以降の物理学を通じて、我々人類が自然についてどこまで理解しているかを学ぶ。 到達目標は次の通りである。物質の成り立ちの根本や宇宙の構造・歴史に関する物理学の学習を通じて、人類が築き上げてきた自然に対する理解の現状を包括的に把握する。具体的には、相対論および量子論の基本的な考え方を、数式を極力用いない形で、体系的に理解する。併せてこれら二十世紀以降の物理学に基づいた、天体・宇宙および原子・原子核・素粒子に関する最先端の観測・実験結果と学説の概要を知る。	
現代の化学1	私達は様々な物質に囲まれ助けられて日々の生活を送っている。毎日電車やバスに乗りスマホを身に付け仕事や余暇に明け暮れている。これらの品物ははすべて物質であり、現代化学の成果なのである。物質に対する正しい知識を身に付けるため、鉱物・金属・人工鉱物のような原子を基本素材とする物質から始め、有機化合物や無機分子化合物のような分子を素材とする物質、そして繊維・ゴム・プラスチックのような高分子を素材とする物質まで、その化学構造を中心に講義する。	
現代の化学2	生命体の基本構成物質である種々の炭素化合物(有機化合物)について学ぶ。始めに、有機化学および高分子化学の基本を学習する。次いで、生命体の構成成分である糖質・蛋白質・脂質について知り、さらに遺伝子の構造と機能を学び、最後に生体内の物質の流れ(代謝)と生体機能維持物質(ホルモンとビタミン)について学習する。	
現代の化学3	前半では、地球環境を、気体である大気、液体である水、固体である土壌に分けて、その化学的側面を学ぶ。後半では、人間により環境中に放出されて人間生活を脅かす存在になってしまった、二酸化炭素・フロン・塩素系農薬などの炭素化合物、水銀・カドミウム・放射性元素などの微量重金属類の特性と有害性について学ぶ。	
現代の生物学1	種を維持し、生命を連続させるしくみはすべての生物にみられる特徴である。連続する生命の中で多様性がおこり、複雑な生物の世界が作られている。本講義では、発生を中心にさまざまなトピックから遺伝子や生命のしくみを学ぶ。新聞記事をとりあげるなど、生物学入門と同様な形式で講義を進める。	
現代の生物学2	遺伝学、分子生物学、生態学等の生物学をもとに人間と動物の関係について考える。日本の身近な動物の現状を理解し、人間との共存に関係する問題や共生に向けた課題を解決する意識や思考力を育てる。	
現代の生物学3	遺伝学、分子生物学、生態学等の生物学をもとに生物多様性について考える。生物多様性の意義や社会的認識を理解し、講義で紹介された国内外のトピックスから生物の保護や管理の問題を解決する意識や思考力を育てる。	
現代の生物学4	動物には多くの種が存在し、それぞれがさまざまな形態や生態を持っている。これらの多様性は進化がうみだしたものである。現代の生物学4ではまず進化の基礎について解説し、動物行動学や行動生態学の考え方を学ぶ。この考えにもとづいて、ヒトを含めた動物の雄と雌の関係、親と子の関係、仲間や敵との関係について論じる。現代の生物学4ではこのうち前半部分を取りあげる。	

		現代の生物学5	動物には多くの種が存在し、それぞれがさまざまな形態や生態を持っています。これらの多様性は進化がうみだしたものである。現代の生物学5ではまず進化と遺伝の基礎について解説し、動物行動学や行動生態学の考え方を学ぶ。この考えにもとづいて、ヒトを含めた動物の雄と雌の関係、親と子の関係、仲間や敵との関係について論じる。現代の生物学5ではこのうち後半部分をとりあげる。	
		生物学特論	「性」とは何でしょう？感情論や本能的な行動に陥りがちな性、まして他人のことなどよくわからない性について、ついぶれてしまう見方や考え方に触れていく。社会学、生物学、医学等の学問的な枠組みを超えリアルな「性」ととらえることで、「誰もが（自分も）多様性を生きる当事者なのだ」という到達点を目指す。毎回「ワークシート」を用いて履修者の感度を高める。価値観が大きく揺さぶられ、深い思考をいざない、気づきをもたらす。	
		生命科学各論1	「生命」とは「生物」が示す基本的な特質と考えられているものと定義されています。「生物とは何か」という問いの答えとして「自律的に代謝をすること」があげられる。代謝とは生体内における物質の流れのことで、必要なものを取り込み、生体を構築する材料としたり、エネルギーに変えて生体を支えるという、生物として最も基本的な仕組みである。ここでの「必要なもの」こそ栄養である。本講義では、栄養がどのように取り込まれ、どのように利用されていくのか、細胞から生体のレベルで解説する。	
		生命科学各論2	近年のバイオテクノロジーの急速な発展に伴い、生命科学の新しい知見が次々に明らかになっている。生命科学は「人とは何か？生命とは何か？」を解き明かそうとする先人たちのあくなき探求心に支えられている。この授業では生命科学がどのように発展を遂げてきたかその歴史を学ぶことにより、新しい技術が発展した経緯を理解する。生命科学を身近な学問としてとらえ、生命科学と社会とのつながりについて理解する。	
		生命科学各論3	普段我々が自然の中で、そして日常生活の中で何気なく目にし、耳にする様々な生命現象に焦点を当て、その背景にある生命のメカニズムを学ぶ。動けない植物の巧みな生存戦略に注目し、そのメカニズムを細胞、代謝、遺伝子レベルから理解する。	
		生命科学特論	普段我々が自然の中で、そして日常生活の中で何気なく目にし、耳にする生物界の諸現象に焦点を当て、その背景にある生命のメカニズムを学ぶ。花色の多様性と進化といった基礎生物学から、新しい農業や人間生活の質的向上を目指した、現在そして近未来のバイオテクノロジーまで私たちの身近にある種々のトピックを取り上げ、現代の生命科学を俯瞰する。	
健康・スポーツ科学系科目群	1 基礎科目	健康科学概論1	毎日のよくない生活習慣の積み重ねによって様々な疾患（病気）が発症・進行する。このような疾患群は生活習慣病と呼ばれ、日本人の死因の3分の2近くを占めるとされている。本講義では、主な生活習慣病や生活習慣病にならないための生活習慣についての正しい知識を獲得することを目指す。その他、いくつか生活習慣病以外の疾患についても扱う。また、生活習慣を変えるためにはどのような方法があるかについても学ぶ。	
		健康科学概論2	健康は、皆さんが目標や夢を実現する、あるいは元気に長生きするための基盤となる。不健康の要因が多岐にわたる現代日本社会において健康を維持・増進するうえで、健康あるいは不健康について幅広く正しい知識を有することは大変重要なことである。本講義では、現代社会における主な健康問題について、その要因や予防・対処方法に関する知識を学ぶ。	
		スポーツ科学概論1	本講義では、身体の機能や構造および身体活動による骨格筋、神経系、呼吸循環器系の変化や適応についての基礎的な知識について学習する。加えて、運動やトレーニングが健康や競技力向上にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。	

スポーツ科学概論2	本講義では、トレーニングの方法およびその効果についての講義を行う。具体的には、アスリートの競技力向上、健康の維持・増進、子どもの体力・運動能力向上、高齢者の介護予防などの観点から、運動、トレーニングの必要性を解説する。加えて、運動による疲労や障害予防についても学習する。	
スポーツ社会学概論1	近代スポーツはこれまで政治・経済、社会情勢に伴い変化してきた。近代スポーツの歴史を読み解いていくと、現在でも問題となっている事柄の原因となってきたものを見出すことができ、そこからそれぞれの現状と今後の課題を検討することができる。近代スポーツは決して華やかな表舞台だけではなく、その裏にはさまざまな問題を抱えてここまで成長・発展してきた。本講義では、以下の授業の内容から、21世紀のスポーツの問題点について検討し、現代社会におけるスポーツの社会的機能・役割等について考えていくための基礎的な物の見方、考え方を育てることをねらいとする。	
スポーツ社会学概論2	スポーツ社会学概論2では、人々が生きる・暮らしの中で近代社会がもたらした、運動不足やストレスをどのように認識し、新たなスポーツとの関わり方や、働き方改革に伴う自己実現のあり方・生き方の模索など、スポーツの見方や考え方をリサーチすることをテーマとする。スポーツと社会の関係性を問うことがこの授業のねらいであり、そのためにはリサーチが重要であることを学ぶ。また、この授業を通じてスポーツと社会の問題について、各自のテーマで目的・仮説を立て、調査を行い、結果を明らかにすることでスポーツ社会学研究の方法論についてを学ぶ。	
スポーツ方法学1	青年期に運動習慣を身につけ、総合的な体力を高めておくことは、その後の体力および健康の維持・増進のためにも大変重要なことである。本授業は、運動・スポーツ実践を通じて自分自身の行動体力を総合的に向上させるとともに、行動的で豊かな学生生活を過ごすための運動処方論と実践方法について学習する。特に呼吸循環機能の改善や骨格筋機能の向上について、楽しみながら効果的に体力づくりが行える方法を学ぶ。	
スポーツ方法学2	生活習慣病やメタボリックシンドロームは、体脂肪が必要以上に蓄積した場合に生じる。そのため、健康管理においては、体重の調整が重要な要素となる。本授業は、体重調整と運動および健康との関わりについて解説し、生活習慣病予防と健康的なプロポーションづくり、コンディショニングづくりについての基礎知識と運動実践能力を身につけることをねらいとする。	
スポーツ方法学3	本授業は、スポーツとコミュニケーションをテーマに、下記の内容について学習する。①運動・スポーツ活動に伴う身体諸機能の応答を観察し、自己のからだや健康の状態について把握する（自己の身体とのコミュニケーション）。②スポーツ活動を通じて、用具を巧みに操る方法や、空間における用具・からだの動きを把握する方法について学習する（外部環境とのコミュニケーション）。③アイコンタクトやボディコンタクト、戦術の理解・共有等を通じて他者とコミュニケーションをはかる方法や能力について学習する（他者とのコミュニケーション）	
スポーツ方法学4	スポーツは、からだを動かし、爽快感、他者との連帯感等の充足や楽しさをもたらす、体力の向上や精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持に有効である。21世紀の社会において、生活が便利になりからだを動かす機会が減少した状況では、生涯にわたりスポーツに親しむことができる「スポーツライフ」を送ることは大きな意義がある。本授業は、生涯スポーツの意義や、生涯スポーツとして行われることの多いスポーツ種目について、基礎的な知識や実践能力を身につけることをねらいとする。	
シーズンスポーツ研究1A	本授業は、シーズンスポーツ1B（ゴルフ実習8月下旬:学外ゴルフコース）に向けて学内施設を利用して基礎技術の取得、体力づくり、日常のコンディショニング調整、安全管理について行なう。また、ゴルフの歴史やゴルフと環境、ゴルフと文化について理解し、生涯スポーツとしてのゴルフを楽しむ方法について学ぶ。この授業はゴルフ経験のない人も受講可能である。	

		シーズンスポーツ研究2A	<p>野外活動を実施するに際しては、自然を理解し愛護すると同時に、安全や健康管理、ルールやマナー等に関する基礎知識と各活動の基礎技術をマスターすることが重要である。本授業では、自然や環境、野外活動のルールとマナー、様々なアクティビティについての基礎知識に関して学習し、加えて、健康・体力づくり、アウトドアスポーツ等に関する知識・スキルを身につけることをねらいとする。</p> <p>授業では、野外活動についての解説、および野外活動の技術練習、レクリエーション、スポーツ活動などの様々なアクティビティを行う。</p>	
		シーズンスポーツ研究3A	<p>スキーは、年齢を問わず生涯を通じて行うことができるスノースポーツである。本授業では、スキーに関わる知識・技術、スノースポーツ実施時の安全対策について授業を展開する。加えて、スノースポーツに関する基礎知識、運動習慣と健康、健康維持・増進のための運動処方についても学習する。この授業はスキー経験のない人も受講可能である。</p>	
	2 応用 科目	トレーニング科学理論・実習1	<p>筋力トレーニングをはじめとする身体トレーニングは、様々なスポーツでアスリートのトレーニングに用いられるようになってきている。また、近年では理想とするプロポーションの獲得やダイエットの方法として、アスリート以外の人々でも日常的にトレーニングに取り組むようになってきた。しかし、トレーニングに関する情報の多くは、科学的な根拠に欠けている。効果的・効率的なトレーニングのためには、科学的根拠に基づき、かつ正しい技術を用いてトレーニングを行う必要がある。本授業では、科学的根拠に基づくトレーニングの方法（栄養学含む）を学ぶとともに、効果的・効率的なトレーニングに欠かすことのできない基本技術の習得を目的とする。</p>	
		バイオメカニクス理論・実習1	<p>バイオメカニクスは、解剖学・生理学・力学を応用して、身体の動きの仕組み、巧みさ、また効率的な動きを解明しようというスポーツ科学の一分野である。我々が普段の生活をするときどのくらいのエネルギーを消費しているのか、また、我々は約600個もの筋（肉）を有しているが、運動するときそれらの筋肉をどのように選択してどのように活動させているのか、等々、ヒトの多様な運動について、実験機器を用いて科学的に分析し、それらのメカニズムについて知識を深める。</p>	
		シーズンスポーツ研究1B	<p>この授業は、自然に囲まれたゴルフコースにおいて、4日間の学外集中授業として実施する。学外授業においては、ゴルフ技術の向上に加え、自然とのコミュニケーションを楽しみ、森林浴や癒し効果も体験できる。ゴルフ未経験者も安心して受講できる。</p>	集中
		シーズンスポーツ研究2B	<p>本授業は、夏季休暇期間に3日間の学内および学外での集中授業を実施する。学習内容は、1日目は野外活動に関する講義や、近隣公園を含む学内でのハイキングやコンパスワーク、2日目と3日目は学外でのマリンスポーツを体験し、野外活動と健康との関わりについて考え、今後のライフスタイルの基礎を確立することを目指す。</p>	集中
		シーズンスポーツ研究3B	<p>本授業は、2月中旬または下旬に状況に応じて人工スキー場や長野県スキー場を利用して学外集中授業として実施する。授業は、スキー技術の向上、ゲレンデにおけるマナーと安全対策、寒冷環境下の体調管理等に関する理論と実践の両面を学習する。そして、生涯スポーツを安全に行うための基礎を確立すること、ライフスタイル（運動・栄養・休養）について学習し、生涯の健康づくりについて考えることを目標とする。</p>	集中
総合 教育 系 科目 目 群	1 基礎 科目	多文化共生入門1	<p>「多文化共生」という言葉が使われるようになって久しい。しかしこれまで自治体レベルで多くの対策がなされているにも関わらず、多くの一般市民には「外国人」の問題は「不可視」であり、なかなか具体的な考えを巡らすことは少ない。本授業では、多文化共生という考え方、日本政府の考え方などを踏まえながら、「多文化共生」について理解を深める。具体的には、いわゆる「外国人」と言われる人たちは、どのような背景で日本に在住しているのか、その根拠を知る。それを通じて、多文化化する日本社会についての自分なりの見方を涵養し、自分なりの考えを身につける機会と視点を提供する。</p>	

多文化共生入門2	「多文化共生」という言葉が使われるようになって久しい。日本に在留する外国人が300万人近くになったからだ。その中で、日本社会は彼らとどのように向き合ってきたのだろうか。日本で難く暮らす外国人がいる一方で、人権侵害を被る外国人が後を絶たない。本授業では、日本社会の中で、外国人が人権を侵害されてしまう背景を、いくつかの概念や制度から考える。そのうえで、国際移動をした人が（日本の外国人はこれにあたる）自分とは異なる場所へ移動した人がどのように社会に適応するのか、といった自分なりに考えをすすめる上での「視点」となる概念－同化、統合、多文化主義などを考える。	
グローバルシチズンシップ入門1	自らが地球市民であるというグローバルシチズンシップの視点に立つことによって、これまで誰も経験したことのない社会問題について対処できるような思考力・判断力を身につけられるようになることを目標としている。	
グローバルシチズンシップ入門2	自らが地球市民であるというグローバルシチズンシップの視点に立つことによって、これまで誰も経験したことのない社会問題について対処できるような思考力・判断力を身につけられるようになることを目標としている。	
現代平和研究1	「唯一の被爆国」といわれる日本で学ぶ若者は、ヒロシマ・ナガサキをどこまで知っているだろうか。この授業では、原爆投下によって開かれた核時代に関する基本的な知識を確かなものにし、被爆地からの発信がどのように平和に貢献できるかを考える。（なお、その際に今日の日本人がふまえるべき侵略と加害の歴史を秋学期の「現代平和研究2」で学習するので、併せて履修することが望ましい。） 明治学院大学国際平和研究所が提供するこの授業は、広島市・長崎市・（公財）広島平和文化センターが普及を図っている「広島・長崎講座」として認められたものである。	
現代平和研究2	講義のテーマは「『歴史認識問題』から問い直す平和」である。自らの属する共同体の負の歴史をいかに認識し記憶するかは、その社会やそこに暮らす人々がいかなる状態にあるべき「平和」と考えるかを探るうえで重要な指標となる。この講義では、現代世界における「歴史認識問題」をめぐる議論のうち、奴隷制や奴隷貿易、植民地支配、侵略戦争、権威主義体制下での人権侵害など、国家暴力に関連する論点に注目し、各地域や社会の具体的な状況に即して考察することを目的とする。	
環境学各論3	地球環境の改善と持続可能な社会の形成には、私たち一人ひとりが正しい知識にもとづいて行動していくことが不可欠である。この授業では句の話題をテーマに選び、グループを組んで「確度の高い情報」を収集し、「論理的な思考」で掘り下げることにより「問題の核を見抜く目」を鍛えていく。	
環境学各論4	地球環境の改善と持続可能な社会の形成には、私たち一人ひとりが正しい知識にもとづいて行動していくことが不可欠である。この授業では句の話題をテーマに選び、グループを組んで「確度の高い情報」を収集し、「論理的な思考」で掘り下げることにより「問題の核を見抜く目」を鍛えていく。	
サステナビリティ学1	サステナビリティ学 (sustainability science) は、人間活動と自然環境が調和した持続型社会の構築を目指す学際的な学問領域である。近年、人間を取り巻く生活環境、社会環境、そしてこれらを基礎的に支える地球環境は著しい変化・変貌を遂げ、現在もなお進行している。そして、我々人類のみならず地球上のあらゆる生物の存在すら脅かされるというこれまでに誰も経験したことがない状況に世界は直面している。そこで、本講義では、地球システムの基礎をなす地球および生命の誕生について学び、次いで、現代社会で問題となっている環境問題、環境が生体に及ぼす影響について理解を深める。その上で、持続可能な地球社会を実現するための方策について多面的に考える能力を修得する。	

サステナビリティ学2	サステナビリティ学 (sustainability science) は、人間活動と自然環境が調和した持続型社会の構築を目指す学際的な学問領域である。現代の人間を取り巻く環境は、科学技術の進歩により快適で利便性の高いものへと変化した。しかし、一方で環境の悪化を招き、環境ホルモン、農薬、化学物質が生体に影響をおよぼしたり、生活習慣病発病率が増加したり、少子高齢化というこれまでにない問題にも直面している。人間が健康で、安全に、安心して生活し、単に命を長らえるだけでなく、生きがいがあるようなライフスタイルと価値規範が確立されていることは、多様な環境の変化のなかにおいて重要な課題である。そこで、本講義では、地球システムおよび人間システムの枠組みから環境と健康の関わりについて学び、現代社会で問題となっている環境問題や環境因子が生体へ及ぼす影響について理解を深める。その上で、持続可能な地球社会を実現するための方策について多面的に考える能力を修得する。	
ボランティア学入門1	ボランティアは、「市場」や「国家」による人と人の結びつけ方とは違った原理で、「わたし(=自己)」とかけがえのない「あなた(=他者)」とを結ぶ営みである。そんな理解に立った上で、労働、自発性、贈与、そして自治という切り口から、「ボランティア」という営みを考えると共に、ボランティアのような一見「不合理」な営みを行ってしまう人間という存在の面白さを探求する。	
ボランティア学入門2	地域再生・地域活性化……。地域とよく聞くようになったけれど、改めて「地域」とは何かを考える機会は少ない。自分の暮らす「地域」には何もないと思っている人、地域と関わる手がかりのないと感じる人も多い。そもそも、「地域」に居場所のない人たちもいる。地域の活性化が叫ばれる一方で、地域の衰退も叫ばれる。一握りの人がどうかしなければと叫ぶ「地域」ではなく、一人ひとりが自分の暮らす地域を考え、議論し、行動することを「自治」と呼ぶ。自発的に行う「ボランティア」が重要な役割を担う。 「ないものねだり」ではなく、「あるもの探し」という地元学のキーワードを手がかり、地域の自治がどう生み出せるのかを考える。	
ボランティア学入門3	ボランティアとは、「自発的」な活動であるが、それは何のための活動だろうか？自分の権利を捨てて他者へ貢献することだろうか？あるいは自分の利益が損なわれても全体へ「奉仕」するためのものだろうか？本授業では、ボランティアとは何か、ボランティアと近い考え方にはどのようなものがあるのか、概念を考え議論していくことが目的である。そのため、抽象度の高い概念の話が多いが、日本でのボランティアの歴史、市民運動からNPOに至る担い手の変化や、大学生にとってのボランティアの意味など、具体的な例を示しながら、「自発的」に考え、「自発的」に発言できる機会を提供する。	
ボランティア学入門4	ボランティアとは、他者の権利が保護されることへの希求であるが、同時に自己の権利の侵害への異議申し立てでもある。そのために、多くのボランティアは、他者の権利や自己の権利を守り、問題を主張するため、組織としての活動をする。それが現状では非営利組織と呼ばれるNPOである場合が多い。そこで本授業では、非営利組織NPOや非政府組織NGOについての理解を深める。またNPOの第一線で活躍するゲスト講師を招き、政府でもなく市場でもない、「自発的」な活動の話聞くことを、通して自発的に社会に参画するための方法を考える。	
グローバル社会と市民活動入門1	グローバル社会では、それまで「国際関係」の主要なアクターだった「国民国家」を飛び越え国家に属している個々人が、相互の依存を深めていく社会である。私たちの生活スタイルや社会のあり様が、どこか遠く離れた人びとの生活に影響を与える可能性もあり、また反対に私たちの生活の中に、グローバル化の影響は深く入り込んでいる。こうした中で、「責任ある市民として生活し」行動するためには、グローバルな問題を身近な問題と引き寄せて考えることが重要になる。Think Globally, Act Locallyである。そこで本授業では、相互に依存するグローバル社会の現実を自分の身近なところから発見できるよう、ワーク形式を中心とし、さらに実際にグローバルな問題を地域で活動を展開するゲスト講師をお招きして、受講者の小さな行動を促せるようきっかけを作ることを目的としている。	

グローバル社会と市民活動入門2	<p>グローバル社会では、それまで「国際関係」の主要なアクターだった「国民国家」を飛び越え国家に属している個々人が、相互の依存を深めていく社会である。私たちの生活スタイルや社会のあり様が、どこか遠く離れた人びとの生活に影響を与える可能性もあり、また反対に私たちの生活の中に、グローバル化の影響は深く入り込んでいる。こうした中で、「責任ある市民として生活し」行動するためには、グローバルな問題を身近な問題と引き寄せて考えることが重要になる。Think Globally, Act Locallyである。本授業では、グローバル・イシューとして「ジェンダー」に注目し、ジェンダーに関わるグローバル社会の現実を自分の身近なところから発見できるよう、ワーク形式を中心とする。ジェンダーとは「女性問題」ばかりではなく、社会現象が起こった際に、男女の差があることを示すこともある。さらに実際にグローバルな問題を地域で活動を展開するゲスト講師をお招きして、受講者の小さな行動を促せるようきっかけを作ることを目的としている。</p>	
ボランティア・市民活動論(国内)1A	<ul style="list-style-type: none"> ・講義や実践を通じて、ボランティアや市民活動の基礎知識を学ぶ。 ・現在、市民活動の現場で働く人たちの話を聞き、現場にふれる。 ・グループワークを通じて、現代の社会課題を発見するとともに、その解決のために実行可能なボランティアを考える。 	
アカデミックライティングの基礎	<p>レポート・論文とは何かを理解するため、感想文や体験作文と異なる論証構成と文章作法の基礎を学ぶ、初学者向けの講義科目である。本格的な添削指導のある科目の履修前に、この科目の履修をすすめる。授業内課題に取り組むことを通し、レポートの基本的スキルや注意点を身につける。教科書をリーディング課題として毎回小テストをおこない、授業内課題の提出を求める。</p>	
ライフデザイン1	<p>ほんの少し前向きな意識を持つだけでも大学生生活は大きく変化し、将来への道が見えてくる。 この授業では、ワークシート作成やグループワークによるディスカッションを交えながら、自分の興味や関心、自分を成長させてくれるものを分析して、大学生生活の目標を明確にしていく。</p>	
キャリアデザイン1	<p>明学同窓生の実務経験者が実務と学問の融合の重要性を説きながら、将来のキャリアプランを創造させる人財育成講座である。個々のライフデザインについて多面的な将来像を考える機会として、本校のOB・OGによる多彩なゲストスピーカーの講義を交え、就職に必要な業界研究の方法、自己分析などキャリア形成に必要な考え方を学ぶ。講義は、発表やグループワークを取り入れた学生参加型の授業である。</p>	
日本の社会と文化1A	<p>本授業は留学生、一般学生合同で実施される。両者混合のグループを構成し、所定のテーマについて調査、検討、プレゼンテーションを行う。またグループワークの成果を踏まえて、それぞれが個人レポートを作成する。その過程で、調査研究・プレゼンテーション・論文作成のそれぞれについて必要な技法の指導を行う。</p>	
日本の社会と文化1B	<p>本授業は留学生、一般学生合同で実施される。両者混合のグループを構成し、所定のテーマについて調査、検討、プレゼンテーションを行う。またグループワークの成果を踏まえて、それぞれが個人レポートを作成する。その過程で、調査研究・プレゼンテーション・論文作成のそれぞれについて必要な技法の指導を行う。</p>	
異文化コミュニケーション研究A	<p>本授業は留学生、一般学生合同で実施される。両者混合のグループを構成し、所定のテーマについて調査、検討、プレゼンテーションを行う。またグループワークの成果を踏まえて、それぞれが個人レポートを作成する。その過程で、調査研究・プレゼンテーション・論文作成のそれぞれについて必要な技法の指導を行う。 日本人学生を対象にして、日本文化の特質をワークショップ形式で学ぶことを目標とする。授業には留学生も参加し、ともに学ぶことによって、日本と自国の文化や民族性の相違や共通性に関する知見を得られるものと期待する。東アジア諸国・地域からの留学生が多数を占めることを考慮して、いわゆる歴史問題についても意見交換を行いたい。</p>	

異文化コミュニケーション研究B	<p>本授業は留学生、一般学生合同で実施される。両者混合のグループを構成し、所定のテーマについて調査、検討、プレゼンテーションを行う。またグループワークの成果を踏まえて、それぞれが個人レポートを作成する。その過程で、調査研究・プレゼンテーション・論文作成のそれぞれについて必要な技法の指導を行う。</p> <p>日本人学生を対象にして、日本文化の特質をワークショップ形式で学ぶことを目標とする。授業には留学生も参加し、ともに学ぶことによって、日本と自国の文化や民族性の相違や共通性に関する知見を得られるものと期待する。東アジア諸国・地域からの留学生が多数を占めることを考慮して、いわゆる歴史問題についても意見交換を行いたい。</p>	
オルガン実習1	<p>本学のキリスト教精神を、音楽の観点から学ぶ。 チャペルとオルガンを通して西洋音楽とキリスト教の関係を学ぶ。 (この授業の特性から、授業場所はチャペルや記念館等となる)</p>	
ヨーロッパ研究(短期留学)	<p>本科目は夏季休暇期間に本学協定校や本学認定の語学学校が提供するプログラムに参加し、課題を提出して一定の成績をおさめた者に認定する科目である。</p>	集中
イギリス研究(短期留学)	<p>本科目は夏季休暇期間に本学協定校や本学認定の語学学校が提供するプログラムに参加し、課題を提出して一定の成績をおさめた者に認定する科目である。</p>	集中
スペイン研究(短期留学)	<p>本科目は夏季休暇期間に本学協定校や本学認定の語学学校が提供するプログラムに参加し、課題を提出して一定の成績をおさめた者に認定する科目である。</p>	集中
ドイツ研究(短期留学)	<p>本科目は夏季休暇期間に本学協定校や本学認定の語学学校が提供するプログラムに参加し、課題を提出して一定の成績をおさめた者に認定する科目である。</p>	集中
フランス研究(短期留学)	<p>本科目は夏季休暇期間に本学協定校や本学認定の語学学校が提供するプログラムに参加し、課題を提出して一定の成績をおさめた者に認定する科目である。</p>	集中
アメリカ研究(短期留学)	<p>本科目は夏季休暇期間に本学協定校や本学認定の語学学校が提供するプログラムに参加し、課題を提出して一定の成績をおさめた者に認定する科目である。</p>	集中
カナダ研究(短期留学)	<p>本科目は夏季休暇期間に本学協定校や本学認定の語学学校が提供するプログラムに参加し、課題を提出して一定の成績をおさめた者に認定する科目である。</p>	集中
韓国研究(短期留学)	<p>本科目は夏季休暇期間に本学協定校や本学認定の語学学校が提供するプログラムに参加し、課題を提出して一定の成績をおさめた者に認定する科目である。</p>	集中
中国研究(短期留学)	<p>本科目は夏季休暇期間に本学協定校や本学認定の語学学校が提供するプログラムに参加し、課題を提出して一定の成績をおさめた者に認定する科目である。</p>	集中
オーストラリア研究(短期留学)	<p>本科目は夏季休暇期間に本学協定校や本学認定の語学学校が提供するプログラムに参加し、課題を提出して一定の成績をおさめた者に認定する科目である。</p>	集中
東南アジア研究(短期留学)	<p>本科目は夏季休暇期間に本学協定校や本学認定の語学学校が提供するプログラムに参加し、課題を提出して一定の成績をおさめた者に認定する科目である。</p>	集中
アメリカ研究(中期留学)基礎1	<p>本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。</p>	
アメリカ研究(中期留学)基礎2	<p>本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。</p>	
アメリカ研究(中期留学)基礎3	<p>本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。</p>	

	アメリカ研究(中期留学)基礎4	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)基礎5	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)基礎6	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)応用1	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)応用2	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)応用3	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)応用4	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)応用5	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)応用6	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)発展1	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)発展2	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)発展3	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)発展4	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)発展5	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	アメリカ研究(中期留学)発展6	本科目は本学と協定を結ぶ海外協定校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。	
	海外インターンシップ 課題研究A	本科目は学生が参加した各種海外インターンシップについて、本学が単位を認定するための科目である。	
	海外インターンシップ 課題研究B	本科目は学生が参加した各種海外インターンシップについて、本学が単位を認定するための科目である。	
2 応用 科目	多文化共生各論1	外国につながる子どもたちへの学習支援を通して、彼ら彼女らが置かれている状況を正しく理解し、日本における多文化共生についてより深く考えられるようになることを目標としている。	
	多文化共生各論2	外国につながる子どもたちへの学習支援を通して、彼ら彼女らが置かれている状況を正しく理解し、日本における多文化共生についてより深く考えられるようになることを目標としている。	

多文化共生各論3	<p><やさしい日本語>とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人等にわかりやすいように配慮した日本語のことである。多文化社会においては情報の多言語対応等も不可欠だが、コミュニケーションのツールのひとつとして、この<やさしい日本語>の役割が注目されている。本授業では、在住外国人を取り巻く状況や、<やさしい日本語>の理念を理解し、多様な背景を持つ人々とのコミュニケーションに活用できるようにすることを旨とする。</p>
多文化共生各論4	<p>本授業では、外国語／第二言語として日本語を学んだり使用したりすることとはどのようなことかを捉え、社会的な背景を踏まえながら、日本語教育の目的や役割、日本語教育の多様な展開、それに応じた実践の在り方を理解する視点を身に付ける。留学生など日本語学習経験者に話をきいたり交流したりする活動にも取り組みながら考察を深める。</p>
グローバルシチズンシップ各論1	<p>自らが地球市民であるというグローバルシチズンシップの視点に立つことによって、これまで誰も経験したことのない社会問題について対処できるような思考力・判断力を身に付け、それを実践につなげられるようになることを目標としている。</p>
グローバルシチズンシップ各論2	<p>自らが地球市民であるというグローバルシチズンシップの視点に立つことによって、これまで誰も経験したことのない社会問題について対処できるような思考力・判断力を身に付け、それを実践につなげられるようになることを目標としている。</p>
グローバルシチズンシップ各論3	<p>自らが地球市民であるというグローバルシチズンシップの視点に立つことによって、これまで誰も経験したことのない社会問題について対処できるような思考力・判断力を身に付け、それを実践につなげられるようになることを目標としている。</p>
グローバルシチズンシップ各論4	<p>自らが地球市民であるというグローバルシチズンシップの視点に立つことによって、これまで誰も経験したことのない社会問題について対処できるような思考力・判断力を身に付け、それを実践につなげられるようになることを目標としている。</p>
ボランティア・市民活動論(国内)1B	<p>ボランティア・市民活動実習履修者を対象に、実習の経験を学問的な学びに高めていくためのトレーニングを行う。文献の講読や、実習記録の整理・分析、インタビュー記録の整理法、フィールドノートの書き方、報告書の編集方法について実践的に学ぶ。最終的には全履修者で一冊の報告書を作成するとともに、実習成果についてのプレゼンテーションを行う。</p>
ボランティア・市民活動実習(国内)	<p>学生・教員で議論しながら、グループワークで考えられたアイデアの実現を図る。企画・準備・実践・振り返りを適宜行いながら、活動の意味を深めていく。活動は、夏休みを中心に、春学期・秋学期の週末に実施する。実践や、活動にかかわる人びととの対話を通じて、現場に根付いた思想や、活動を支える社会的、経済的基盤を把握する。その上で、多様な人びとが生きやすい社会を如何に実現するのか、各自の構想を手に入れる。</p>
アカデミックライティング演習1	<p>日本語でのレポート・論文の基本的な構成法と文章作法を、数回の添削指導と少人数の演習型授業を通し、1～2年生にも理解しやすく実践的に訓練する。授業では資料の要約、読み取り、討論などのグループワークを通し、ひとつのテーマについて与えられた問題を各自考察し、論拠にもとづいた主張を構成する。さらにそれを1000字前後のレポートとして最短3～4日で提出し、添削を受ける。学期中間に1,500～1,800字、学期末に3,600～4,400字ほどのレポートを書く際は、短時間の個別面談を設ける。</p>
ライティングⅡ	<p>この授業では、現代のさまざまな社会現象とコミュニケーションをテーマに取り上げながら、自分と他者、自分と社会を関連させて考え、卒業後の自分を見据えた今後の目標を明確にしていく。</p>

キャリアデザイン2	<p>以下のことについて授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら考え、失敗を恐れずチャレンジできるように社会の仕組みならびに人との関わり方を学ぶ。 2. 起業人と企業人の講義を聴き、起業研究と企業研究の重要性を比較しながら、自己の歩むべき方向性を絞る。 3. 様々な生き方を理解して、自ら実践すべき必須事項を具体的に学習する。 4. モラトリアム期間が短縮された今、3年生でインターンシップ（エントリーシート作成必須）等の就活をしていなければ時間的に厳しいことを認識しなければならない。 5. 準備学習と自己分析は待たなしの状況下であり、その必要性を理解する。 6. スピーチ・討議等に挑戦してもらい、幅広い知識・語彙力、協調性、リーダーシップ力、アピール力などを学ぶと同時に、自分自身のキャリアをデザインしていく。 	
スタディツアー-1	<p>「アジア言語圏の文化各論3」を踏まえ、日中間にいかにも深く長い交流が紡がれてきたかを確認する。（引率教員2名・事前事後学習も行う。）</p> <p>中国と最も深く長い交流関係を持つ日本の都市、長崎を訪問し、関連史跡や博物館を見学することで、両国に関する歴史観を新たにする。</p>	集中
スタディツアー-3	<p>This intensive summer course is a mixture of lectures and field trips, with emphasis on the latter. The field trips include visits to peace museums in Tokyo area, such as the Museum of Tokyo Firebombing and the Daigo Fukuryumaru Exhibition Hall, in addition to travelling to Hiroshima and Nagasaki. The students will attend the ceremonies conducted by the two cities and visit historic sites such as Okunojima, where the Japanese Imperial Army manufactured poison gas. Students will experience learning on the ground, thinking and discussing the meaning of looking back into the atrocious history of war and destruction, and how peace museums might contribute to learning the lessons of history. Students will study together with exchange students from abroad, the main group of which will be students from American University in Washington, D.C.</p> <p>(和訳) この夏季集中コースは、講義とフィールドトリップを組み合わせたもので、後者に重点を置いている。フィールドトリップには、広島と長崎への旅行に加えて、東京原爆資料館や第五福竜丸展示館など、東京の平和博物館への訪問が含まれる。履修者は、両市が主催する式典に出席し、日本帝国陸軍が毒ガスを製造した大久野島などの史跡を訪れる。戦争と破壊の悲惨な歴史を振り返ることの意味と、歴史の教訓を学ぶために平和博物館がどのように貢献できるかについて、現場で学び、考え、議論する。ワシントンD.C.のアメリカ大学の学生を中心とした海外からの交換留学生と一緒に学ぶ。</p>	集中
スタディツアー-4	<p>アジア学院（栃木県那須町）で、アジア・アフリカからの研修生との有機農法の農作業に従事し、研修生によるレクチャー、研修生とのディスカッションを行う。</p> <p>学校法人アジア学院は、1973年の創設以来アジア・アフリカ・太平洋諸国の農村地域から研修生を招き、座学と有機農業の実践によって地域のリーダーを育てるための教育を行っているキリスト教主義に基づく学校法人である。有機農法の技術を教授するだけでなく、それぞれのコミュニティに仕えるリーダー（Servant Leader）を育てることを使命としており、このユニークな教育をとおして、アジア・アフリカの農村地域の人々が、地域の資源や能力を分かち合い、自らの意思で活用し、自立した共同体を作り出してゆくことを目指している。</p>	集中
オルガン実習2	<p>本学チャペルのオルガン演奏を通してキリスト教と音楽、オルガンの構造と歴史について学び取り、ヨーロッパ文化の礎を理解する。</p>	

Japanese History 1	<p>Japanese visual culture significantly transformed after the nation officially opened its port to the West in 1853. The influx of Western concepts of “fine arts” and establishing essential institutions, such as art exhibition, art gallery, art school, and the academic study of art history, redefined and forged a new identity for those who create artworks. Focusing on various “artists” who engaged in the artistic enterprise in this ever-changing age of modernization, this course traces such artists’ challenges through examining their works.</p> <p>(和訳) 日本の視覚文化は、1853年に日本が正式に西洋に開港した後、大きく変化した。西洋の「美術」の概念が流入し、美術展、美術館、美術学校、芸術の学術研究などの重要な機関が設立された。歴史を再定義し、アートワークを作成する人々の新しいアイデンティティが構築された。刻々と変化する近代化の時代に芸術活動を行ったさまざまな「芸術家」に焦点を当て、作品を通してその挑戦をたどる。</p>	
Japanese History 2	<p>Japanese visual culture has been formed through ceaseless negotiations with foreign ideas, technology, and artistic creations. More than one hundred years ago, Okakura Kakuzō (Tenshin) accurately elucidated these essential features of Japanese art in his epoch-making book <i>The Ideals of the East</i>, published in 1903. Using this Okakura’s text as a guide, this course will trace the chronology of Japanese visual culture over time, paying attention to the global context of its creation.</p> <p>(和訳) 日本の視覚文化は、海外のアイデアや技術、芸術作品との絶え間ない交渉によって形成されてきた。100年以上前、岡倉覚蔵(天心)は、1903年に出版された画期的な著書「東洋の理想」で、これらの日本美術の本質的な特徴を正確に解明した。このコースでは、この岡倉のテキストをガイドとして使用して、日本の視覚文化の変遷を、その創造のグローバルな文脈に注意を払いながら、年表を追跡する。</p>	
Japanese History 5	<p>This is course is a survey of premodern Japanese poetry. Students will read classical Japanese poetry in English. Students will discuss the historic, aesthetic, religious and socio-political context of different literary periods to gain a better understanding Japanese literature.</p> <p>(和訳) このコースは、前近代の日本の詩を調査するものである。履修者は英語で日本の古典詩を読み、さまざまな文学時代の歴史的、美的、宗教的、社会政治的文脈について話し合い、日本文学をよく理解する。</p>	
Japanese History 6	<p>This is course is a survey of post-Meiji era (modern) Japanese poetry. Students will read classical Japanese poetry in English. Students will discuss the historic, aesthetic, religious and socio-political context of different literary periods to gain a better understanding Japanese literature.</p> <p>(和訳) このコースは、明治以降の日本の詩を概観するものである。履修者は英語で日本の古典詩を読む。また、さまざまな文学時代の歴史的、美的、宗教的、社会政治的文脈について話し合い、理解を深める。</p>	
Japanese Society 5	<p>Education plays a central role in the development of society and holds the key to its future. This is a course for students who wish to study issues related to contemporary Japanese education and society. By taking this course, students will learn about the Japanese education system, policy and practice, and relevant social contexts. Students will examine recent educational reforms and underlying principles and rationales from a comparative and international perspective. They will also analyse some of the current controversies surrounding education in Japan.</p> <p>(和訳) 教育は社会の発展において中心的な役割を果たし、その未来の鍵を握っている。現代の日本の教育や社会について学びたい学生のためのコース。このコースを受講することにより、履修者は日本の教育制度、政策と実践、および関連する社会的背景について学ぶ。また、比較および国際的な観点から、最近の教育改革とその根底にある原則と理論的根拠を調べる。また、日本の教育をめぐる現在の論争についても分析する。</p>	

		Japanese Society 6	This course focuses on current Japanese pop culture. You will learn Japanese culture, language and the Japanese way of thinking in the context of movies, manga and music. You will also see Japan from the past, present and future in a way that is both fun and educational. (和訳) このコースは、現在の日本のポップ カルチャーに焦点を当てている。映画、漫画、音楽を通して、日本の文化、言葉、日本人の考え方を学ぶ。また、過去、現在、未来の日本を楽しく学べる方法で見ることができる。	
		Current Issues 3	This course examines current issues in contemporary Japanese society. In the spring semester, we will focus on how the pandemic has impacted various segments of society. (和訳) このコースでは、現代日本社会の現在の問題を考察する。春学期では、パンデミックが社会のさまざまな部分にどのような影響を与えたかに焦点を当てる。	
		Current Issues 4	This course examines current issues in contemporary Japanese society. In the fall semester, we will focus on various social issues around family, education, economy, gender, aging, and work in Japanese society. (和訳) このコースでは、現代日本社会の現在の問題を考察する。秋学期では、日本社会における家族、教育、経済、ジェンダー、高齢化、仕事など、さまざまな社会問題に焦点を当てる。	
	発展科目	アジア・日本研究A	朝鮮半島は1945年8月、日本の植民地支配から解放されました。しかし、その後の朝鮮半島の歩みは決して平坦なものではなく、南北の分断、朝鮮戦争の勃発と停戦、戦後の社会主義建設（北）、軍事クーデターと民主化（南）など、波乱に満ちたものであった。この演習では朝鮮半島の激動の現代史について、書物や論文に加えて、映像や小説、詩なども積極的に取り上げる。	
		アジア・日本研究B	朝鮮半島は1945年8月、日本の植民地支配から解放された。しかし、その後の朝鮮半島の歩みは決して平坦なものではなく、南北の分断、朝鮮戦争の勃発と停戦、戦後の社会主義建設（北）、軍事クーデターと民主化（南）など、波乱に満ちたものであった。この演習では朝鮮半島の激動の現代史について、書物や論文に加えて、映像や小説、詩なども積極的に取り上げる。	
	特別学科科目	社会学概論A	社会学史や社会学の基本概念をふまえて、現代社会において私たちが直面する出来事や問題に対する分析視角（ものの見方）を身につけることを目指す。具体的には、ライフスタイルとキャリア、日本の雇用慣行、転職、雇用形態と働き方の多様化などに関する「働くこと」の社会的な考察を通して、社会の重要課題・問題について理解を深めていく。	
		社会学概論B	社会学史や社会学の基本概念をふまえて、現代社会において私たちが直面する出来事や問題に対する分析視角（ものの見方）を身につけることを目指す。具体的には、性別役割分業、ジェンダー、労働時間とワークライフバランス、少子高齢化、グローバル化などに関する「働くこと」の社会的な考察を通して、社会の重要課題・問題について理解を深めていく。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人明治学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員
明治学院大学				
文学部	英文学科	225	-	900
	フランス文学科	115	-	460
	芸術学科	165	-	660
経済学部	経済学科	325	-	1,300
	経営学科	210	-	840
	国際経営学科	155	-	620
社会学部	社会学科	245	-	980
	社会福祉学科	245	-	980
法学部	法律学科	200	-	800
	政治学科	155	-	620
	消費情報環境法学科	225	-	900
	グローバル法学科	65	-	260
国際学部	国際学科	245	-	980
	国際キャリア学科	55	-	220
心理学部	心理学科	175	-	700
	教育発達学科	145	-	580
計		2,950		11,800

令和6年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
明治学院大学					
文学部	英文学科	225	-	900	
	フランス文学科	115	-	460	
	芸術学科	165	-	660	
経済学部	経済学科	325	-	1,300	
	経営学科	210	-	840	
	国際経営学科	155	-	620	
社会学部	社会学科	245	-	980	
	社会福祉学科	245	-	980	
法学部	法律学科	200	-	800	
	政治学科	155	-	620	
	消費情報環境法学科	225	-	900	
	グローバル法学科	65	-	260	
国際学部	国際学科	245	-	980	
	国際キャリア学科	55	-	220	
心理学部	心理学科	175	-	700	
	教育発達学科	145	-	580	
情報数理学部 情報数理学科		80		320	学部の設置(認可申請)
計		3,030		12,120	

明治学院大学大学院				
文学研究科	英文学専攻(M)	10	-	20
	英文学専攻(D)	2	-	6
	フランス文学専攻(M)	8	-	16
	フランス文学専攻(D)	3	-	9
芸術学専攻	芸術学専攻(M)	10	-	20
	芸術学専攻(D)	5	-	15
経済学研究科	経済学専攻(M)	10	-	20
	経済学専攻(D)	3	-	9
	経営学専攻(D)	3	-	9
社会学研究科	社会学専攻(M)	10	-	20
	社会学専攻(D)	2	-	6
	社会福祉学専攻(M)	10	-	20
	社会福祉学専攻(D)	3	-	9
法学研究科	法律学専攻(D)	5	-	15
国際学研究科	国際学専攻(M)	10	-	20
	国際学専攻(D)	2	-	6
心理学研究科	心理学専攻(M)	20	-	40
	心理学専攻(D)	4	-	12
	教育発達学専攻(M)	10	-	20
法と経営学研究科	法と経営学専攻(M)	20	-	40
計		150		332

明治学院大学大学院				
文学研究科	英文学専攻(M)	10	-	20
	英文学専攻(D)	2	-	6
	フランス文学専攻(M)	8	-	16
	フランス文学専攻(D)	3	-	9
芸術学専攻	芸術学専攻(M)	10	-	20
	芸術学専攻(D)	5	-	15
経済学研究科	経済学専攻(M)	10	-	20
	経済学専攻(D)	3	-	9
	経営学専攻(D)	3	-	9
社会学研究科	社会学専攻(M)	10	-	20
	社会学専攻(D)	2	-	6
	社会福祉学専攻(M)	10	-	20
	社会福祉学専攻(D)	3	-	9
法学研究科	法律学専攻(D)	5	-	15
国際学研究科	国際学専攻(M)	10	-	20
	国際学専攻(D)	2	-	6
心理学研究科	心理学専攻(M)	20	-	40
	心理学専攻(D)	4	-	12
	教育発達学専攻(M)	10	-	20
法と経営学研究科	法と経営学専攻(M)	20	-	40
計		150		332